

授業科目名	教養特別講座	科目コード	G0107L07
英文名	Liberal arts of special course		

科目区分	共存・共生へのアプローチ科目 - 社会生活基礎科目		
------	---------------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	尾畑 納子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	1年・2年・3年・4年後期集中	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>現代社会では情報技術（IT）の普及により、自分の声、直筆による自己表現や創作活動による表現の機会が減っています。この講義では、上手に自分らしく自己を「表現」することができるためのヒントを提供する機会とします。相手とどのようなコミュニケーション手法が望ましいのか。とりわけ、グローバル化社会において、価値観や言語が異なる世界の人々との交流も含め、皆さんにとって自分らしさの自己表現の在り方を探り、人間力の向上を目指します。各回の講義は、各分野の専門家が講師を務めます。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	表現手法	コミュニケーション	人間力	マナー
-------	------	-----------	-----	-----

到達目標	「自己表現する」ための手法について、さまざまな手法とその特色を知ることができる。		
	自分の特徴や長所を把握・再発見して、より自分らしい表現方法を身に付けることができる。		

ディプロマポリシー	1. 「人」としての能力（人間性の向上）	
カリキュラムポリシー	現代社会に必要な基礎知識の向上	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	「教養特別講義」についてオリエンテーション（富山国際大学 現代社会学部 教授 尾畑 納子） 本講義の開設の主旨として、表現の在り方やより良いコミュニケーションについて学ぶ機会として欲しい。スケジュールについて説明する。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	「マナー・しぐさ」とコミュニケーション（富山国際大学客員准教授 斎藤 敏子 氏） ことばと態度を融合させた、しぐさやマナーの視点から伝えるコツを聞く。	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	「マナーとしぐさ」とコミュニケーション	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	「マナーとしぐさ」とコミュニケーション	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	本時のまとめ	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	現代のマスコミ（文字表現）とコミュニケーション(富山国際大学 現代社会学部 教授 渡部恵子)	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	万葉時代のコミュニケーション・“恋歌”を詠む 家持を中心に（高岡市万葉歴史館 学芸課長 新谷秀夫 氏）	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	外国人から見る日本人とのコミュニケーション（留学生・富山国際大学 現代社会学部 教授 尾畑納子）	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	言葉（テレビ、ラジオ）とコミュニケーション（富山国際大学 後援会長 佐藤栄治 氏）	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	本時のまとめ	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	「顔の表情」とコミュニケーション (sukai美科学研究所代表、日本顔学会会長 菅沼 薫 氏) 顔の表情など科学的な視点から講義を行う。	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	「顔の表情」とコミュニケーション	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	「顔の表情」とコミュニケーション	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	「顔の表情」とコミュニケーション	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	総括 (富山国際大学 現代社会学部 教授 尾畑 納子) 全体の講義を通して、質疑応答・取りまとめを行う。	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業時間中の課題（40％）、最終課題レポート（60％）		
使用資料 <テキスト>	授業の時にレジюмеや資料を配布します。	使用資料 <参考図書>	授業の中で指示します。
授業外学修等	<p>集中講義のため、1日の授業が終了したら、その日の学びの内容について、事後の復習を必ず行い（15分程度）次回の内容につなげてください。授業の開講期間中に美術館・資料館等（どこでも可）での鑑賞と感想レポート（400字程度）提出してください。</p> <p>学外講師の都合で各回の順番が変更になることがあることをあらかじめ了承下さい。</p>		
授業外質問方法	講義をしたそれぞれの教員へ直接質問してください。また、email:obata@tuins.ac.jpへ。		
オフィス・アワー	木曜日午前中		

授業科目名	キャリア支援講座b	科目コード	G0603L05
英文名	Future Career Support Program b		

科目区分	キャリア科目 - キャリア科目		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 哲郎
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	水曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	学部必修	単位数	1単位

授業の概要	後期bでは、前期aにインプットした基礎的な内容を実践的な授業を展開していきます。 なお、外部講師の都合等によりスケジュールが変更となる場合があります。			
-------	--	--	--	--

キーワード	就職活動	キャリアモデル	自己分析	企業研究	実践指導
-------	------	---------	------	------	------

到達目標	1. 就職活動や就業時に必要となる基本的な知識やマナーの実践
	2. 履歴書やエントリーシートの作成、グループディスカッションや模擬面接等の実践
	3. 本学卒業生や企業担当者との交流による企業研究の実践

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	自己分析 履歴書の書き方(2)	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	自己分析 就職活動の進め方	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	実践講座 スーツの着こなし方講座	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	実践講座 - 図書館 県内企業紹介(Tターンカフェ・OB交流会)	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	業種・職種・企業研究 - 図書館 インターンシップ報告会	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	実践講座 動画選考対策(動画エントリー・WEB面接等)	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	自己分析 / 実践講座 SPIプレテスト/マナーとプレゼン技術	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	自己分析 / 実践講座 SPIプレテスト/マナーとプレゼン技術	
	【予習】	
	【復習】	

第9回	業種・職種・企業研究 就職活動体験談（4年生による報告）	
	【予習】	
	【復習】	
第10回	実践講座 模擬面接実習（1） 12月17日～12月24日	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	実践講座 電話・メール・送付状・礼状の書き方	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	キャリアモデル形成 就職活動に向けて	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	実践講座 模擬面接実習（2） 1月11日～1月21日	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	キャリアモデル形成 学内企業研究会の説明&労働法について	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	業種・職種・企業研究 / 実践講座 学内就活イベント（2月に予定）	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	出席、受講態度、提出物、授業ごとのレポート、指定するイベント等への参加、後期末試験等、トータルで評価		
使用資料 <テキスト>	授業ごとにレジュメを配布	使用資料 <参考図書>	なし
授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを振り返り、就活イベントや短期の職場体験等に参加して就職活動につなげましょう。 ・就職試験対策として「Tuins eラーニング」を積極的に活用しましょう。 		
授業外質問方法	キャリア支援センター職員、就職アドバイザーとの面談 メール等での質問対応 (takahasi@tuins.ac.jp、yamada@tuins.ac.jp)		
オフィス・アワー	月～金曜日 1～5時限		

授業科目名	キャリア支援講座a	科目コード	G0603P04
英文名	Future Career Support Program a		

科目区分	キャリア科目 - キャリア科目		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 哲郎
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	水曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	学部必修	単位数	1単位

授業の概要	前期aでは、就職活動や就業時に必要となる基礎的な知識の習得を目指します。内容は多様です。なお、外部講師の都合等によりスケジュールが変更となる場合があります。			
-------	--	--	--	--

キーワード	就職活動	キャリアモデル	自己分析	企業研究	実践指導
-------	------	---------	------	------	------

到達目標	1. 就職活動や就業時に必要となる基本的な知識の習得
	2. 履歴書指導やエントリーシート作成等による自己分析
	3. 企業訪問等による企業研究

ディプロマポリシー	4. 社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	キャリアモデル形成（株式会社マイナビ） 就職活動に役立つ検索サイトの利用について	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	キャリアモデル形成（株式会社アイバック） 就職活動の基礎講座	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	キャリアモデル形成（株式会社リクルートキャリア） 就職活動の準備講座	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	実践講座（ライズ株式会社） TUINS eラーニングの活用（オンラインによるリモート授業）	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	自己分析（株式会社マイナビ） 自己分析の方法とワーク	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	業種・職種・企業研究（株式会社アイバック） 企業研究講座	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	実践講座（河西講師） 就職試験プレテスト（1）	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	自己分析 / 実践講座（株式会社リクルートキャリア） エントリーシートの書き方講座（オープンエントリーシート含む）	
	【予習】	
	【復習】	

第9回	自己分析（株式会社ディスコ） 職務適性テスト・進路登録カード	
	【予習】	
	【復習】	
第10回	自己分析 / 実践講座（中川アドバイザー） 履歴書の書き方（1）	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	自己分析（株式会社ディスコ） 職務適性テストの活用方法	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	実践講座（河西講師） 就職試験プレテスト（2）	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	業種・職種・企業研究（本学卒業生） OB/OGの仕事への取組み	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	業種・職種・企業研究 / 実践講座 1day仕事体験、合同企業訪問等（9月15日まで）	
	【予習】	
	【復習】	
第15回		
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	出席、受講態度、提出物、授業ごとのレポート、指定するイベント等の参加、前期末試験等、トータルで評価		
使用資料 <テキスト>	授業ごとにレジュメを配布	使用資料 <参考図書>	なし
授業外学修等	学んだことを振り返り、夏やすみに1day仕事体験や合同企業訪問に参加し、企業研究を深めましょう。 自身の強み、弱み、これまでの学校生活を振り返り、自己分析を深めましょう。		
授業外質問方法	学んだことを振り返り、夏やすみに1day仕事体験や合同企業訪問に参加し、企業研究を深めましょう。 自身の強み、弱み、これまでの学校生活を振り返り、自己分析を深めましょう。		
オフィス・アワー	月～金曜日 1～5時限		

授業科目名	環境・社会・企業と倫理	科目コード	G1103P04
英文名			

科目区分	学部共通科目 - 基礎科目		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	大谷 孝行
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	学部必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>人が何をすべきであり、何をしてはいけないかという倫理を、社会で生起する様々な視点から考察します。特に、環境倫理、企業倫理、社会生活での倫理の立場から考えることにより、良識ある市民とし行動できる基礎を培います。なお、企業倫理に関する回では、企業での実務経験のある方を講師として授業を行います。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	環境倫理	企業倫理	内観		
-------	------	------	----	--	--

到達目標	現代社会で起こっている環境問題を、人として行うべき倫理という立場から考えることができる。		
	社会生活を送る上で重要な、他者の立場に立って物事を考えることができる。		
	企業におけるコンプライアンス（法令遵守）やCSR（企業の社会的責任）についての実際を知り、倫理的側面から企業活動を考えることができる。		

ディプロマポリシー	1. 「人」としての能力（人間性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション。この授業で扱うこと。 複雑化した現代社会の中で、私たちがどのように生きるべきか、してはいけないことは何かという倫理の問題を考える。 2021シラバス簡易版	
	【予習】	
	【復習】「環境倫理」、「情報倫理」、「コンプライアンス」という用語について調べ、語の理解を深めておく。	40分
第2回	環境問題と倫理（1） 環境倫理学とはどのような学問か？ 人間が様々な生物や物とのつながりの中で生きていることを知る。アルド・レオポルドの「土地倫理」。生態系。人間は動物とどのように関わりながら生きていけばよいのか？ ピーター・シンガーの「動物の権利」。人間中心主義に対する検討。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。 配付資料20210415権利拡張の年表	
	【予習】アルド・レオポルドがどのような人物であるか、その経歴について調べておく。	30分
	【復習】日頃の生活の中で見過ごしてきた「人間中心主義」について具体例を挙げて改善策を考える。	40分
第3回	環境問題と倫理（2） 人間の経済活動と環境負荷の問題を考える。レイチェル・カーソンの『沈黙の春』。生物濃縮。日本の公害問題。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。 レジュメカーソン・プロフィール	
	【予習】「生物濃縮」という用語について調べ、公害との関係を考える。	30分
	【復習】レイチェル・カーソンが自分の研究成果を公表することによって生じた企業との軋轢について調べる。	40分
第4回	環境問題と倫理（3） 子や孫の世代のことを考える。世代間倫理。未来世代への責任。ハンス・ヨナスの思想。地球温暖化問題。アル・ゴア『不都合な真実』。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。 授業レジュメ「不都合な真実」	
	【予習】「世代間倫理」という用語を調べ、この用語が提起した問題の新鮮さについて考えておく。	30分
	【復習】アル・ゴアの研究成果に関わる賛否両論について調べる。	40分
第5回	環境問題と倫理（4） 日本人が伝統的に培ってきた自然観とは？日本語と日本文化の観点から、自然との関係を考える。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。 授業レジュメ干と干尋の神隠し宮崎駿の地平	
	【予習】「山川草木」、「花鳥風月」と密接に関わっている日本文化には、どのようなものがあるのかを調べておく。	30分
	【復習】自然を愛する特徴をもった日本文化の例を挙げて、なぜそう言えるのかを説明できるようにする。	40分
第6回	社会生活上の倫理を考える（1）～生命倫理を考える～ 安楽死の問題。積極的安楽死と消極的安楽死。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。 授業レジュメ	
	【予習】「積極的安楽死」、「消極的安楽死」という用語について調べておく。	30分
	【復習】森鷗外の『高瀬舟』について、その内容を調べ、安楽死問題とどのような関係があるのかを考える。	40分

第7回	<p>社会生活上の倫理を考える(2)～倫理教育としての内観～ 日本の伝統的な自己洞察法である内観が果たす倫理教育としての面を取り上げる。他者の立場に立つということや、健全な罪意識について考える。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。 授業シジュム 養育費の計算 道のうた</p>	
	【予習】「内観」はどのような方法で行われるのかを調べておく。	30分
	【復習】小学校時代の自分について、親に対する内観3項目を調べる。	40分
第8回	<p>社会生活上の倫理を考える(3)～笑い倫理～ 笑いには攻撃性を含む笑いがあり、人を精神的に傷つける場合もある。笑いのもつ攻撃性やそれを利用する風刺の笑いについて考える。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。 笑いの倫理 配付用 薔薇の名前(映画)</p>	
	【予習】笑いに関する「優越の理論」について調べておく。	30分
	【復習】権力者に対する批判として使われた風刺としての笑いについて、その例を挙げる。	40分
第9回	<p>社会生活上の倫理を考える(4)～メディアの倫理を考える～ メディアにおける留意すべき倫理的問題の色々な事例を挙げながら、すべきこと・してはならないことについて考える。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。</p>	
	【予習】メディアを巡る倫理的問題について、どのような事例が想定されるかを予め考えておく。	30分
	【復習】メディアを巡る倫理的問題について、それに関連した社会的な事例がないかを、ニュースや新聞記事から探す。	40分
第10回	<p>社会生活上の倫理を考える(5)～情報倫理を考える～ 社会生活を送る上で留意すべき情報倫理に関する色々な問題や事例を挙げながら、すべきこと・してはならないことについて考える。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。</p>	
	【予習】情報に関わる倫理的問題について、どのような事例が想定されるかを予め考えておく。	30分
	【復習】情報に関わる倫理的問題について、それに関連した社会的な事例がないかを、ニュースや新聞記事から探す。	40分
第11回	<p>企業倫理を考える(1) 県内企業・組織(宿泊業界)の方に、企業活動・組織活動において、特にコンプライアンスやCSRという観点から留意すべき事例を挙げていただき、すべきこと・してはならないことについて考える。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。 講師：富山県内の宿泊業界に関わる実務経験のある講師 企業倫理 資料20210624</p>	
	【予習】業界での倫理的問題について、どのような事例が想定されるかを予め考えておく。	30分
	【復習】業界での倫理的問題について、それに関連した社会的な事例がないかを、ニュースや新聞記事から探す。	40分
第12回	<p>企業倫理を考える(2) 県内企業・組織(金融業界)の方に、企業活動・組織活動において、特にコンプライアンスやCSRという観点から留意すべき事例を挙げていただき、すべきこと・してはならないことについて考える。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。 講師：富山県内の金融業界に関わる実務経験のある講師 企業倫理(銀行の業務)</p>	
	【予習】業界での倫理的問題について、どのような事例が想定されるかを予め考えておく。	30分
	【復習】業界での倫理的問題について、それに関連した社会的な事例がないかを、ニュースや新聞記事から探す。	40分

第13回	<p>企業倫理を考える（3） 県内企業・組織（エネルギー業界）の方に、企業活動・組織活動において、特にコンプライアンスやCSRという観点から留意すべき事例を挙げていただき、すべきこと・してはならないことについて考える。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。</p> <p>講師：富山県内のエネルギー業界に関わる実務経験のある講師</p> <p>企業のCSR（エネルギー業界）</p>	
	【予習】業界での倫理的問題について、どのような事例が想定されるかを予め考えておく。	30分
	【復習】業界での倫理的問題について、それに関連した社会的な事例がないかを、ニュースや新聞記事から探す。	40分
第14回	<p>企業倫理を考える（4） 県内企業・組織（卸売業界）の方に、企業活動・組織活動において、特にコンプライアンスやCSRという観点から留意すべき事例を挙げていただき、すべきこと・してはならないことについて考える。 理解度を自己確認できるようにするため、授業中に Google Form を使った小テストを行います。</p> <p>講師：富山県内の卸売業界に関わる実務経験のある講師</p> <p>企業倫理（卸売業界）</p>	
	【予習】業界での倫理的問題について、どのような事例が想定されるかを予め考えておく。	30分
	【復習】業界での倫理的問題について、それに関連した社会的な事例がないかを、ニュースや新聞記事から探す。	40分
第15回	<p>総まとめ これまでの授業内容を振り返りながら、今一度、現代社会の中で、私たちがどのように生きるべきか、してはいけないこととは何かという倫理の問題を考える。 シラバス簡易版</p>	
	【予習】	
	【復習】これまでの授業で取り上げられた倫理的問題を、特にキーワードに注意しながら考え、今一度、現代社会の中で、私たちがどのように生きるべきか、してはいけないこととは何かという倫理の問題を考える。	40分
第16回	期末試験	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>到達目標1については、授業中に指定する課題を中心に評価します。 到達目標2については、授業中に指定する課題と期末筆記テストで評価します。 到達目標3については、授業中に指定する課題と期末筆記テストで評価します。 評価比率は、課題(50%)、期末筆記テスト(50%)。 なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。</p>
------	--

使用資料 <テキスト>	特に使用しません。	使用資料 <参考図書>	授業中、随時指摘します。
----------------	-----------	----------------	--------------

授業外学修等	毎回の予習・復習をしっかりとすること。
--------	---------------------

授業外質問方法	オフィスアワーの時間帯を使って質問してください。
---------	--------------------------

オフィス・アワー	月曜日3限、研究室324。
----------	---------------

授業科目名	インターナショナルプログラム（長期）	科目コード	G1306F09
英文名	International Programs (long-term)		

科目区分	学部共通科目 - 国際交流科目		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	尾畑 納子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	1年・2年・3年通年	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	12単位

授業の概要	<p>本プログラムは、原則として3か月以上、1年以下の留学プログラムである。留学先は、フランス、オーストラリア、マルタ、米国、カナダ、中国、韓国等の本学との提携校である。現地での語学研修のプログラム内容は留学先で異なるが、派遣前指導、派遣後指導を行い、受講時間数ならびに成績によって単位を与える。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	語学のスキルアップ	異文化理解		
-------	-----------	-------	--	--

到達目標	語学研修プログラムを通して、語学のスキルアップを図る。		
	ホームステイや学生寮での生活を通して、現地の人々との交流を図る。		

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	派遣前指導、派遣先大学の状況、生活等について説明。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第16回	事後指導、本学における単位認定請求の資料作成。	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	現地研修の時間数や成績に応じて、単位を与える。評価は、認定単位 (P)とする。		
使用資料 <テキスト>		使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法			
オフィス・アワー			

授業科目名	インターナショナルプログラム（短期）	科目コード	G1306F10
英文名	International Programs (short-term)		

科目区分	学部共通科目 - 国際交流科目		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	尾畑 納子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	1年・2年・3年通年	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	12単位

授業の概要	<p>本プログラムは、2週間～5週間の留学プログラムである。留学先は、フランス、オーストラリア、マルタ、米国、カナダ、中国、韓国等の本学との提携校である。現地での語学研修のプログラム内容は留学先で異なるが、派遣前指導、派遣後指導を行い、受講時間数ならびに成績によって単位を与える。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	語学のスキルアップ	異文化理解		
-------	-----------	-------	--	--

到達目標	語学研修プログラムを通して、語学のスキルアップを図る。		
	ホームステイや学生寮での生活を通して、現地の人々との交流を図る。		

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	派遣前指導、派遣先大学の状況、生活等について説明。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	現地研修、それぞれの派遣校のプログラムに従い、語学の4技能を伸ばす。	
	【予習】	
	【復習】	
第16回	事後指導、本学における単位認定請求の資料作成。	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	現地研修の時間数や成績に応じて、2～4単位を与える。評価は、認定単位(P)とする。		
使用資料 <テキスト>		使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法			
オフィス・アワー			

授業科目名	観光中国語	科目コード	G2203L03
英文名	Tourism Chinese		

科目区分	観光専攻科目 - コミュニケーション		
------	--------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	湯 麗敏
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	水曜日	時限	2限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>一年間中国語を勉強された皆さん向けの観光中国語の授業では、今まで習ったものをしっかりと復習しながら新しいものを勉強していく形で授業を進めていきます。教科書を使いながら、また中国語版の観光資料も教材として活用したいと思います。対話型の授業、グループ学習を心がけて、受講生の中国語の応用力と異文化理解コミュニケーション力を養います。</p>		
-------	---	--	--

キーワード	中国語	応用力	異文化理解	コミュニケーション
-------	-----	-----	-------	-----------

到達目標	中国語の基礎文法を正しく応用ができる。
	中国人と日常的な会話ができる。
	辞書を調べながら一般的な中国語の資料が読み、簡単な通訳もできるように目指す。

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	中国語1・ で習ったのを復習する	
	【予習】発音、声調、子音、母音、(単母音、複母音)	30分
	【復習】基本文型、判断文と叙述文、文の並び方	30分
第2回	第1課 はじめまして 姓・名の言い方	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容12頁～14頁	30分
	【復習】役に立つ言葉プラス9、練習	30分
第3回	第2課 チェックイン 時間の長さ・回数の言い方	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容20頁～22頁	30分
	【復習】役に立つ言葉プラス9、リスニング練習、ホテル予約に必要な会話	30分
第4回	第3課 タクシーに乗る 月日、曜日の言い方	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容28頁～30頁	30分
	【復習】役に立つ言葉プラス9、作文練習、ロールプレーでタクシーに乗る場合の会話練習	30分
第5回	第4課 両替 可以、「ちょっと～する」の言い方	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容36頁～38頁	30分
	【復習】役に立つ言葉プラス9、両替に役立つ表現	30分
第6回	第5課 料理を注文する 買物するときに使われる「来」	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容44頁～46頁	30分
	【復習】役に立つ言葉プラス9、レストランにて注文に役立つ表現	30分
第7回	第6課 ショッピング 量詞の使い方	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容52頁～54頁	30分
	【復習】ショッピングに役立つ表現	30分
第8回	復習・中間テスト 1課～6課	
	【予習】文の作り方、文の並び方、作文練習	30分
	【復習】中国語の表現方法、テーマごとの会話練習	30分
第9回	第7課 値切り 太～了の使い方、可能補語	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容60頁～62頁	30分
	【復習】役に立つ言葉プラス9、「値切り」に役立つ表現	30分

第10回	第8課 道を尋ねる 前置詞、疑問視のまとめ	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容68頁～70頁	30分
	【復習】「道を尋ねる」時に役立つ表現	30分
第11回	第9課 ファーストフード店 方向補語、「在」のまとめ	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容76頁～78頁	30分
	【復習】「ファーストフード店での食事」に役立つ表現	30分
第12回	第10課 乗車券を買う 結果補語、「有」のまとめ	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容84頁～86頁	30分
	【復習】「乗車券を買う」時に役立つ表現	30分
第13回	第11課 頼みごと 使役表現、「給」のまとめ	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容92頁～94頁	30分
	【復習】「頼みごと」に役立つ表現	30分
第14回	第12課 落とし物 助詞「着」、「是～的」構文	
	【予習】ポイント、ドリル、チェックシートの内容100頁～102頁	30分
	【復習】「非常事態」に役立つ表現	30分
第15回	復習 7課～12課	
	【予習】50頁～105頁の内容	30分
	【復習】本文、新出語句、文型、会話	30分
第16回	期末テスト	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>期末テスト50%、授業態度、積極性、課題完成度50%、で総合的に評価します。 ディプロマポリシーに関しては、人間性10%、社会性20%、専門性70%で評価します。到達目標については富山国際大学成績評価基準に従って評価します。</p>		
使用資料 <テキスト>	陳淑梅・他『新訂版 中国のひとり旅 入門で習った言葉でしゃべってみよう』	使用資料 <参考図書>	「日中辞典」「中日辞典」小学館
授業外学修等	<p>きちんと復習と予習をしてから授業に臨んでください。積極的に習った中国語を使って留学生と会話をしましょう。</p>		
授業外質問方法	<p>質問があったら、いつでも聞いてください。(424湯研究室)</p>		
オフィス・アワー	<p>火曜日2限</p>		

授業科目名	観光英語	科目コード	G2203P02
英文名	Tourism English		

科目区分	観光専攻科目 - コミュニケーション		
------	--------------------	--	--

職名	非常勤講師	担当教員名	碓井 エリザベス
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	金曜日	時限	4限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	With the increase of foreign tourists visiting Japan and Toyama, it is important for students to improve their English skills to be able to communicate with tourists and to be able to introduce Japan and it ' s attractions to visitors.			
-------	---	--	--	--

キーワード	tourism	travel English	Toyama	pair/group work
-------	---------	----------------	--------	-----------------

到達目標	To be able to ask questions and answer them using basic travel English.			
	To be able to introduce Japan and its attractions in English.			

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Introduction to the course/materials/grading	
	【予習】 Be able to introduce yourself in English	60分
	【復習】 Add new vocabulary/expressions to your notebook	30分
第2回	Recommending a tour	
	【予習】 Study Unit 1 Vocabulary and Useful Expressions	60分
	【復習】 Add new vocabulary/expressions to your notebook	40分
第3回	Reading passage; explaining day tours	
	【予習】 Reading passage about Kenya	60分
	【復習】 Research a popular tourist destination country	30分
第4回	Taking a tour booking	
	【予習】 Listening exercise	60分
	【復習】 Add new vocabulary/expressions to your notebook	40分
第5回	Escorting a tour	
	【予習】 Reading about a UNESCO World Heritage Site	60分
	【復習】 Research a UNESCO World Heritage Site in Japan	30分
第6回	Welcoming international tourists	
	【予習】 Research a popular tourist destination in Toyama	60分
	【復習】 Planning your presentation	30分
第7回	Pairwork/groupwork; plan your presentation	
	【予習】 Presentaion planning	90分
	【復習】 Finish planning and practice your presentation	60分
第8回	Presentations	
	【予習】 Practice your presentation	90分
	【復習】 Review your presentation	40分

第9回	Taking an airline reservation	
	【予習】 Reading about online booking sites	60分
	【復習】 Add new vocabulary/expressions to your notebook	30分
第10回	Giving flight information	
	【予習】 Reading an itinerary	60分
	【復習】 Add new vocabulary/expressions to your notebook	30分
第11回	Checking in at the airport	
	【予習】 Reading about airline luggage policies	60分
	【復習】 Add new vocabulary/expressions to your notebook	30分
第12回	In-flight services and safety procedures	
	【予習】 Reading about first-class service	90分
	【復習】 Add new vocabulary/expressions to your notebook	60分
第13回	Taking a room reservation	
	【予習】 Research a tourist area for your final presentation	90分
	【復習】 Add new vocabulary/expressions to you notebook; research your chosen tourist area	60分
第14回	Final presentation planning	
	【予習】 Pairwork/groupwork; plan your presentation	90分
	【復習】 Presentation planning and practice	60分
第15回	Final Presentations	
	【予習】 Pairwork/groupwork; make a PowerPoint presentation	90分
	【復習】 Presentation planning and practice	90分
第16回	Final Presentations	
	【予習】 Practice your presentation	90分
	【復習】	

評価方法	<p>到達目標については富山国際大学成績評価基準に従って評価します。 ・Classwork/Homework (20%); ;Quizzes(30%); Presentations (50%) 【ディプロマポリシー配分比率】 人間性：30%、 社会性：30%、専門性：40%</p>		
使用資料 <テキスト>	English for Tourism Professionals (2019) Fujita, Reiko Cengage Learning	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法	Students can contact me by email: e.usui@icloud.com		
オフィス・アワー			

授業科目名	世界遺産論	科目コード	G2203P02
英文名	Theory of World Heritage		

科目区分	観光専攻科目 - コミュニケーション		
------	--------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	佐藤 悦夫
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	2020年7月現在、世界中で1121件の物件が世界遺産として登録されています。この講義では、世界遺産の登録の仕組みや動向、日本やラテンアメリカの世界遺産の事例、日本における世界遺産の保存・活用などについて講義します。テーマによっては、学生の意見を求めますので積極的に発言してください。			
-------	--	--	--	--

キーワード	世界遺産学	平泉	五箇山	テオティワカン	マチュピチュ
-------	-------	----	-----	---------	--------

到達目標	世界遺産の登録のシステムや日本の世界遺産を理解します。			
	ラテンアメリカを事例として世界遺産研究状況、活用の状況、認識の状況を理解します。			
	世界遺産の今後の在り方を検討します。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス 15回の授業内容及び評価方法についての説明を行う。また、基本的な参考文献、最近の世界遺産に関する話題を開説する。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	世界遺産とは何か 世界遺産の歴史、ユネスコの登録システムを理解する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第3回	日本の世界遺産と登録の動向 日本の世界遺産について概観し、問題点について考察する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第4回	世界遺産、平泉の保全と活用 平泉の現状と課題について検討する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第5回	世界遺産、五箇山の保全と活用 五箇山の現状と課題について検討する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第6回	日本の世界遺産のまとめとまとめシートの作成	
	【予習】 今まで調べたキーワードの内容を発表できるように整理する。	60分
	【復習】	
第7回	メキシコの世界遺産-1 メキシコの歴史を概観し、なぜ遺跡が世界遺産に多く登録されているのかを考える。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第8回	メキシコの世界遺産-2 メキシコの世界遺産のビデオを見ながら、現代都市が世界遺産に登録されるのと古代都市が世界遺産に登録されるのでは何が異なるのかを考える。	
	【予習】	
	【復習】 (6) 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分

第9回	メキシコの世界遺産-3 テオティワカン遺跡の研究の状況を概観する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第10回	メキシコの世界遺産-4 テオティワカン遺跡、月のピラミッドの発掘を事例に、世界遺産の価値の研究がどのように行われているのかを考える。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第11回	メキシコの世界遺産-5 テオティワカン遺跡のビデオをみながら、文明の起源に関する新しい知見を検討する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第12回	ペルーの世界遺産-1 マチュピチュを事例になぜ日本人に人気があるのかを考える。	
	【予習】	
	【復習】 (10) 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第13回	ラテンアメリカのまとめとまとめシートの作成 ラテンアメリカのそれぞれの地域において、世界遺産がどのように認識されまた活用されているのかを理解する。日本との違いについて理解する。	
	【予習】 今まで調べたキーワードの内容を発表できるように整理する。	
	【復習】	
第14回	世界遺産学の構築 教員が考えている世界遺産学の構築について説明する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第15回	全体のまとめ 14回の授業全体の振り返りを行い、到達目標を確認する。	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への参加度(30%)、小レポート(15%)、期末レポート(55%) また、ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：10%、社会性：10%、専門性：80%で評価します。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料 <テキスト>	なし	使用資料 <参考図書>	授業の最初の時間にガイダンスを行い、参考図書等について説明します。
授業外学修等	世界遺産に関する新聞記事等を読んでください。また、希望者には、7月の世界遺産検定の指導を行いますので、積極的に受験してください。		
授業外質問方法	授業終了後ならびにオフィスアワー以外でも研究室に滞在中はいつでも質問を受け付けます。		
オフィス・アワー	火曜日 1 時限 (9 : 30 ~)		

授業科目名	民族・文化と観光	科目コード	G2303L03
英文名	Ethnic and Cultural Tourism		

科目区分	観光専攻科目 - 観光資源		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	佐藤 悦夫
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	この授業では、観光社会学や観光人類学の成果を踏まえ、今日の観光現象を深く考えます。例えば、「私たちが観光地で観ているものは何か?」とか「そもそも観光文化とは何か?」というような、日常的にはあまり考えない事柄に対して深く考える試みを行います。また、遠野に伝わる昔話に学術的価値を見出した柳田國男、普段使われる日常品に美を見出した柳宗悦などを取りあげ観光資源に対する新しい視点を考えたい。			
-------	--	--	--	--

キーワード	観光文化	柳田国男	柳宗悦	博物館	エコミュージアム
-------	------	------	-----	-----	----------

到達目標	観光文化の特徴を理解できる(25%) (授業中の発言、小レポートで評価)。			
	民族(俗)文化の活用の仕方や見せ方を理解できる(25%) (授業中の発言、小レポートで評価)。			
	観光資源(観光)とは何かに関して自分の意見を述べる(50%) (期末レポートで評価)			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<p>ガイダンス 15回の授業内容、評価手法について説明する。また、基本的な参考文献、最近の観光文化に関する話題を解説する。</p>	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	<p>文化とは何か 文化の定義に関して説明し、観光文化は文化人類学で定義される文化のなかでどのような位置づけにあるのかを検討する。</p>	
	【予習】	
	【復習】（1）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第3回	<p>観光文化の創出-1：近代観光における観光文化の在り方 アメリカの社会学者D.ブーアスティンの考え方を紹介し、内容に関して議論する。</p>	
	【予習】	
	【復習】（2）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第4回	<p>観光文化の創出-2：本物性と演出された本物 観光地で私たちが見ているものは何か？本物性と演出というキーワードで検討する。</p>	
	【予習】	
	【復習】（3）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第5回	<p>観光文化の創出-3：ふるさとの資源化 そもそも各人の生まれた場所が故郷であったのだが、いつの間にか万人に共通のふるさと像が作られている。なぜそのようなふるさと像が作られるのかを検討する。</p>	
	【予習】	
	【復習】（4）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第6回	<p>まとめ&ディスカッション 観光文化の創出という単元を総括し、観光資源を提示するにあたってどこまで演出可能かをグループで議論する。</p>	
	【予習】（1）～（4）の今まで調べたキーワードの内容を発表できるように整理する。	60分
	【復習】	
第7回	<p>民族文化の活用-1：ラテンアメリカのムンド・マヤ計画 民族文化の活用の事例としてラテンアメリカのムンド・マヤ計画について議論する。</p>	
	【予習】	
	【復習】（5）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第8回	<p>民族文化の活用-2：イメージ形成とブランド化 観光地のイメージ形成とブランド化について議論する。</p>	
	【予習】	
	【復習】（6）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分

第9回	民俗文化の活用-1：柳田國男と遠野 『遠野物語』を読みながら、柳田國男と遠野について説明する。	
	【予習】	
	【復習】（7）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第10回	民俗文化の活用-2：柳宗悦と民芸運動 なもなき職人の作るモノに美を見出した柳宗悦。民芸とは何かについて議論する。	
	【予習】	
	【復習】（8）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第11回	まとめ&ディスカッション 民族（俗）文化の活用の単元をまとめる。	
	【予習】（5）～（8）の今まで調べたキーワードの内容を発表できるように整理する。	60分
	【復習】	
第12回	民族（俗）文化の見せ方-1：エコミュージアムの考え方 新しい博物館のスタイルであるエコミュージアムについて説明する。	
	【予習】	
	【復習】（9）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第13回	民族（俗）文化の見せ方-2：外国人の見た五箇山と白川郷 外国人の評価レポートを参考に2つの地域における観光資源の見せ方を考える。	
	【予習】	
	【復習】（10）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第14回	民族（俗）文化の見せ方-3：現代アートと観光資源 大地の芸術祭、瀬戸内国際芸術祭などを事例に現代アートの見せ方について議論する。	
	【予習】	
	【復習】（11）授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第15回	全体のまとめ 全体のまとめを行う。	
	【予習】（9）～（11）の今まで調べたキーワードの内容を発表できるように整理する。	60分
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>授業中の発言(30%)、まとめシート(20%)、期末レポート(50%) また、ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：10%、社会性：10%、専門性：80%で評価します。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。</p>		
使用資料 <テキスト>	なし	使用資料 <参考図書>	授業の最初の時間にガイダンスを行い、参考図書等について説明します。
授業外学修等	<p>授業の進行に合わせて、授業の理解度を確認するために2回ほど小レポートを書きます。レポート作成にあたっては、きちんと下調べをすることが要求されます。</p>		
授業外質問方法	<p>了後ならびにオフィスアワー以外でも研究室に滞在中はいつでも質問を受け付けます。</p>		
オフィス・アワー	<p>火曜日 1 時限 (9 : 30 ~)</p>		

授業科目名	世界遺産論	科目コード	G2303P02
英文名	Theory of World Heritage		

科目区分	観光専攻科目 - 観光資源		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	佐藤 悦夫
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	2020年7月現在、世界中で1121件の物件が世界遺産として登録されています。この講義では、世界遺産の登録の仕組みや動向、日本やラテンアメリカの世界遺産の事例、日本における世界遺産の保存・活用などについて講義します。テーマによっては、学生の意見を求めますので積極的に発言してください。			
-------	--	--	--	--

キーワード	世界遺産学	平泉	五箇山	テオティワカン	マチュピチュ
-------	-------	----	-----	---------	--------

到達目標	世界遺産の登録のシステムや日本の世界遺産を理解します。			
	ラテンアメリカを事例として世界遺産研究状況、活用の状況、認識の状況を理解します。			
	世界遺産の今後の在り方を検討します。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス 15回の授業内容及び評価方法についての説明を行う。また、基本的な参考文献、最近の世界遺産に関する話題を開説する。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	世界遺産とは何か 世界遺産の歴史、ユネスコの登録システムを理解する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第3回	日本の世界遺産と登録の動向 日本の世界遺産について概観し、問題点について考察する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第4回	世界遺産、平泉の保全と活用 平泉の現状と課題について検討する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第5回	世界遺産、五箇山の保全と活用 五箇山の現状と課題について検討する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第6回	日本の世界遺産のまとめとまとめシートの作成	
	【予習】 今まで調べたキーワードの内容を発表できるように整理する。	60分
	【復習】	
第7回	メキシコの世界遺産-1 メキシコの歴史を概観し、なぜ遺跡が世界遺産に多く登録されているのかを考える。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第8回	メキシコの世界遺産-2 メキシコの世界遺産のビデオを見ながら、現代都市が世界遺産に登録されるのと古代都市が世界遺産に登録されるのでは何が異なるのかを考える。	
	【予習】	
	【復習】 (6) 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分

第9回	メキシコの世界遺産-3 テオティワカン遺跡の研究の状況を概観する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第10回	メキシコの世界遺産-4 テオティワカン遺跡、月のピラミッドの発掘を事例に、世界遺産の価値の研究がどのように行われているのかを考える。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第11回	メキシコの世界遺産-5 テオティワカン遺跡のビデオをみながら、文明の起源に関する新しい知見を検討する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第12回	ペルーの世界遺産-1 マチュピチュを事例になぜ日本人に人気があるのかを考える。	
	【予習】	
	【復習】 (10) 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第13回	ラテンアメリカのまとめとまとめシートの作成 ラテンアメリカのそれぞれの地域において、世界遺産がどのように認識されまた活用されているのかを理解する。日本との違いについて理解する。	
	【予習】 今まで調べたキーワードの内容を発表できるように整理する。	
	【復習】	
第14回	世界遺産学の構築 教員が考えている世界遺産学の構築について説明する。	
	【予習】	
	【復習】 授業内容に関して興味を持ったキーワードを調べる。	30分
第15回	全体のまとめ 14回の授業全体の振り返りを行い、到達目標を確認する。	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への参加度(30%)、小レポート(15%)、期末レポート(55%) また、ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：10%、社会性：10%、専門性：80%で評価します。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料 <テキスト>	なし	使用資料 <参考図書>	授業の最初の時間にガイダンスを行い、参考図書等について説明します。
授業外学修等	世界遺産に関する新聞記事等を読んでください。また、希望者には、7月の世界遺産検定の指導を行いますので、積極的に受験してください。		
授業外質問方法	授業終了後ならびにオフィスアワー以外でも研究室に滞在中はいつでも質問を受け付けます。		
オフィス・アワー	火曜日 1 時限 (9 : 30 ~)		

授業科目名	観光企画論	科目コード	G2403L04
英文名	Tourism Product Planning		

科目区分	観光専攻科目 - 観光事業・マネジメント		
------	----------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	大谷 友男
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	1限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>本講義では、前期開講の「観光経営論」やその他の観光専攻科目で学んだ知識をもとに、観光商品の造成を検討します。前半では、商品造成にあたっての基本的な考え方となるマーケティングについて解説し、中盤では商品企画を行う地域のフィールドワークを実施し、その成果をもとに後半ではグループワークを通じて具体的な観光商品の造成・企画書の作成を行い、観光企画を「知っている」だけでなく「できる」ようになるよう講義を進めていきます。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	観光商品	マーケティング	企画力	グループワーク	フィールドワーク
-------	------	---------	-----	---------	----------

到達目標	観光商品を企画するための基本的な考え方であるマーケティングの考え方とプロセスを理解できる。(40%)			
	事前学習とフィールドワークを通じ、地域の特徴や課題などを発見する力を養います。(20%)			
	さまざまなアイデアを形にしていくことのプロセスを体験することで、卒業後に社会で活躍する際に、スムーズな商品企画ができるようになる。(40%)			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	【ガイダンス】 講義のねらい、年間計画、進め方のほか、評価方法について説明します。中盤に実施するフィールドワークの日程や対象地域についてもガイダンスで説明します。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	【企画とは、マーケティングとは何か？】 本講義のゴールである「企画」の作成にあたり、そもそも企画とは何か、また企画を検討するにあたって重要な要素となるマーケティングについて解説します。	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第3回	【マーケティングの実践 環境分析】 マーケティングを実践するにあたり、まずは自らの立ち位置を明確にするための「環境分析」が重要になります。その際の基本的な考え方であるSWOT分析について解説します。	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第4回	【マーケティングの実践 戦略の構築】 環境分析をもとに、どのような方向性で商品を考えていくのか、商品づくりの戦略を構築するための考え方について解説します。	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第5回	【マーケティングの実践 戦術の検討】 構築された戦略の下で、具体的にどのような手を打っていくかといった「戦術」の考え方について解説します。あわせて「戦略」と「戦術」の違いについても理解を深めます。	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第6回	【マーケティングの実践 管理と改善】 実際に構築された戦略とそれに基づいた戦術を展開したあとは、その取り組みが有効だったか、不足する点は何か...など作られたプランを評価・管理し、それを次の事業の改善へとつなぐことが必要です。事業の評価に対する考え方、改善に向けたサイクルについて解説します。	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第7回	【マーケティングの実践 特別講義】 ユニークな企画を数多く展開してきた外部講師による講義を通じ、その実践を学びます。	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第8回	【観光企画のためのワーク ガイダンス】 実際の観光企画を行うにあたり、対象とする地域の現状について下調べを行います。下調べのための方法やツールについて解説し、一部授業時間内に実践します。なお、ワークの方式については、グループワークを想定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によっては個人ワークとすることもあります。	
	【予習】	
	【復習】 フィールドワークに向けて対象地域の現状や課題について事前に調査をし、まとめておいてください。	

第9回	【観光企画のためのフィールドワーク 現地調査】 11月中・下旬の土曜日に3時間（2コマ分）をかけて富山県内の地域を対象にフィールドワークを行います。対象地域はガイダンスの際にお知らせします。（学年歴や学校行事等により前後する場合があります）	
	【予習】 前回の講義で指示した事前のリサーチを踏まえてフィールドワークに出席してください	
	【復習】	
第10回	【観光企画のためのフィールドワーク 現地調査】 11月中・下旬の土曜日に3時間（2コマ分）をかけて富山県内の地域を対象にフィールドワークを行います。対象地域はガイダンスの際にお知らせします。（学年歴や学校行事等により前後する場合があります）	
	【予習】	
	【復習】 フィールドワークで気づいた点を整理し、次回以降のグループワークにスムーズに移行できるよう準備をしてください。	
第11回	【観光企画のためのワーク プランの検討】 フィールドワーク対象地域の観光商品造成に向けてグループワークを通じて、プランを作っていきます。	
	【予習】	
	【復習】 90分の間にできることは限られますので、足りない部分は課外で検討や作業を進めてください。	
第12回	【観光企画のためのワーク プランの作成】 前回の授業時間内で作りこみが進まなかった部分を補強し、プランを形にします。	
	【予習】	
	【復習】 90分の間にできることは限られますので、足りない部分は課外で検討や作業を進めてください。	
第13回	【観光企画のためのワーク プランの深掘り】 前回までに作りこんだプランをさらに深掘りし、魅力ある企画に仕上げていきます。	
	【予習】	
	【復習】 90分の間にできることは限られますので、足りない部分は課外で検討や作業を進めてください。	
第14回	【観光企画に向けたワーク プランの発表に向けて】 前回までに作りこんだプランをどう伝えるか、プレゼンテーションのポイントを解説したうえで、次回の発表に向けて詰めのグループワークを行います。	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第15回	【観光企画に向けたワーク プランの発表】 これまでの講義の時間と課外の時間を使って作ったプランをそれぞれのグループより発表してもらいます。発表に対する講評・質問もしてもらいます。	
	【予習】	
	【復習】 試験に向けてこれまでの講義を振り返ってください。	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>授業態度（授業への貢献度：30%）、授業課題（プラン作成・課題：70%）で総合的に評価します。 また、ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：20%、社会性：20%、専門性：60%で評価します。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。</p>		
使用資料 <テキスト>	<p>テキストは使用しません。講義の中で必要に応じてレジュメや資料を配布します。</p>	使用資料 <参考図書>	<p>講義の中で必要に応じて紹介します。</p>
授業外学修等	<p>後半のプランの作成は講義の時間内ではなかなか終わらないと思います。受講生同士で工夫して、課外の時間も上手に使って構想をまとめてください。</p>		
授業外質問方法	<p>授業終了後ならびにオフィスアワー以外でも研究室に滞在中はいつでも質問を受け付けます。</p>		
オフィス・アワー			

授業科目名	観光と交通			科目コード	G2403L09
英文名	Tourism and Commuting				
科目区分	観光専攻科目 - 観光事業・マネジメント				
職名	非常勤講師	担当教員名	青木 亮		
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科		
曜日	集中講義	時限	集中講義		
開講時期	3年後期	授業の方法	講義		
必修・選択	選択	単位数	2単位		
授業の概要	交通と観光の現状、地域に及ぼす影響を分析する				
キーワード	地域交通	観光	料金決定	地域開発	ディスカッション力
到達目標	交通事業の現状と諸課題について理解できるようになる。				
	観光事業について、現状を理解できるようになる。				
	交通事業や観光事業について、資料をもとに論理的な議論ができるようになる。				
ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）				
カリキュラムポリシー	幅広く多様な専門知識の修得			観光に関する専門性の向上	
キー・コンピテンシー（重視する能力）					
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力	
教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス、講義の概略、交通事業の特性	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	交通機関の種類と特性 輸送統計からみる旅客輸送の状況	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	観光市場の現状	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	ディスカッション：新型コロナと観光事業	
	【予習】	
	【復習】レポートの作成	
第5回	交通事業における規制	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	交通事業における規制緩和	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	需要分析の基礎（需要の決定要因、需要曲線、需要の価格弾力性、一般化費用など）	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	ディスカッション：規制緩和と公共交通の維持	
	【予習】	
	【復習】レポートの作成	
第9回	料金理論の基礎（需要曲線と供給曲線、余剰の概念、独占下の料金） ホテルや旅館の価格設定	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	交通事業における価格決定（総括原価方式：収支均衡を達成する運賃・料金）	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	インセンティブ規制（標準原価方式、プライスカップ規制）	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	ディスカッション：航空会社の価格戦略、なぜ航空会社は格安航空券を販売するのか？	
	【予習】	
	【復習】レポートの作成	
第13回	地域開発と社会資本投資（交通事業や観光事業への影響）	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	費用便益分析	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	ディスカッション：北陸新幹線開業が地域に与える影響	
	【予習】	
	【復習】レポートの作成	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への参加状況50%、レポート50%		
使用資料 <テキスト>	テキストは使用しません。パワーポイントをもとに授業を進めます。	使用資料 <参考図書>	竹内健蔵著『交通経済学入門』有斐閣ブックス
授業外学修等			
授業外質問方法	e - m a i l : maoki@tku.ac.jp		
オフィス・アワー			

授業科目名	観光経営論	科目コード	G2403P03
英文名	Theory of Tourism Area and Business Management		

科目区分	観光専攻科目 - 観光事業・マネジメント		
------	----------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	大谷 友男
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	1限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>成功している観光施設や観光地は、その魅力を知ってもらうための工夫、訪れた人を満足させるための仕組みが整っています。こうした工夫や仕組みをいかにして構築するかは、観光経営のポイントであり、それが上手くできるかどうか、観光地としての魅力や評価、ビジネスの成功につながる時代です。この講義では、こうした観光経営の考え方を学びながら、魅力ある観光施設や観光地を目指すための方策を、具体的な事例や最近のトレンドを取り入れつつ考えます。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	観光ビジネス	観光産業	業界動向	観光振興
-------	--------	------	------	------

到達目標	観光にはさまざまな産業が関わっていること、そして地域にとって重要な産業であることへの理解を深めることができる。(30%)
	観光ビジネスに関わるさまざまなプレイヤーが、どのような工夫をしているか、その考えからの背景への理解を深めることができる。(30%)
	魅力ある観光地・観光施設にするための方策について考えるとともに理解を深めることができる。(40%)

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<p>【ガイダンス】 講義のねらい、年間計画、進め方のほか、評価方法について説明します。講義を受ける皆さんには、日々のニュースにアンテナを張ってもらいたいと考えていますので、効果的な情報収集方法やチェックしてほしい情報源についても解説します。</p>	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	<p>【地域経済における観光の重要性】 観光ビジネス・産業がなぜ地域経済にとって重要なのかについて、「観光は地域の外からお金を稼ぐ産業であり、地域の人口増加（減少の食い止め）に有効である」という視点から解説します。</p>	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第3回	<p>【観光ビジネス・産業の抱える課題と解決に向けた方策】 観光ビジネス・産業としての観光がどのような課題を抱えているか、前回講義の「観光ビジネスの仕組み」を踏まえつつ、解説します。解説にあたっては、将来、観光関連産業への就職を希望する学生がいることを踏まえ、働く立場の視点からも説明します。</p>	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第4回	<p>【観光ビジネスの成長に向けた企業の取り組み】 前回講義で解説した観光ビジネス・産業が抱える課題に対して、その克服に向けた企業の取り組み事例を解説します。</p>	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第5回	<p>【観光ビジネスの成長に向けた企業の取り組み】 前回講義で解説した観光ビジネス・産業が抱える課題に対して、その克服に向けた企業の取り組み事例を解説します。</p>	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第6回	<p>【地域づくりと観光、行政の役割】 観光振興の取り組みは、民間企業だけのものではありません。その中で行政がなぜ観光振興に取り組むのかについて説明します。</p>	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義で提出してください。	
第7回	<p>【地域づくりと観光、行政の役割 - ケーススタディ -】 前回講義で解説した地域づくりや観光に行政が関わる意義や背景を踏まえ、各地の取り組み事例をもとに行政と観光振興の関係を見ていきます。</p>	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第8回	<p>【観光ビジネスを支える官と民の中間組織】 観光振興に取り組むプレイヤーでは官と民の中間的な組織が果たす役割も重要です。これらの活動や課題を解説したうえで、近年、観光地経営をリードする組織として注目されているDMO（観光地域づくり法人）の動向や課題について解説します。</p>	
	【予習】	
	【復習】 その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	

第9回	【稼げる観光を実現するためのビッグデータ分析 -理論編-】 観光産業の課題の1つである「稼ぐ力」の弱さを克服するためのツールとして提供されている「観光予報プラットフォーム」や「RESAS（リーサス、地域経済分析システム）」などの紹介と活用方法について説明します。	
	【予習】	
	【復習】その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第10回	【稼げる観光を実現するためのビッグデータ分析 -実践編-】 前回講義で解説したビッグデータ分析ツールを使って、地域の観光戦略の検討にどう役立てられるのかを実際に作業をしながらともに考えます。	
	【予習】	
	【復習】その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第11回	【インバウンドの現状と課題】 コロナ禍前までは急増していたインバウンド（外国人観光客）の動向と、インバウンド集客のためのさまざまな取り組みを解説します。また、インバウンドが抱える課題について国内客との比較も交えつつ解説します。	
	【予習】	
	【復習】その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第12回	【魅力を知ってもらうための戦略】 観光地に足を運んでもらうためには、まずその地域を魅力を知ってもらうことが第一歩です。そのための戦略や課題、それに関連するビジネスについて実例をもとに学んでいきます。	
	【予習】	
	【復習】その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第13回	【満足度を高めるための戦略】 観光地に人を呼び込むことができても、満足度が低いと2回目以降は来てくれません。大半の観光地においてリピーター対策は重要なテーマとなっていますが、満足度を高めるための戦略や課題について実例をもとに学んでいきます。	
	【予習】	
	【復習】その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第14回	【地域経済をけん引する観光産業の発展に向けて】 観光ビジネス・産業が地域経済にとって重要であることをこれまでの講義の中でも解説してきましたが、実際に地域経済をリードするだけの産業の実力を高めるためには何が課題か、他産業などとも比較しながら今後の展望を解説します。	
	【予習】	
	【復習】その日の講義のポイントについての課題を出します。次回の講義までに提出してください。	
第15回	【まとめ】 これまでの講義のまとめ、それぞれの業界動向を踏まえた観光ビジネスの動向について再整理します。	
	【予習】	
	【復習】試験に向けてこれまでの講義を振り返ってください。	
第16回	試験	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>授業態度（授業への貢献度：20%）、授業課題（30%）、期末試験（50%）で総合的に評価します。 また、ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：10%、社会性：10%、専門性：80%で評価します。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。</p>		
使用資料 <テキスト>	<p>テキストは使用しません。講義の中で必要に応じてレジュメや資料を配布します。</p>	使用資料 <参考図書>	<p>講義の中で必要に応じて紹介します。</p>
授業外学修等	<p>観光ビジネスの題材は地域にたくさんあります。日々の生活の中で、このビジネスって観光に関係があるのではないか、どうしてこういう仕組みでやっているのかなど好奇心を持って観察してください。</p>		
授業外質問方法	<p>授業終了後ならびにオフィスアワー以外でも研究室に滞在中はいつでも質問を受け付けます。</p>		
オフィス・アワー			

授業科目名	ホテル業論	科目コード	G2403P07
英文名	Hotel Industry		

科目区分	観光専攻科目 - 観光事業・マネジメント		
------	----------------------	--	--

職名	講師	担当教員名	一井 崇
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	水曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>一般的に、旅行スケジュールの中で最も多くの時間を占める要素の1つが宿泊先での滞在である。その意味で、ホテルは旅行者にとっては旅の、観光業界にとっては観光産業の中心的な役割を担っていると言える。本講座では、ホテル業を中心に、その基礎知識を踏まえた上で、先進的な取り組み事例について紹介し、ホテルの魅力とその可能性について考える。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	サービスマインド	ホスピタリティ	ユニバーサルデザイン		
-------	----------	---------	------------	--	--

到達目標	ホテル業に関する基礎知識の習得。				
	ホテル業界が直面する課題について考える。				
	ホテルの魅力とその可能性を探究する。				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	【ガイダンス】 15回の授業の進め方、評価手法について説明する。ホテル業についてのイントロダクション	
	【予習】特になし	
	【復習】ホテル全般に対する自分の印象や一度は泊まってみたいホテルを探してみる。	30分
第2回	【ホテル業の概要】 ホテル業界を取り巻く、近年の環境変化について解説する。	
	【予習】インバウンド効果がホテル業界にもたらす影響について考える。	30分
	【復習】ホテル業界の動向についてまとめる。	60分
第3回	【ホテル業の概要】 ホテル業の全体像(ホテルの定義や種類、分類など)について解説する。	
	【予習】自分が一度は泊まりたいホテルは、どのようなホテルチェーンに属しているのか(いないのか)調べてみる。	30分
	【復習】ホテル業の様々な分類(立地、価格帯、業態など)についてまとめる。	60分
第4回	【ホテル業の概要】 ホテル運営のしくみについて学ぶ。	
	【予習】ホテル運営の現状について調べてみる。	30分
	【復習】組織という視点でホテル業について考える。	60分
第5回	【ホテル業の概要】 ホテル業界が直面する課題、今後の展望について学ぶ。	
	【予習】ホテル業界の現状について調べてみる。	30分
	【復習】ホテル業界が直面する課題解決の方策について考えてみる。	60分
第6回	【ホテル業の概要】 ホテル業の様々な分類について概観する。	
	【予習】様々なホテルの分類について調べる。	30分
	【復習】今後、どのようなホテルが求められていくのか考えてみる。	60分
第7回	【ホテル業の概要】 ホテルのサービスマインドについて、いくつかのホテルの事例をもとに考える。	
	【予習】ホテルで顧客が期待するサービスの質とはどのようなものが想定してみる。	30分
	【復習】印象に残るホテルのサービスマインドについて、なぜ印象に残ったのかまとめてみる。	60分
第8回	【ホテル業の概要】：ゲストスピーカーによる講義 富山におけるホテル業界の実情について、ホテル側の視点から理解を深める。	
	【予習】富山県内で、自分が一度は泊まってみたいと思うホテルについて調べる。	30分
	【復習】富山県内のホテルの特徴や魅力についてまとめる。	60分
第9回	【ホテル業の概要】：ゲストスピーカーによる講義 富山における旅館業界の実情について、旅館側の視点から理解を深めてもらう。	
	【予習】富山県内で、自分が一度は泊まってみたいと思う旅館についてインターネットやガイドブックなどで調べる。	30分
	【復習】富山県内の旅館の特徴や魅力についてまとめた上で、ホテルとの差異について考える。	60分

第10回	【ホテル業の概要】 様々な人が行き交うホテルの魅力について考える。	
	【予習】それぞれのホテルにどのような特徴があるのか考える。	30分
	【復習】授業で取り上げたホテルのサービスについて調べてみる。	60分
第11回	【ホテルに関するプレゼンテーション】 各学生が、「一度は泊まってみたい」ホテルについてプレゼンテーションを行い、共有する。	
	【予習】プレゼンテーションの準備を通じ、ホテルの魅力をいかに伝えるかを学ぶ。	30分
	【復習】自分が関心をもった他学生の推薦するホテルについて調べてみる。	60分
第12回	【ホテルに関するプレゼンテーション】 各学生が、「一度は泊まってみたい」ホテルについてプレゼンテーションを行い、共有する。	
	【予習】プレゼンテーションの準備を通じ、ホテルの魅力をいかに伝えるかを学ぶ。	30分
	【復習】自分が関心をもった他学生の推薦するホテルについて調べてみる。	60分
第13回	【ホテルに関するプレゼンテーション】 各学生が、「一度は泊まってみたい」ホテルについてプレゼンテーションを行い、共有する。	
	【予習】プレゼンテーションの準備を通じ、ホテルの魅力をいかに伝えるかを学ぶ。	30分
	【復習】自分が関心をもった他学生の推薦するホテルについて調べてみる。	60分
第14回	【ホテルに関するプレゼンテーション】 各学生の発表内容の振り返り。	
	【予習】プレゼンテーションの内容を振り返ることで、ホテルの魅力について理解を深める。	30分
	【復習】自分が関心をもった他学生の推薦するホテルについて調べてみる。	60分
第15回	【まとめ】 ホテル業の役割とその魅力や可能性について考えてみる。	
	【予習】	30分
	【復習】	60分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>出席・コミュニケーション・ペーパー(Google Formなどによる授業の感想)(60%)、中間・期末課題(各20%)により総合的に判断する。 ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：10%、社会性：10%、専門性：80%で評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。</p>		
使用資料 <テキスト>	プリント配布	使用資料 <参考図書>	講義時に適宜紹介します。
授業外学修等	<p>特に課題等を課すことはありませんが、授業を通じて疑問に思ったこと、関心を持ったことなどは主体的に学ぶ習慣を身につけてください。予習、復習を行うことで、授業内容がより深く理解できるようになります。</p>		
授業外質問方法	<p>授業終了後、またはオフィスアワーに対応します。オフィスアワー以外でも、事前にアポイントを取っていただければ時間調整します。</p>		
オフィス・アワー			

授業科目名	観光実習	科目コード	G2503P01
英文名	Practical Training in Tourism		

科目区分	観光専攻科目 - 地域観光		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	佐藤 悦夫
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日 火曜日	時限	3限目 4限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	観光実習は、『ポストコロナにおける新たな観光形態』をテーマに、具体的な地域をフィールドにおいて仲間と協力し、地域および地域の観光事業の現状を調査しまとめること、今後の観光まちづくりのあり方を考えることを行う。		
-------	--	--	--

キーワード	地域調査	観光まちづくり	計画作成		
-------	------	---------	------	--	--

到達目標	地域の観光まちづくりの現状と問題点を調べまとめることができる。				
	現状を踏まえて『ポストコロナ』における観光まちづくりのあり方を考えることができる。				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門性をさらに高める実習・演習	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3限：実習の趣旨説明と班の決定。 ・4限：調査対象地域の概要把握と調査地点の抽出、調査シートの作成に関する説明。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第2回	<p>調査対象地域の事前調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットや文献などを活用して、調査対象地域の現状を調べる。 ・現地踏査する際の調査項目を「調査シート」として取りまとめる。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第3回	<p>現地踏査（フィールドワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地踏査（大学集合、現地解散） ・事前に準備した調査シートをもとに、現地の観光まちづくりの状況、課題、問題点などを調査する。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第4回	<p>現地踏査のまとめ、聞き取り調査の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3限：現地踏査によってわかったこと（現状、活性化の課題）を議論し整理する。 ・4限：各地域の現状と課題、今後に関する地域での聞き取り調査に向けた準備を行う。 現地の担当者から具体的にどのようなことを聞きたいのか、何について知りたいのかについて議論する。 地域の現状と今後の課題、取り組みに関してヒアリングするための聞き取り調査シートを作成する。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第5回	<p>現地での聞き取り調査（フィールドワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地での聞き取り調査（大学集合、現地解散） ・現地の地域リーダーや観光事業者などから、具体的な取り組みや課題などについて聞き取り調査する。 ・聞きだしたことを詳細に整理し、今後、具体的にどのようなアンケート調査を実施するのかを検討する。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第6回	<p>聞き取り調査結果の整理およびアンケート調査のしかたについて（説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3限：地域リーダーや観光事業者などから聞いたことを詳細に整理する。 ・4限：アンケート調査のしかたについて教員が説明する。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第7回	<p>観光まちづくりの現状に関する現地アンケート調査の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地踏査（第3回）および聞き取り調査（第5回）で把握できたことを整理する。 ・観光客の実態および観光まちづくりの現状に対する観光客の評価を把握するためのアンケート調査票の作成を行う。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分

第8回	<p>現地アンケート調査（フィールドワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査（大学集合・現地解散）。 ・対象地域において、観光客へのアンケート調査を実施する。 	
	【予習】・アンケート調査票の印刷・準備。	30分
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第9回	<p>アンケート調査結果の整理の仕方およびデータ整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ入力、集計、作図の仕方を教員が説明する。 ・回収したアンケート票のデータ入力、集計を行う。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第10回	<p>アンケート調査結果の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収したアンケート票のデータ入力、集計を行う。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第11回	<p>観光まちづくり先進事例調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査（大学からバスで移動） ・観光まちづくり先進地域の観光まちづくりの現状について、現地視察および説明を受ける。 ・各自、あらかじめ配布された調査シートにメモをし、提出する。 	
	【予習】・あらかじめ配布した先進事例に関する資料を読むこと。	30分
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第12回	<p>先進事例調査結果の整理および対象地域の観光まちづくりのあり方の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進事例調査結果を整理し、分かったことを話し合う。 ・これまでに実施した各種調査結果を踏まえ、対象地域の観光まちづくりのあり方を考察する。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第13回	<p>対象地域の観光まちづくりのあり方の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地域の観光まちづくりのあり方を考察する。 ・現地踏査、聞き取り調査、現地アンケート調査等の結果を整理し、観光実習の成果と課題を報告書（A4判）にまとめる。 	
	【予習】・関連資料を各自で調べる。	30分
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第14回	<p>観光実習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地踏査、聞き取り調査、現地アンケート調査などの結果を整理し、観光実習の成果と課題を報告書（A4判）にまとめる。 ・観光実習報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成および練習を行う。 	
	【予習】	
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分

第15回	実習報告会 ・班ごとに実習の成果を発表する。 ・各班の実習の成果を共有し、課題を整理する。	
	【予習】・授業で発表するプレゼン資料の準備。 ・報告書(A4判)の準備。	60分
	【復習】・授業内容や気づいたことを自分のノートに整理すること。	30分
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	実習に取り組む姿勢と最終プレゼンの内容(50%)、自筆ノートへの記録状況(50%)。 ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：10%、社会性：30%、専門性：60%で評価する。 到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。
------	---

使用資料 <テキスト>	授業の時は原則としてノートパソコンを持参すること。また各自がノートを1冊用意し	使用資料 <参考図書>	必要に応じて指示する。
----------------	---	----------------	-------------

授業外学修等	・文献、新聞記事、観光パンフレット、観光地のホームページなどに常に目を光らせること。授業外で見つけた関連情報もノートに書き込んだり、新聞記事等のスクラップを貼りつけたりして、情報量を増やしていくこと。班別の作業や討議が授業中に終わらなかった場合は、空き時間に作業や討議を続け、次回授業までにまとめておくこと。
--------	--

授業外質問方法	随時、担当教員の研究室で受け付ける。
---------	--------------------

オフィス・アワー	佐藤(火曜日1限:9:30~)、助重(木曜日:12:45~14:00)、一井(火曜日1限:9:30~)、大谷(曜日 限: : ~)
----------	---

授業科目名	都市と観光	科目コード	G2503P04
英文名	Urban Tourism		

科目区分	観光専攻科目 - 地域観光
------	---------------

職名	教授	担当教員名	助重 雄久
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	水曜日	時限	1限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>「都市」の性格や規模はさまざまであり、それぞれの都市の性格や規模に合った観光を考える必要がある。この授業では、テーマ で歴史・伝統を活かした都市観光の展開や課題、テーマ で現代的な地域資源を活かした都市観光の展開や課題について学ぶ。テーマ では、高岡市のまちなか観光を活かせる地域資源の掘り起こしについて、フィールドワーク(現地観察)も交えながら考える。</p>			
-------	--	--	--	--

キーワード	都市観光	歴史的な地域資源	現代的な地域資源	フィールドワーク
-------	------	----------	----------	----------

到達目標	プロローグおよびテーマ : 都市の性格や規模によって活かせる地域資源が異なることを理解するとともに、歴史的な地域資源を活かす方策を考えることができる。
	テーマ : 現代的な地域資源を都市観光に活かせる方策を考えることができる。
	テーマ : 小都市で観光を活かせる地域資源を探索し、それらを活用する方策を考えることができる。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	授業ガイダンス 授業の進め方や評価に関する詳細説明	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	プロローグ 都市の性格・規模と観光資源(1) 人口規模でみた都市の分類と階層性について学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】配布したプリントを読み返し、理解しておくこと。	30分
第3回	プロローグ 都市の性格・規模と観光資源(2) 日本における都市観光の成立基盤について学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】配布したプリントを読み返し、理解しておくこと。	30分
第4回	テーマ 歴史を活かした世界と日本の都市観光(1) 門前町における地域活性化への取り組みについて、三重県伊勢市等の事例から学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】配布したプリントを読み返し、理解しておくこと。	30分
第5回	テーマ 歴史を活かした世界と日本の都市観光(2) 城下町における地域活性化への取り組みについて、宮崎県日南市飫肥地区の事例から学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】配布したプリントを読み返し、理解しておくこと。	30分
第6回	テーマ 歴史を活かした世界と日本の都市観光(3) 前回に続き、城下町における地域活性化への取り組みについて、宮崎県日南市飫肥地区の事例から学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】配布したプリントを読み返し、理解しておくこと。	30分
第7回	テーマ 現代の資源を活かした世界と日本の都市観光(1) 「食」を活かした都市観光について、さなざまな事例を通して学ぶ。	
	【予習】	
	【復習】配布したプリントを読み返し、理解しておくこと。	30分

第8回	<p>テーマ 現代の資源を活かした世界と日本の都市観光(2) 「夜」を活かした都市観光について、富山と金沢の取り組み等を比較しながら学ぶ。</p>	
	【予習】	
	【復習】配布したプリントを読み返し、理解しておくこと。	30分
第9回	<p>テーマ 現代の資源を活かした世界と日本の都市観光(3) 「冬」を活かした都市観光について、ドイツや旭山動物園の事例を見ながら学ぶ。</p>	
	【予習】	
	【復習】配布したプリントを読み返し、理解しておくこと。	30分
第10回	<p>テーマ 現代の資源を活かした世界と日本の都市観光(4) 世界有数の観光都市・シンガポールにおける都市観光の成り立ちや展開について、写真やデータを見ながら考えていく。</p>	
	【予習】	
	【復習】この授業で出された設問について、次回授業までに自分なりの答えを考えておくこと。	60分
第11回	<p>テーマ 現代の資源を活かした世界と日本の都市観光(5) 世界有数の観光都市・シンガポールにおける都市観光の成り立ちや展開について、写真やデータを見ながら考えていく。</p>	
	【予習】	
	【復習】第9～10回の授業内容を振り返り、理解しておくこと。	30分
第12回	<p>テーマ 高岡市のまちなか観光を考える(1) 現地観察のルートや注意事項、注意深く観察して欲しいこと等について説明する。</p>	
	【予習】	
	【復習】実施要領を読み、現地観察の趣旨や内容をよく理解しておくこと。	60分
第13回	<p>テーマ 高岡市のまちなか観光を考える(2) 高岡市街地において、現地観察(フィールドワーク)を行い、埋もれている地域資源を掘り起こす。 6月下旬～7月上旬の土・日曜日に実施予定</p>	
	【予習】現地観察にもっていくものを事前に準備しておくこと。	60分
	【復習】現地観察の際に書いたメモや、収集した資料・写真等を整理し、プレゼンテーションができるよう準備しておくこと。	60分
第14回	<p>テーマ 高岡市のまちなか観光を考える(3) 第13回のフィールドワークをもとに、高岡市街地の地域資源のプロモーションを行う(プレゼンテーション1回目)。</p>	
	【予習】プレゼンテーションファイル(PowerPoint)を作成しておくこと。	120分
	【復習】他の受講生のプレゼンはどのような点が良かったのかを振り返り、今後の自分の発表に反映させること(他の学生の発表に対するコメントを提出させ、評価対象とする)。	30分
第15回	<p>テーマ 高岡市のまちなか観光を考える(4) 第13回のフィールドワークをもとに、高岡市街地の地域資源のプロモーションを行う(プレゼンテーション2回目) 授業アンケート</p>	
	【予習】プレゼンテーションファイル(PowerPoint)を作成しておくこと。	120分
	【復習】他の受講生のプレゼンはどのような点が良かったのかを振り返り、今後の自分の発表に反映させること(他の学生の発表に対するコメントを提出させ、評価対象とする)。	30分

第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>受講態度や発言・質問への回答(40点)、テーマ のレポート(到達目標 : 20点)、テーマ の授業内レポート(到達目標 : 20点)、テーマ のプロモーションの内容と発表の相互評価(到達目標 : 20点)。到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。</p> <p>【注意】レポートや発表による評価なので、再試験は実施しない。</p> <p>【ディプロマポリシー配分比率】 人間性：10%、 社会性：20%、 専門性：70%</p>
------	--

使用資料 <テキスト>	プリント・スライド等を用いて講義を進めるが、参考となる文献があればその都度紹介	使用資料 <参考図書>	「旅に出たくなる地図・日本」(帝国書院)
----------------	---	----------------	----------------------

授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> 授業でとりあげた地域の地名・位置や地域概況は、必ず授業時間外に地図や各地域の観光協会・自治体等のホームページで確認しておくこと。
--------	--

授業外質問方法	<ul style="list-style-type: none"> 研究室で随時受けつける(授業・会議・出張等で不在の時間帯を除く)。 Eメール(t-suke@tuins.ac.jp)でも受けつける。Eメールの場合は件名と発信者の名前を明記すること。
---------	--

オフィス・アワー	木曜 12:45-14:00 研究室
----------	--------------------

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G2603L05
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	准教授	担当教員名	大谷 友男
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	2限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	夏季休暇中の現地調査（準備も含む）の取りまとめを通じて、卒業論文作成に向けたスキルを習得していきます。また、卒業論文のテーマの選定も進めていきます。			
-------	--	--	--	--

キーワード	レポート作成	文献解読	統計分析	グループワーク
-------	--------	------	------	---------

到達目標	卒業論文を書くための調査の仕方や論理構成の立て方を習得し、学んだ成果を表現することができる。（60％）			
	ゼミ生の間でのグループワークやディスカッションを通じ、チームで事業を成し遂げる能力を身につけることができる。（40％）			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	【現地調査報告】 夏季休暇中の現地調査の調査結果、課題を速報の形で報告してもらいます。	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論を踏まえ、2巡目の本報告に向けて内容を向上させてください	
第2回	【現地調査報告】 夏季休暇中の現地調査の調査結果、課題を速報の形で報告してもらいます。	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論を踏まえ、2巡目の本報告に向けて内容を向上させてください	
第3回	【現地調査報告】 夏季休暇中の現地調査の調査結果、課題を速報の形で報告してもらいます。	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論を踏まえ、2巡目の本報告に向けて内容を向上させてください	
第4回	【現地調査報告】 夏季休暇中の現地調査の調査結果、課題を速報の形で報告してもらいます。	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論を踏まえ、2巡目の本報告に向けて内容を向上させてください	
第5回	【現地調査報告】 夏季休暇中の現地調査の調査結果、課題を速報の形で報告してもらいます。	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論を踏まえ、2巡目の本報告に向けて内容を向上させてください	
第6回	【卒業論文テーマ案の発表】 卒業論文で取り上げたいテーマを発表してもらいます。	
	【予習】この回までに、どんなテーマでやりたいか概略を考えておいてください。	
	【復習】	
第7回	【現地調査報告】 1巡目の現地調査報告（速報）を踏まえてのゼミでの議論や課題をもとに、追加調査やまとめ方を工夫して再度調査結果を発表してもらいます。	
	【予習】各人の発表回までに準備を終えてください。	
	【復習】	
第8回	【現地調査報告】 1巡目の現地調査報告（速報）を踏まえてのゼミでの議論や課題をもとに、追加調査やまとめ方を工夫して再度調査結果を発表してもらいます。	
	【予習】各人の発表回までに準備を終えてください。	
	【復習】	

第9回	【現地調査報告】 1 巡目の現地調査報告（速報）を踏まえてのゼミでの議論や課題をもとに、追加調査やまとめ方を工夫して再度調査結果を発表してもらいます。	
	【予習】 各人の発表回までに準備を終えてください。	
	【復習】	
第10回	【現地調査報告】 1 巡目の現地調査報告（速報）を踏まえてのゼミでの議論や課題をもとに、追加調査やまとめ方を工夫して再度調査結果を発表してもらいます。	
	【予習】 各人の発表回までに準備を終えてください。	
	【復習】	
第11回	【現地調査報告】 1 巡目の現地調査報告（速報）を踏まえてのゼミでの議論や課題をもとに、追加調査やまとめ方を工夫して再度調査結果を発表してもらいます。	
	【予習】 各人の発表回までに準備を終えてください。	
	【復習】	
第12回	【現地調査振り返り】 事前準備や事後報告（レポート作成を含む）を含めた現地調査を振り返り、成果や課題について意見交換をします。	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	【卒業論文テーマ案の発表】 第6回のゼミでの発表と議論をもとに、テーマ案を発表してもらいます。2回目は大まかな構成やどのような方法で明らかにしていくかも含めて発表してもらいます。	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	【卒業論文テーマ案の発表】 第6回のゼミでの発表と議論をもとに、テーマ案を発表してもらいます。2回目は大まかな構成やどのような方法で明らかにしていくかも含めて発表してもらいます。	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	【卒業論文テーマ案の発表】 第6回のゼミでの発表と議論をもとに、テーマ案を発表してもらいます。2回目は大まかな構成やどのような方法で明らかにしていくかも含めて発表してもらいます。	
	【予習】	
	【復習】 卒業論文作成に向けて準備を進めてください	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>事前準備も含めたゼミ活動への貢献度・発表内容（40%）、他のゼミ生と協力関係（30%）、期末レポートとして提出する現地調査レポートの内容（30%）で総合的に評価します。 到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。</p>		
使用資料 <テキスト>	<p>テキストは使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。</p>	使用資料 <参考図書>	ゼミの中で必要に応じて紹介します。
授業外学修等	<p>ゼミの時間外の準備に多くの時間を割くことになると思います。しっかりと準備をしてください。</p>		
授業外質問方法	<p>授業終了後ならびにオフィスアワー以外でも研究室に滞在中はいつでも質問を受け付けます。</p>		
オフィス・アワー			

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G2603L05
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	教授	担当教員名	佐藤 悦夫
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>後期は、各ゼミ生が自分のテーマに関する概説書等を読み、それぞれのテーマに関する研究の現状、研究の歴史、関連する文献等を発表します。また、視察先をゼミで決めて全員で視察に行きます。</p>		
-------	--	--	--

キーワード				
-------	--	--	--	--

到達目標	卒業論文の構成を考慮することができる (100%)			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力 (専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー (重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法 (授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	15回の授業内容、評価手法について説明する。また、基本的な参考文献、最近の観光文化に関する話題を解説する。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	研究の進め方、発表の仕方等について（3年生の研究の位置づけ、卒論へのつながり等説明）	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	学生の発表、討論-1（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	学生の発表、討論-1（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	学生の発表、討論-1（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	学生の発表、討論-1（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	第1回発表の振り返り	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	学生の発表、討論-2（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	学生の発表、討論-2（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	学生の発表、討論-2（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	学生の発表、討論-2（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	学生の発表、討論-2（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	第2回発表の振り返り	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	卒業論文に関する注意事項の説明	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	まとめ	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への参加度(50%)、ゼミでの発表内容(50%) また、ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：15%、社会性：15%、専門性：70%で評価します。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料 <テキスト>	無し	使用資料 <参考図書>	必要に応じてアドバイス
授業外学修等	自分の研究テーマに関する文献を集める必要があります。		
授業外質問方法	授業終了後ならびにオフィスアワー以外でも研究室に滞在中はいつでも質問を受け付けます。		
オフィス・アワー	火曜日1限(9:30~)		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G2603L05
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	教授	担当教員名	助重 雄久
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	2限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>夏季休業期間中にゼミ生全員で行った観光地調査(フィールドワーク)のデータを分析し、調査結果報告をまとめていく。調査結果は2022年3月刊行の「富山国際大学現代社会学部紀要」での公表を目指す。また、後半では卒業論文のプラン作成、就職活動に向けた準備も行う。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	フィールドワーク	報告書作成		
-------	----------	-------	--	--

到達目標	観光調査の報告書作成を通して、卒業論文を書くために必要な技法や能力を修得することができる。			
	ゼミ生全員で協力して報告書作成や成果発表を行うことで、協調性、社会性を身につけることができる。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	現地調査で収集したデータの整理、MS-Excelでの入力・集計、大学祭パネル展示の準備	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第2回	現地調査で収集したデータの整理、MS-Excelでの入力・集計、大学祭パネル展示の準備	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第3回	現地調査で収集したデータの整理、MS-Excelでの入力・集計、大学祭パネル展示の準備	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第4回	調査結果の分析・問題点の抽出	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第5回	調査結果の分析・問題点の抽出	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第6回	調査結果の分析・問題点の抽出	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第7回	調査報告論文の作成および発表準備	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第8回	調査報告論文の作成および発表準備	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第9回	調査報告論文の作成および発表準備	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分

	調査報告論文の作成および発表準備	
第10回	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
	就職にあたっての心構え、履歴書と卒業論文の書き方の違い	
第11回	【予習】	
	【復習】	
	卒業論文のプラン作成(テーマ、要旨、調査方法等の検討)および就職指導	
第12回	【予習】卒業論文のテーマ、調査進行計画、自分の進路を考えておく。	90分
	【復習】	
	卒業論文のプラン作成(テーマ、要旨、調査方法等の検討)および就職指導	
第13回	【予習】卒業論文のテーマ、調査進行計画、自分の進路を考えておく。	90分
	【復習】	
	卒業論文のプラン作成(テーマ、要旨、調査方法等の検討)および就職指導	
第14回	【予習】卒業論文のテーマ、調査進行計画、自分の進路を考えておく。	90分
	【復習】	
	卒業論文のプラン作成(テーマ、要旨、調査方法等の検討)および就職指導、授業アンケート	
第15回	【予習】卒業論文のテーマ、調査進行計画、自分の進路を考えておく。	30分
	【復習】	
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>報告書作成への貢献度、分担部分の内容(到達目標 : 50点)、他のゼミ生との協力しながらゼミ活動に取り組む姿勢(到達目標 : 50点)</p> <p>到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。</p> <p>【ディプロマポリシー配分比率】 人間性：15%、 社会性：25%、 専門性：60%</p>		
使用資料 <テキスト>	必要に応じて、プリント等を配る。	使用資料 <参考図書>	調査地域および調査計画の決定後に、その都度紹介する。
授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査で収集したデータの分析、文献の収集や解読等をゼミの時間外にも行っておくこと。また、就職と卒業論文執筆の準備を兼ねて、企業研究や観光地域に関する研究を随時行うこと。 ・やむを得ず欠席する場合は必ず担当教員に連絡すること。無断欠席が多い場合やゼミの和を乱す行為が目立つ学生には単位を与えない。 		
授業外質問方法	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室で随時受けつける(授業・会議・出張等で不在の時間帯を除く)。 ・Eメール(t-suke@tuins.ac.jp)、ゼミのLINEでも受けつける。Eメールの場合は件名と発信者の名前を明記すること。 		
オフィス・アワー	木曜 12:45-14:00 研究室		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G2603L05
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	講師	担当教員名	一井 崇
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	金曜日	時限	2限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	夏季休暇中に行った現地調査をまとめ、文化祭での発表を目指します。また各自の研究は前期の発表をベースにして、さらに内容を深めます。現地調査を通じて卒業論文へのアプローチを考えます。		
-------	---	--	--

キーワード	卒業論文構成			
-------	--------	--	--	--

到達目標	自分の研究、他の研究を比較検討することによって具体的な卒業論文をイメージできるようになる			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	【現地調査のまとめ、データの解析と整理】	
	【予習】現地調査のデータをまとめておく	
	【復習】大学祭の発表に向けてイメージを固める	
第2回	【大学祭でのゼミ発表の準備】	
	【予習】各自のイメージを持ち寄る	
	【復習】ゼミとして、どのような発表にするのかをまとめる	
第3回	【大学祭でのゼミ発表の準備】	
	【予習】役割分担にしたがって準備をする	
	【復習】大学祭での発表の最終確認	
第4回	【学生の発表と討論（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備し、他の学生は下調べする	
	【復習】討論で得た意見をどのように自分の発表に反映させるか考える	
第5回	【学生の発表と討論（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備し、他の学生は下調べする	
	【復習】討論で得た意見をどのように自分の発表に反映させるか考える	
第6回	【学生の発表と討論（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備し、他の学生は下調べする	
	【復習】討論で得た意見をどのように自分の発表に反映させるか考える	
第7回	【学生の発表と討論（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備し、他の学生は下調べする	
	【復習】討論で得た意見をどのように自分の発表に反映させるか考える	
第8回	【学生討論の振り返り】	
	【予習】自分自身の発表と他の学生の発表を比較し、次回の発表がより良い発表になるにはどのような工夫が必要か考える	
	【復習】他の人の意見を参考に、自分の発表内容を再検証する	
第9回	【卒業論文に向けたテーマ設定に関する討論】	
	【予習】卒業論文のテーマ、調査計画、自分自身の進路について考えておく	
	【復習】	

第10回	【卒業論文に向けたテーマ設定に関する討論 】	
	【予習】卒業論文のテーマ、調査計画、自分自身の進路について考えておく	
	【復習】	
第11回	【卒業論文に向けたテーマ設定に関する討論 】	
	【予習】卒業論文のテーマ、調査計画、自分自身の進路について考えておく	
	【復習】	
第12回	【卒業論文に向けたテーマ設定に関する討論 】	
	【予習】卒業論文のテーマ、調査計画、自分自身の進路について考えておく	
	【復習】	
第13回	【卒業論文に向けた各自の大まかなテーマと方向性について発表】	
	【予習】卒業論文のテーマ、調査計画、自分自身の進路について考えておく	
	【復習】	
第14回	【卒論発表会の発表内容に関する討論(卒論発表会を経て)】	
	【予習】卒論発表会の感想と意見をまとめておく	
	【復習】自分の方向性を固める	
第15回	【1年間の総まとめと冬休み文献購読リストの決定】	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への参加度（30％）、ゼミでの発表内容（60％）、現地調査での貢献（10％） ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：10％、社会性：10％、専門性：80％で評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。		
使用資料 <テキスト>	必要に応じて、プリント等を配る。	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	後期は前期の研究を発展させることを目的とし、より主体的に調べることを心掛けてください。		
授業外質問方法	授業終了後、またはオフィスアワーに対応します。オフィスアワー以外でも、事前にアポイントを取っていただければ時間調整します。		
オフィス・アワー			

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G2603L05
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	教授	担当教員名	湯 麗敏
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>後期は、まず夏休み中実施された実地調査の報告書を作成、それぞれ発表を行います。また、文献を読みながら、卒業論文の書き方、データ分析方法、活用方法などを学びます。時とき就職活動についての内容も取り入れます。</p>		
-------	---	--	--

キーワード	文献	調査	分析	行動
-------	----	----	----	----

到達目標	卒業論文作成向けの基礎的な事項の修得ができることを目指します。
	各人の卒業論文のテーマを明確し、必要なデータと資料の収集が順調に進むことができるようにします。
	国際社会・地域社会に積極的に活動ができる人材育成を目指します。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	研修・実地調査のまとめ、レポートの作成	
	【予習】アンケートの集計	60分
	【復習】研修レポート作成	60分
第2回	学生のプレゼンテーション	
	【予習】学生のプレゼンテーション	30分
	【復習】発表ができるようにする	30分
第3回	大学祭のゼミ展示向けの準備	
	【予習】大学祭ゼミ展示内容を決め	30分
	【復習】大学祭ゼミ展示内容を決め、確認、役割分担	30分
第4回	文献について理解、解釈できるようにする	
	【予習】輪読用の文献準備	30分
	【復習】文献について理解、解釈できるようにする	30分
第5回	観光地での実地調査のデータの整理（集計、分析、まとめ、入力） 文献輪読	
	【予習】調査データの整理	30分
	【復習】文献について理解、解釈できるようにする	30分
第6回	観光地での実地調査のデータの整理（集計、分析、まとめ、入力） 文献輪読	
	【予習】調査データの整理、分析、まとめ	30分
	【復習】文献について理解、解釈できるようにする	30分
第7回	観光地での実地調査のデータの整理（集計、分析、まとめ、入力） 文献輪読	
	【予習】調査データのまとめ、文章作成	30分
	【復習】文献について理解、解釈できるようにする	30分
第8回	ゼミ生の発表（各人によるプレゼンテーション・ディスカッションを行う）	
	【予習】発表準備	30分
	【復習】発表まとめ	30分
第9回	ゼミ生の発表（各人によるプレゼンテーション・ディスカッションを行う）	
	【予習】発表準備	30分
	【復習】発表まとめ	30分

第10回	論文輪読	
	【予習】関係論文調べ	30分
	【復習】理解、解釈できるようにする	30分
第11回	論文輪読	
	【予習】関係論文調べ	30分
	【復習】理解、解釈できるようにする	30分
第12回	論文輪読	
	【予習】関係論文調べ	30分
	【復習】理解、解釈できるようにする	30分
第13回	各自の卒業論文の研究分野・テーマ、データ、資料について明確できるようにする)	
	【予習】各自の取り組みたい卒業論文の研究分野を考える	30分
	【復習】各自の卒論テーマを考える	30分
第14回	就職活動の心得、将来の職業・キャリアを明確できるようにする。	
	【予習】就職、進学など将来のキャリアを明確できるようにする。	30分
	【復習】各自のこれからの目標を実現に計画を立てる	30分
第15回	一年間のまとめ	
	【予習】単位の取得状況の確認、専門演習1のまとめ	30分
	【復習】所定の目標に達成できたかどうかを自己点検	30分
第16回	期末レポート	
	【予習】レポート作成	60分
	【復習】レポート発表	60分

評価方法	<p>発表内容や議論への積極性（40%）、調査研究課題の進行状況（30%）、ゼミ活動への取り組み姿勢（30%）により総合的に評価します。ディプロマ・ポリシーに関しては人間性20%、社会性30%、専門性50%で評価します。 到達目標は「富山国際大学成績評価基準」に従って評価します</p>		
使用資料 <テキスト>	ゼミの中で指示します。	使用資料 <参考図書>	必要に応じて紹介します。
授業外学修等	<p>個々の研究テーマに関してのデータ収集、文献の解読、発表の準備をしっかりと行う必要があります。</p>		
授業外質問方法	<p>いつでも、自由に研究室に来てください。</p>		
オフィス・アワー	<p>火曜日2限</p>		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G2603P04
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	講師	担当教員名	一井 崇
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	金曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	前半はテーマ毎に学生の発表を行い、それについて討論する。後半は夏季休暇中に行う現地調査について計画し、調査内容・方法を詰める。ゼミ全体での目標を定め、役割分担を決める。		
-------	--	--	--

キーワード	観光地調査	文献解読		
-------	-------	------	--	--

到達目標	読む：各自のテーマに関する文献や資料を読むようになる。
	書く：レジュメ、資料、発表原稿の作成ができるようになる。
	話す：PPを使い、視覚的にアピールできるようなプレゼンができるようになる。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	【ガイダンス】 15回の授業の進め方、評価方法について説明する。各自関心のあるテーマについてディスカッション	
	【予習】特になし	
	【復習】	
第2回	【学生の発表と討論】（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備をする。	
	【復習】討論された内容を自分の発表に活かせるように工夫する。	
第3回	【学生の発表と討論】（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備をする。	
	【復習】討論された内容を自分の発表に活かせるように工夫する。	
第4回	【学生の発表と討論】（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備をする。	
	【復習】討論された内容を自分の発表に活かせるように工夫する。	
第5回	【学生の発表と討論】（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備をする。	
	【復習】討論された内容を自分の発表に活かせるように工夫する。	
第6回	【学生討論 の振り返り】	
	【予習】自分自身の発表と他の学生の発表を比較し、次回の発表がより良い発表になるにはどのような工夫が必要か考える。	
	【復習】他の人の意見を参考に、自分の発表内容を再検証する。	
第7回	【学生の発表と討論】（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備をする。	
	【復習】討論された内容を自分の発表に活かせるように工夫する。	
第8回	【学生の発表と討論】（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備をする。	
	【復習】討論された内容を自分の発表に活かせるように工夫する。	
第9回	【学生の発表と討論】（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
	【予習】発表する学生は準備をする。	
	【復習】討論された内容を自分の発表に活かせるように工夫する。	

	【学生の発表と討論（発表学生のテーマ設定、次への展開、資料収集について説明、討論）】	
第10回	【予習】発表する学生は準備をする。	
	【復習】討論された内容を自分の発表に活かせるように工夫する。	
	【学生討論の振り返り】	
第11回	【予習】自分自身の発表と他の学生の発表を比較し、次回の発表がより良い発表になるにはどのような工夫が必要か考える。	
	【復習】他の人の意見を参考に、自分の発表内容を再検証する。	
	【学生発表のテーマに即した調査先の選定と情報収集】	
第12回	【予習】ウェブで調査場所の情報を収集してくる。	
	【復習】全員で同じ知識や認識を共有する。	
	【学生発表のテーマに即した調査先の選定と情報収集】	
第13回	【予習】ウェブで調査場所の情報を収集してくる。	
	【復習】全員で同じ知識や認識を共有する。	
	【学生発表のテーマに即した調査先の決定とスケジュールの調整、手配などの役割分担】	
第14回	【予習】ウェブで調査場所の情報を収集してくる	
	【復習】全員で調査全体について把握、理解しておく。	
	【調査内容の確認と関連文献の選定、情報収集】	
第15回	【予習】現地調査のイメージを各自が持つておく	
	【復習】現地調査で忘れ物や遅刻、調査のミスがないよう、調査の進め方や日程等を理解しておく	
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への参加度（30％）、ゼミでの発表内容（60％）、現地調査での貢献（10％） ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：10％、社会性：10％、専門性：80％で評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。		
使用資料 <テキスト>	必要に応じて、プリント等を配布する	使用資料 <参考図書>	調査地域および調査計画の決定後に、その都度紹介する
授業外学修等	疑問に思ったことや、興味関心をもったことは曖昧なままにせず、主体的に調べ解決する習慣を身につけましょう。		
授業外質問方法	授業終了後、またはオフィスアワーに対応します。オフィスアワー以外でも、事前にアポイントを取っていただければ時間調整します。		
オフィス・アワー			

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G2603P04
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	教授	担当教員名	佐藤 悦夫
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	前期は、ゼミ生全員でフィールドワークを行う。調査地の観光資源に関して、自分の興味のある部分を調査し、発表する。		
-------	---	--	--

キーワード	レジュメ	研究論文		
-------	------	------	--	--

到達目標	読む：各自のテーマに関する、概説書、専門書、論文等を読みながら内容を理解。
	書く：レジュメ、資料、発表原稿の作成。
	聴く：他のゼミ生の発表を聞き、自分の研究を踏まえた討論、コメント。
	話す：話し言葉での発表、黒板の使い方、聞き手への質問等効果的なプレゼンテーションを学習。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ゼミのガイダンス	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	研究の進め方、発表の仕方等について（3年生の研究の位置づけ、卒論へのつながり等説明）	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	学生の発表、討論（調査地の観光資源に関する発表、討論）。	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	学生の発表、討論（調査地の観光資源に関する発表、討論）。	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	学生の発表、討論（調査地の観光資源に関する発表、討論）。	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	学生の発表、討論（調査地の観光資源に関する発表、討論）。	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	1回目の発表の振り返り	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	学生の発表、討論（調査地の観光資源に関する発表、討論）。	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	学生の発表、討論（調査地の観光資源に関する発表、討論）。	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	学生の発表、討論（調査地の観光資源に関する発表、討論）。	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	学生の発表、討論（調査地の観光資源に関する発表、討論）。	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	学生の発表、討論（調査地の観光資源に関する発表、討論）。	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	フィールドワーク	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	フィールドワーク	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	南砺市フィールドワークまとめ	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への参加度(50%)、ゼミでの発表内容(50%) また、ディプロマポリシーとの関連においては、人間性：20%、社会性：20%、専門性：60%で評価します。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料 <テキスト>	無し	使用資料 <参考図書>	必要に応じてアドバイスする
授業外学修等	自分の研究テーマに関する文献を集めることが必要です。		
授業外質問方法	授業終了後ならびにオフィスアワー以外でも研究室に滞在中はいつでも質問を受け付けます。		
オフィス・アワー	火曜日1限(9:30~)		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G2603P04
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	教授	担当教員名	助重 雄久
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>夏季休業期間中にゼミ生全員で観光地調査(フィールドワーク)を行うことを前提として、調査テーマや調査地域に関する文献・資料・統計の収集および解説等を行い、観光地調査の計画、それに合わせた調査依頼状、調査用紙等の設計・作成を行う(観光地調査のテーマや調査地域はゼミメンバーと相談して決定)。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	文献解読	フィールドワーク		
-------	------	----------	--	--

到達目標	観光調査のための文献調査や事前準備資料の作成を通して、卒業論文を書くために必要な技法を修得することができる。			
	ゼミ生全員で協力しながら観光地調査を行い、協調性、社会性を身につけることができる。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	「専門演習」を含めた2年間のゼミ進行プランの確認	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	論文の構成・書き方、参考文献の読み方(レクチャー)	
	【予習】	
	【復習】ゼミを振り返り、論文の組み立てや書き方、参考文献の読み方について理解を深める。	30分
第3回	論文の構成・書き方、参考文献の読み方(レクチャー)	
	【予習】	
	【復習】ゼミを振り返り、論文の組み立てや書き方、参考文献の読み方について理解を深める	30分
第4回	調査地域および調査計画の決定	
	【予習】調査候補地について各自、下調べしておく。	75分
	【復習】	
第5回	調査地域および調査計画の決定	
	【予習】調査候補地について各自、下調べしておく。	75分
	【復習】	
第6回	調査地域等に関する文献・資料・統計収集および解読、協力機関との交渉	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第7回	調査地域等に関する文献・資料・統計収集および解読、協力機関との交渉	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第8回	調査地域等に関する文献・資料・統計収集および解読、協力機関との交渉	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第9回	調査依頼状、調査用紙等の設計・作成	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分

第10回	調査依頼状、調査用紙等の設計・作成	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第11回	調査依頼状、調査用紙等の設計・作成	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第12回	調査依頼状、調査用紙等の設計・作成	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第13回	現地調査の準備、日程・宿泊先等の確認	
	【予習】	
	【復習】自分が担当している作業が遅れている場合は、次週までに作業を済ませ、他の学生を待たせないようにする。	45分
第14回	現地調査の準備、日程・宿泊先等の確認	
	【予習】	
	【復習】現地調査で忘れ物や遅刻、調査のミスがないよう、調査の進め方や日程等を理解しておく。	30分
第15回	現地調査の準備、日程・宿泊先等の確認、授業アンケート	
	【予習】	
	【復習】現地調査で忘れ物や遅刻、調査のミスがないよう、調査の進め方や日程等を理解しておく。	30分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>事前準備資料作成への貢献度、分担部分の内容(到達目標 : 50点) 他のゼミ生との協力しながらゼミに取り組む姿勢(到達目標 : 50点) 到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。 【ディプロマポリシー配分比率】 人間性：20%、 社会性：20%、 専門性：60%</p>		
使用資料 <テキスト>	必要に応じて、プリント等を配る。	使用資料 <参考図書>	調査地域および調査計画の決定後に、その都度紹介する。
授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査地域の下調べ、文献の収集や解読等をゼミの時間外にも行っておくこと。また、就職と卒業論文執筆の準備を兼ねて、企業研究や観光地域に関する研究を随時行うこと。 ・ やむを得ず欠席する場合は必ず担当教員に連絡すること。無断欠席が多い場合やゼミの和を乱す行為が目立つ学生には単位を与えない。 		
授業外質問方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究室で随時受けつける(授業・会議・出張等で不在の時間帯を除く)。 ・ Eメール(t-suke@tuins.ac.jp)、ゼミのLINEでも受けつける。Eメールの場合は件名と発信者の名前を明記すること。 		
オフィス・アワー	木曜 12:45-14:00 研究室		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G2603P04
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	准教授	担当教員名	大谷 友男
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	2年後の卒業論文作成に向けて、調査の手法、レポート・論文のまとめ方を学ぶとともに、夏季休暇中の現地調査（準備も含む）を通して、実際にやってみながらスキルを習得していきます。現地調査のフィールドやテーマはゼミメンバーとの協議を経て決定します。			
-------	--	--	--	--

キーワード	観光地調査	文献解読	統計分析	グループワーク	フィールドワーク
-------	-------	------	------	---------	----------

到達目標	卒業論文を書くための調査の仕方や論理構成の立て方を習得し、学んだ成果を表現することができる。（60％）			
	ゼミ生の間でのグループワークやディスカッションを通じ、チームで事業を成し遂げる能力を身につけることができる。（40％）			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	【ガイダンス】 後期の「専門演習 ・ b」、4年次の「専門演習 」を含めた2年間の活動計画について説明します。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	【レポート・論文作成に必要な手法】(レクチャー) 今後のレポートや論文作成に必要な、参考文献の読み方、情報収集の方法、統計データの活用、アンケートやヒアリングなどの調査手法について解説します。	
	【予習】	
	【復習】さまざまな調査手法について振り返り、今後の現地調査や論文作成の際に「使える」ように準備をしてください	
第3回	【レポート・論文作成に必要な手法】(レクチャー) 今後のレポートや論文作成に必要な、参考文献の読み方、情報収集の方法、統計データの活用、アンケートやヒアリングなどの調査手法について解説します。	
	【予習】夏季休暇中の現地調査の希望地(理由も含め)について考えておいてください。各人に発表してもらいます。	
	【復習】さまざまな調査手法について振り返り、今後の現地調査や論文作成の際に「使える」ように準備をしてください	
第4回	【プレゼンテーションの実践】 自身の関心があること、好きなことについてのショートプレゼンをしてもらいます。発表に対して、1人1つは質問/コメントをしてもらいます。	
	【予習】プレゼンに向けた準備をしておいてください。詳細はガイダンスの際に説明します。	
	【復習】	
第5回	【調査地域・スケジュールの検討】 夏季休暇中の現地調査の希望地・テーマについてのショートプレゼンをしてもらいます。発表に対して、1人1つは質問/コメントをしてもらいます。	
	【予習】夏季休暇中の現地調査の希望地(理由も含め)について考えておいてください。詳細はガイダンスの際に説明します。	
	【復習】各人の発表・質疑や意見交換を踏まえて、皆さんの考えをまとめておいてください。	
第6回	【調査地域・スケジュールの決定】 前回のゼミでの議論を踏まえ、調査地域とスケジュールを決定します。その後の調査計画や役割分担も決めていきます。	
	【予習】	
	【復習】決定した地域の情報収集を始めるとともに、次回の調査プランの発表に向けた準備を進めてください。	
第7回	【調査プラン発表】 調査地域に決定した地域の何を調べるか、事前調査報告でどこまで明らかにするかを各人に発表してもらいます。	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論をその後の調査計画に反映させてください	
第8回	【調査プランの具現化】 現地調査を行うのに必要な調査や手続きの作業を実際に行います。	
	【予習】	
	【復習】	

第9回	【調査プランの具現化】 現地調査を行うのに必要な調査や手続きの作業を実際に行います。	
	【予習】	
	【復習】 2回のゼミの時間で足りない分は課外で補完してください。質問・相談は随時受け付けます。	
第10回	【事前調査発表】 調査地域に決定した地域の現状や課題について、現地調査で明らかにすべきテーマについて各人の担当テーマ別に発表をしてもらいます。	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	【事前調査発表】 調査地域に決定した地域の現状や課題について、現地調査で明らかにすべきテーマについて各人の担当テーマ別に発表をしてもらいます。	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	【事前調査発表】 調査地域に決定した地域の現状や課題について、現地調査で明らかにすべきテーマについて各人の担当テーマ別に発表をしてもらいます。	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	【事前調査発表】 調査地域に決定した地域の現状や課題について、現地調査で明らかにすべきテーマについて各人の担当テーマ別に発表をしてもらいます。	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	【事前調査発表】 調査地域に決定した地域の現状や課題について、現地調査で明らかにすべきテーマについて各人の担当テーマ別に発表をしてもらいます。	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	【現地調査準備の最終仕上げ】 夏季休暇中の現地調査に向けた最終準備を整えます。	
	【予習】	
	【復習】 現地調査に向けた準備を仕上げてください	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	事前準備も含めたゼミ活動への貢献度・発表内容（60％）、他のゼミ生と協力関係（40％）で総合的に評価します。到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料 <テキスト>	テキストは使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。	使用資料 <参考図書>	ゼミの中で必要に応じて紹介します。
授業外学修等	ゼミの時間外の準備に多くの時間を割くことになると思います。しっかりと準備をしてください。		
授業外質問方法	授業終了後ならびにオフィスアワー以外でも研究室に滞在中はいつでも質問を受け付けます。		
オフィス・アワー			

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G2603P04
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	観光専攻科目 - 総合		
------	-------------	--	--

職名	教授	担当教員名	湯 麗敏
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>前期は、ゼミ生各自で関心がある研究課題を設定し、関連文献を読み、問題を提起しながら、ともに議論し、お互いに意見を発表します。夏休みに行う研修旅行、観光地への実地調査向けの準備を行っていきます。</p>		
-------	---	--	--

キーワード	文献解読	実地調査		
-------	------	------	--	--

到達目標	必要な文献を読みながら、内容への理解を深めることができます。		
	調査の計画づくり、報告書作成、発表などの方法を身につけることができます。		
	卒業論文作成に向けた基礎的な事項の修得できることを目指します。		

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション： 自己紹介、ゼミのねらい、進み方、学習方法、成績評価について説明します。	
	【予習】研究テーマに関する議論、文献を決め	30分
	【復習】研究テーマの設定、発表の準備	30分
第2回	研究テーマに関する議論、文献を決め	
	【予習】各自で研究テーマを設定	30分
	【復習】各自で達成したい目標の設定	30分
第3回	研究テーマの発表、議論、文献輪読	
	【予習】文献輪読 を勉強	30分
	【復習】文献 をまとめ	30分
第4回	研究テーマの発表、議論、文献輪読	
	【予習】文献輪読 の勉強	30分
	【復習】文献輪読 をまとめ	30分
第5回	文献輪読 の勉強	
	【予習】文献輪読 の勉強	30分
	【復習】文献輪読 のまとめ	30分
第6回	文献輪読	
	【予習】文献輪読 の勉強	30分
	【復習】文献輪読 のまとめ	30分
第7回	文献輪読	
	【予習】文献輪読 の勉強	30分
	【復習】文献輪読 のまとめ	30分
第8回	ゼミ生の発表（ 各人によるプレゼンテーション・ディスカッションを行う ）	
	【予習】発表準備	30分
	【復習】発表準備	30分
第9回	ゼミ生の発表（ 各人によるプレゼンテーション・ディスカッションを行う ）	
	【予習】発表準備	30分
	【復習】発表準備	30分

第10回	研修旅行及び実地調査計画の決定（行き先、調査内容、調査方法）、文献輪読	
	【予習】調査内容、調査方法の設定	30分
	【復習】文献輪読	30分
第11回	研修旅行及び実地調査計画の決定（行き先、調査内容、調査方法）、文献輪読	
	【予習】文献輪読 の勉強	30分
	【復習】文献輪読 のまとめ	30分
第12回	研修旅行及び実地調査に関する資料の収集	
	【予習】関係資料の収集	30分
	【復習】調査に関する方法	30分
第13回	調査用のアンケート内容、アンケート方法	
	【予習】アンケート内容の設定	30分
	【復習】アンケートの方法	30分
第14回	実地調査向けの準備（日程づくり、宿泊・交通手段の確認、保険など）	
	【予習】日程づくり	30分
	【復習】宿泊先の調べ	30分
第15回	実地調査向けの準備（日程づくり、宿泊・交通手段の確認、保険など）	
	【予習】交通手段の確認	30分
	【復習】保険、出国、入国などの手続き	30分
第16回	まとめ	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>発表内容や議論への積極性（40%）、調査研究課題の進行状況（30%）、ゼミ活動への取り組み姿勢（30%）により総合的に評価します。ディプロマ・ポリシーに関しては人間性20%、社会性30%、専門性50%で評価します。 到達目標は「富山国際大学成績評価基準」に従って評価します。</p>		
使用資料 <テキスト>	ゼミの中で指示します。	使用資料 <参考図書>	必要に応じて紹介します。
授業外学修等	<p>個々の研究テーマに関してのデータ収集、文献の解読、発表の準備をしっかりと行う必要があります。</p>		
授業外質問方法	<p>いつでも、自由に424研究室に来てください。</p>		
オフィス・アワー	<p>火曜日2限</p>		

授業科目名	インターンシップ	科目コード	G2607F02
英文名	Internship		

科目区分	観光専攻科目 - 総合		
------	-------------	--	--

職名	教授	担当教員名	尾畑 納子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	1年・2年・3年・4年前期・後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>本学においてインターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」を指し、事前に学生が取り組む課題を設定し、それに基づき企業や各種機関において短期間の実習・研修を行う制度のことをいう。今日、国際化や情報化の急速な進展、あるいは社会や産業構造の激しい変化により、雇用環境も大きく変わりつつある。その中であって、人材育成の核となる大学には、社会人基礎力を有する人材はもちろん、社会や産業界・企業のニーズに応える人材育成を目指した教育機能の一層の拡充・強化が求められている。このような要請に応えるために、本学のインターンシッププログラムは、産学官の連携により、学生のキャリア形成教育の一環として実施されるものである。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	インターンシップ	企業研究		
-------	----------	------	--	--

到達目標	高い職業意識の育成・啓発：実習・研修を通じ、仕事とは何か、ビジネスはどのように形作られていくのか等についての理解を深め、自らの職業適性や将来設計を考える機会を得る。		
	学習意欲の向上・教育効果の実現：実習・研修を通じ、これまで大学で学んできたことを確かめるとともに、自らの専攻や研究と関連のある問題や課題を見出し、専門分野への学習意欲を高めたり、深化させたりする。		
	自主性・責任感のある人材の育成：現実の組織・職場の厳しさを体験することによって、社会人としての自覚を促すとともに、自主性・責任感のある人材の育成に役立てる。		

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力（社会性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門性をさらに高める実習・演習	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	事前研修（1）企業説明会への参加（富山県インターンシップ推進センター主催説明会）	
	【予習】インターンシップ研修参加希望企業につき予習をしておくこと	30分
	【復習】説明会で学んだ企業情報を整理しておくこと	30分
第3回	事前研修（2）インターンシップ参加の心得	
	【予習】	
	【復習】企業研究ノートを作成し、整理しておくこと	30分
第4回	事前研修（3）マナー講座（身だしなみ）	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	事前研修（4）テーマ発表	
	【予習】インターンシップ参加にあたり設定したテーマに関するプレゼンテーションを準備しておくこと	90分
	【復習】テーマ発表で受けたアドバイスにもとづき修正点、改善点につき検討しておくこと	30分
第6回	事前研修（5）マナー講座（マナー研修Part1）	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	事前研修（5）マナー講座（マナー研修Part2）	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	事前研修（6）事前面談（就職アドバイザーとの個人面談）	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	企業研修（1）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分

第10回	企業研修（2）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第11回	企業研修（3）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第12回	企業研修（4）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第13回	企業研修（5）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第14回	事後研修（1） 報告書の作成	
	【予習】日報や企業研究ノートをもとに報告書の原案を作成しておくこと	90分
	【復習】教員による添削をもとに報告書を修正すること	60分
第15回	事後研修（2）研修報告会	
	【予習】研修成果に関するプレゼンテーション内容を準備しておくこと	60分
	【復習】	
第16回	事後研修（3）インターンシップ学内報告会	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	事前・事後研修、研修先での実習・研修に対する評価、事後レポートを総合的に判断する。		
使用資料 <テキスト>	適宜資料を配布する。	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	インターンシップ申込み、実習方法等は受入企業により異なるため、自主性・責任感をもって取り組んでください。		
授業外質問方法	質問にはオフィスアワー以外にも対応します（メール可）。		
オフィス・アワー	木曜日3限		

授業科目名	グローバルキャンパスプログラム（観光）	科目コード	G2608F03
英文名	Global Campus Program (Tourism)		

科目区分	観光専攻科目 - 総合
------	-------------

職名	講師	担当教員名	谷脇 茂樹
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	2年・3年・4年前期・後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>オーストラリアのシドニーを訪問し、現地の観光施設や世界遺産、IRの動き、観光まちづくりの取り組み状況などを調査する。また、現地の日本政府機関を訪問し、現地事情に関するブリーフィングを受けるほか、現地に進出している日本企業を訪問し、現地での事業活動などについてヒアリングし、専門性を高めるとともに、受講者のキャリア支援につなげていく。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	地域調査	観光まちづくり	異文化共生	コミュニケーション
-------	------	---------	-------	-----------

到達目標	他国（オーストラリア）の観光現場を見聞することで観光地比較分析の手法を理解する。			
	オーストラリアの観光振興策、地域振興策を理解する。			
	日本とオーストラリアの経済社会関係を理解し、多文化共生、国際人に求められる能力を理解する。			

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）	4.社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	観光に関する専門性の向上	幅広く多様な専門知識の修得

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	事前指導 ・授業の目的・概要、目指すべきゴールと評価方法等の説明	
	【予習】	
	【復習】 調査先の概要等の取りまとめ	60分
第2回	事前指導 ・オーストラリアの経済・社会環境について	
	【予習】	
	【復習】 調査先の概要等の取りまとめ	60分
第3回	日本政府機関でのブリーフィング ・JETROを予定	
	【予習】	
	【復習】 訪問先で説明を受けた内容の取りまとめ	60分
第4回	日本政府機関でのブリーフィング ・日本政府観光局 (JNTO) を予定	
	【予習】	
	【復習】 訪問先で説明を受けた内容の取りまとめ	60分
第5回	日本政府機関でのブリーフィング ・国際交流基金を予定	
	【予習】	
	【復習】 訪問先で説明を受けた内容の取りまとめ	60分
第6回	現地大学訪問 ・ニューサウスウェールズ大学を訪問	
	【予習】	
	【復習】 現地の学生との交流を通じて感じたことの取りまとめ	30分
第7回	観光施設の視察調査	
	【予習】	
	【復習】 視察を通じて気付いた事項等の取りまとめ	30分
第8回	観光施設の視察調査	
	【予習】	
	【復習】 視察を通じて気付いた事項等の取りまとめ	30分

第9回	観光施設の視察調査	
	【予習】	
	【復習】視察を通じて気付いた事項等の取りまとめ	30分
第10回	日本政府機関でのブリーフィング ・国際交流基金を予定	
	【予習】	
	【復習】訪問先で説明を受けた内容の取りまとめ	60分
第11回	現地日系企業視察 ・JTBを予定	
	【予習】事前研修で調査した企業概要の確認	30分
	【復習】訪問企業でのヒアリング内容の取りまとめ	60分
第12回	現地日系企業視察 ・全日空を予定	
	【予習】事前研修で調査した企業概要の確認	30分
	【復習】訪問企業でのヒアリング内容の取りまとめ	60分
第13回	現地日系企業視察 ・丸紅を予定	
	【予習】事前研修で調査した企業概要の確認	30分
	【復習】訪問企業でのヒアリング内容の取りまとめ	60分
第14回	現地日系企業視察 ・ライオンネイサン(キリン)を予定	
	【予習】事前研修で調査した企業概要の確認	30分
	【復習】訪問企業でのヒアリング内容の取りまとめ	60分
第15回	まとめ(事後指導) ・視察研修の内容をもとに、授業全体のまとめを行う。	
	【予習】	
	【復習】	
第16回	期末試験(レポート課題)	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	平常点（授業への参加度：30％）、課題レポート（30％）、期末レポート（40％）で総合的に評価します。到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料 <テキスト>	テキストは使用せず、授業の中で必要に応じてレジュメや資料を配布します。	使用資料 <参考図書>	必要に応じて授業の中で適宜指示します。
授業外学修等	授業では、パワーポイント等を活用します。希望者については、在日オーストラリア大使館を訪問し、事前学習を行います。		
授業外質問方法	授業終了後ならびに研究室滞在中はいつでも質問を受け付けます。また、Eメール(taniwaki@tuins.ac.jp)でも常に質問を受け付けます。		
オフィス・アワー	火曜日 1 限（9:30～）		

授業科目名	環境リスク評価論	科目コード	G3203L04
英文名	Environmental Risk Assessment		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 生活環境		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 ゆかり
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>私たちは日常生活において、人工物によってさまざまな恩恵を受けている一方、リスクも存在する。この授業では、リスクの考え方について学ぶとともに、暮らしやすい生活環境とはどのようなものか考える。また、リスクを分かりやすく伝えるためにはどうしたらよいか考える。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	リスク評価	リスクコミュニケー	環境	食品	安全
-------	-------	-----------	----	----	----

到達目標	環境リスクの考え方について説明できる（20％）。			
	水道水、食品、環境中の化学物質などのリスクを評価できる（40％）。			
	リスクと共生し、暮らしやすい社会を実現するためにはどうしたらよいか考えることができ、自分の意見を述べる（40％）。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション リスクとは何かということを学ぶ、	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	環境問題の発生から被害者の救済までの全体像を見る。	
	【予習】	40分
	【復習】 授業中に指定された課題に取り組む	40分
第3回	水道水のリスクと安全を考える	
	【予習】	40分
	【復習】 授業中に指定された課題に取り組む	40分
第4回	食品の安全性を考える	
	【予習】	40分
	【復習】 授業中に指定された課題に取り組む	40分
第5回	空気中の化学物質について考える	
	【予習】	40分
	【復習】 授業中に指定された課題に取り組む	40分
第6回	PRTR情報の活用	
	【予習】	40分
	【復習】 授業中に指定された課題に取り組む	40分
第7回	過去の事例から考える - 水俣病	
	【予習】	40分
	【復習】	40分
第8回	過去の事例から考える - ダイオキシン	
	【予習】	40分
	【復習】 授業中に指定された課題に取り組む	40分
第9回	過去の事例から考える - 内分泌かく乱物質	
	【予習】	40分
	【復習】 授業中に指定された課題に取り組む	40分

第10回	化学物質の職業曝露とリスク評価	
	【予習】	40分
	【復習】授業中に指定された課題に取り組む	40分
第11回	放射性物質のリスクについて考える	
	【予習】	40分
	【復習】授業中に指定された課題に取り組む	40分
第12回	費用とリスク削減を考える	
	【予習】	40分
	【復習】授業中に指定された課題に取り組む	40分
第13回	リスクを分かりやすく伝える - リスクコミュニケーション	
	【予習】	40分
	【復習】授業中に指定された課題に取り組む	40分
第14回	リスクを分かりやすく伝える - リスクコミュニケーション	
	【予習】	40分
	【復習】授業中に指定された課題に取り組む	120分
第15回	全体のまとめ リスクと共生し、暮らしやすい社会にするためには何が大切であるか考える	
	【予習】	40分
	【復習】授業中に指定された課題に取り組む	120分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>授業中に提示する課題（70%）、期末レポート（30%）によって評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。 【ディプロマポリシー配分比率】専門性：100%</p>		
使用資料 <テキスト>	特に指定しない	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	指定された予習、復習を行う。		
授業外質問方法	授業終了後、オフィスアワー及びメール（y-takahasi@tuins.ac.jp）など		
オフィス・アワー	月曜日4限、440室		

授業科目名	生活と水環境論演習	科目コード	G3203P02
英文名	Life and the Water Environment Practicum		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 生活環境		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 ゆかり
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	自由	単位数	2単位

授業の概要	生活にとって必要不可欠な「水」について取り扱う。前半はミネラルウォーターの蒸発残留物や硬度などの測定を通して基本的な考え方を理解する。後半は、水質汚染物質について、基礎的な実験による測定などを通して理解を深める。また、実験によって得られた結果を考察して結論を導き出し、レポートにまとめる力を身につける。【SDGs：目標6】（担当教員：実務経験あり）			
-------	--	--	--	--

キーワード	水の性質	土壌の性質	富山の自然	災害
-------	------	-------	-------	----

到達目標	ミネラルウォーターの成分や水の基本的な性質について説明できる（40％）			
	水質汚染物質の測定についての基本的な考え方について説明できる（40％）			
	水の浄化方法についての基本的な考え方や災害時における水の浄化方法について説明できる（20％）			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション、水環境について知るための手法 授業の概要や重要な点などを確認する。また、水環境について調査する手法の概要について学ぶ。	
	【予習】特に定めない	
	【復習】授業で学んだ内容をよく復習しておく。	30分
第2回	水の蒸発残留物の測定 ミネラルウォーターの蒸発残留物を測定する。 実験器具取り扱い方、測定結果の出し方についても学ぶ。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験で得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第3回	おいしい水を知る、水の基本的性質の測定 ミネラルウォーターなどのpH、電気電導度などを測定する。また、水温と味の関係を考える。	
	【予習】おいしい水の要件にはどのようなものが挙げられるか、文献などで調べて整理しておく。 pH、全硬度、マグネシウム硬度、カルシウム硬度について調べ、整理しておく。	40分
	【復習】実験で得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第4回	硬度の測定 EDTA法による測定 数種類のミネラルウォーターの全硬度をEDTA法によって求める。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験で得られた結果より、試験に用いた水の全硬度を計算する。また、得られた結果からどのようなことがいえるか考察する。	40分
第5回	硬度の測定 EDTA法による測定 数種類のミネラルウォーターのカルシウム硬度をEDTA法によって求める。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験で得られた結果より、試験に用いた水のカルシウム硬度を計算する。前回の実験結果と合わせて実験レポートを作成する。	90分
第6回	流杉浄水場の見学（予定）	
	【予習】日本の浄水場における浄水方法、流杉浄水場における浄水方法について調べておく。	30分
	【復習】浄水場を見学して学んだことを整理し、レポートを作成する。	60分
第7回	これからの水道事業について考える	
	【予習】これまでの授業で学んだことをよく復習しておく	60分
	【復習】授業中に出された課題に取り組む。	60分
第8回	環境水中の環境汚染物質測定的基础 環境中の化学物質の動態を研究するための基礎となる事柄について学ぶ。	
	【予習】前回の授業中に配布された資料をよく読んで予習しておく。	40分
	【復習】授業で学んだことをよく理解しておく。	40分

第9回	富山県の水環境（水質調査）（予定）	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、調査の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】調査で得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第10回	生活排水の汚染度の測定　CODの測定 環境水のCODを測定することを通して、CODを求める方法の基本的な考え方を理解する。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験によって得られた結果を整理する。	40分
第11回	生活排水の汚染度の測定　CODの測定 前回の授業に引き続き、CODの測定を行う。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、調査の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験によって得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第12回	環境中の汚染物質の測定	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、調査の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験によって得られた結果を整理する。	40分
第13回	環境中の環境汚染物質の測定	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験によって得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第14回	災害時における水の浄化方法 簡易的に水を浄化する方法を演習を通して学び、緊急時に安全な水を得る手法について考察する。	
	【予習】これまで授業で学んだことを思い出し、災害時に身近にあるものを用いて水を浄化するためにはどうしたらよいか考えてくる。	40分
	【復習】レポートを作成する。	90分
第15回	全体のまとめ これまでのまとめをし、重要事項について補足する。	
	【予習】第8回から第14回までの授業で学んだことをよく復習しておく。	60分
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	レポートおよび授業中に実施する課題（90％）、授業への積極的取組姿勢（10％） 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。 【ディプロマポリシー配分比率】専門性：100％		
使用資料 <テキスト>	プリント配布	使用資料 <参考図書>	環境白書（富山県） 授業中に紹介する
授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基礎演習を履修済であることが望ましい。環境基礎演習を受講したことがない学生には、実験室を安全に使用するためのルールや器具の取り扱いに関する補講を実施するので、必ず出席すること。 ・実験前に事前に内容を確認(予習)し、実験終了後はレポートを提出すること。 		
授業外質問方法	授業終了後または、e-mail (y-takahasi@tuins.ac.jp) で受け付ける		
オフィス・アワー	月曜日 4 限、440室		

授業科目名	生活と水環境演習	科目コード	G3203P03
英文名	Lifestyle and Water Environment Practicum		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 生活環境		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 ゆかり
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	生活にとって必要不可欠な「水」について取り扱う。前半はミネラルウォーターの蒸発残留物や硬度などの測定を通して基本的な考え方を理解する。後半は、水質汚染物質について、基礎的な実験による測定などを通して理解を深める。また、実験によって得られた結果を考察して結論を導き出し、レポートにまとめる力を身につける。【SDGs：目標6】（担当教員：実務経験あり）			
-------	--	--	--	--

キーワード	水の性質	水質分析	富山の自然	災害時の水の確保
-------	------	------	-------	----------

到達目標	ミネラルウォーターの成分や水の基本的な性質について説明できる（40％）			
	水質汚染物質の測定についての基本的な考え方について説明できる（40％）			
	水の浄化方法についての基本的な考え方や災害時における水の浄化方法について説明できる（20％）			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション、水環境について知るための手法 授業の概要や重要な点などを確認する。また、水環境について調査する手法の概要について学ぶ。	
	【予習】特に定めない	
	【復習】授業で学んだ内容をよく復習しておく。	30分
第2回	水の蒸発残留物の測定 ミネラルウォーターの蒸発残留物を測定する。 実験器具取り扱い方、測定結果の出し方についても学ぶ。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験で得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第3回	おいしい水を知る、水の基本的性質の測定 ミネラルウォーターなどのpH、電気電導度を測定する。また、水温と味の関係を考える。	
	【予習】おいしい水の要件にはどのようなものが挙げられるか、文献などで調べて整理しておく。 pH、全硬度、マグネシウム硬度、カルシウム硬度について調べ、整理しておく。	40分
	【復習】実験で得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第4回	硬度の測定 EDTA法による測定 数種類のミネラルウォーターの全硬度をEDTA法によって求める。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験で得られた結果より、試験に用いた水の全硬度を計算する。また、得られた結果からどのようなことがいえるか考察する。	40分
第5回	硬度の測定 EDTA法による測定 数種類のミネラルウォーターのカルシウム硬度をEDTA法によって求める。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験で得られた結果より、試験に用いた水のカルシウム硬度を計算する。前回の実験結果と合わせて実験レポートを作成する。	90分
第6回	環境水中の環境汚染物質測定的基础 環境中の化学物質の動態を研究するための基礎となる事柄について学ぶ。	
	【予習】前回の授業中に配布された資料をよく読んで予習しておく。	40分
	【復習】授業で学んだことをよく理解しておく。	40分
第7回	富山県の水環境（水質調査）（予定）	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、調査の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】調査で得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第8回	生活排水の汚染度の測定 CODの測定 環境水のCODを測定することを通して、CODを求める方法の基本的な考え方を理解する。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験によって得られた結果を整理する。	40分

第9回	生活排水の汚染度の測定 CODの測定 前回の授業に引き続き、CODの測定を行う。	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、調査の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験によって得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第10回	環境中の汚染物質の測定	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、調査の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験によって得られた結果を整理する。	40分
第11回	環境中の汚染物質の測定	
	【予習】あらかじめ配布されたテキストをよく読み、実験の目的、使用する器具、実験操作を十分に理解し、ノートに整理しておく。	40分
	【復習】実験によって得られた結果を整理し、実験レポートを作成する。	90分
第12回	これからの水道事業について考える	
	【予習】これまでの授業で学んだことをよく復習しておく	60分
	【復習】授業中に出された課題に取り組む。	60分
第13回	流杉浄水場の見学（予定）	
	【予習】日本の浄水場における浄水方法、流杉浄水場における浄水方法について調べておく。	30分
	【復習】浄水場を見学して学んだことを整理し、レポートを作成する。	60分
第14回	災害時における水の浄化方法 簡易的に水を浄化する方法を演習を通して学び、緊急時に安全な水を得る手法について考察する。	
	【予習】これまで授業で学んだことを思い出し、災害時に身近にあるものを用いて水を浄化するためにはどうしたらよいか考えてくる。	40分
	【復習】レポートを作成する。	90分
第15回	全体のまとめ これまでのまとめをし、重要事項について補足する。	
	【予習】第8回から第14回までの授業で学んだことをよく復習しておく。	60分
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	レポートおよび授業中に実施する課題（90％）、授業への積極的取組姿勢（10％） 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。 【ディプロマポリシー配分比率】専門性：100％		
使用資料 <テキスト>	プリント配布	使用資料 <参考図書>	環境白書（富山県） 授業中に紹介する
授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基礎演習を履修済であることが望ましい。環境基礎演習を受講したことがない学生には、実験室を安全に使用するためのルールや器具の取り扱いに関する補講を実施するので、必ず出席すること。 ・実験前に事前に内容を確認(予習)し、実験終了後はレポートを提出すること。 		
授業外質問方法	授業終了後または、e-mail (y-takahasi@tuins.ac.jp) で受け付ける		
オフィス・アワー	月曜日 4 限、440室		

授業科目名	住環境デザイン演習	科目コード	G3203P07
英文名	Living Environment Design Practicum		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 生活環境		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	川本 聖一
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	水曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p> 本学の住環境分野に関する授業は、「住環境デザイン」「住環境デザイン」「住環境デザイン演習」「都市空間デザイン」である。その中で、「住環境デザイン」と「住環境デザイン」では、2つの講義を通して住環境に係わる職業人としての一般常識の習得と、「インテリアコーディネーター試験」などの住環境関連資格取得のための基礎知識習得を目指している。2つの講義を通して学んだ知識を基本に、「住環境デザイン演習」では、研究や実務に必要なプレゼンテーション手法に関して学習する。また、クライアントからのヒアリング能力、クライアントとのコミュニケーション能力を養う。各課題終了時に評価会を行う。内容は、一般的な図面や絵を使ってプレゼン能力を養うものであるため、「住環境デザイン」を受講していなくても構わない。単に出席していても意味がなく、各課題の提出とプレゼンテーションの実行を確実にしなければならない。(担当教員:企業での実務経験豊富)(関連SDGs:目標7、目標11、目標12) </p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	プレゼンテーション	設計製図	C A D	インテリアの設計	住宅の設計
-------	-----------	------	-------	----------	-------

到達目標	アパートや住宅の企画をグループ内でコミュニケーションをとりまとめる能力がある。(30%)				
	アパートや住宅の要望を整理して自分の企画を立てられる能力がある。(30%)				
	自分が作成した企画を有効にプレゼンテーションできる能力がある。(40%)				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイドンス / 用具の使用方法和線の引き方	
	【予習】	
	【復習】 毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第2回	図面のトレースと着彩 / CAD演習	
	【予習】	
	【復習】 毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第3回	住宅平面図 / CAD演習	
	【予習】	
	【復習】 毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第4回	住宅立面図 / CAD演習	
	【予習】	
	【復習】 毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第5回	パースの作成演習 1 / CAD演習	
	【予習】	
	【復習】 毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第6回	パースの作成演習 2 / CAD演習	
	【予習】	
	【復習】 毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第7回	プライベートルームの企画立案 (グループワーク)	
	【予習】	
	【復習】 毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第8回	プライベートルームの設計 1	
	【予習】	
	【復習】 毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第9回	プライベートルームの設計 2	
	【予習】	
	【復習】 毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分

第10回	プライベートルームの設計評価会	
	【予習】プライベートルームプレゼンテーションの準備	180分
	【復習】毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第11回	住宅計画の企画立案（グループワーク）	
	【予習】	
	【復習】毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第12回	住宅設計演習 1	
	【予習】	
	【復習】毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第13回	住宅設計演習 2	
	【予習】	
	【復習】毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第14回	住宅設計演習 3	
	【予習】	
	【復習】毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第15回	住宅設計評価会	
	【予習】住宅設計プレゼンテーションの準備	180分
	【復習】毎回の演習の中で出題された課題を次回の演習までに終了する必要がある。時間内に終了しない場合は宿題となる。	60分
第16回	住宅設計評価会 2（評価会未修了者、評価会欠席者対象）	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>期末考査は行わない。作成された作品（約50%の評価）とプレゼンテーション（約50%の評価）を学生が相互に評価した結果に基づいて評価する。頑張った人には、頑張った分に応じて高い評価をする方針である。</p>		
使用資料 <テキスト>	<p>オリジナルプリントを配布 各自フォルダーを用意して配布されたプリ</p>	<p>使用資料 <参考図書></p>	<p>授業の内容はLINE上にアップするので、予習・復習に活用することができる。必要に</p>
授業外学修等	<p>各課題を授業中に完成できない者は、授業以外に時間を作り課題を完成する必要がある。</p>		
授業外質問方法	<p>オフィスアワーを中心に随時研究室にて質問を受け付ける他、メール、SNS、にて対応する。遅刻や欠席の連絡は事前にメールやSNSにて行うことを希望する。 メールアドレス：kawamoto@tuins.ac.jp SNS：https://www.facebook.com/Kawamoto.Laboratory?ref=aymt_homepage_panel</p>		
オフィス・アワー	<p>木曜日 2時限（10：40～12：10） 研究室（439室）にて</p>		

授業科目名	バイオマスと環境	科目コード	G3303P04
英文名	Biomass and Environment		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 地球・自然環境		
------	----------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	繁宮 悠介
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	水曜日	時限	1限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>現代社会は石油や天然ガスをエネルギー源とし、また多くの石油製品を消費することで発展してきたが、化石資源はいずれ枯渇し、またCO2排出による地球温暖化も危惧されることから、再生可能な資源に置き換えていく必要がある。この科目では、現代においても人間は自然から様々なめぐみ（生態系サービス）を享受していることを理解した上で、バイオマス資源をエネルギーやプラスチック等に加工する技術を学ぶことで、環境に負荷をかけない持続可能な社会をどのように構築していくかを考える。</p>				
-------	--	--	--	--	--

キーワード	化石燃料	未利用バイオマス	廃棄物系バイオマス	資源作物	社会への実装
-------	------	----------	-----------	------	--------

到達目標	現代におけるバイオマス資源活用について情報を収集することができる。(40%)				
	バイオマス資源の種類とその活用技術、開発・実行状況を把握し説明することができる。(50%)				
	バイオマス資源に関する疑問点を追求し、他者の意見も聞いて思考を深めることができる。(10%)				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション 授業の内容と目標、成績評価のしかた	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「バイオマス」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第2回	エネルギーとは何か	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「エネルギー」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第3回	バイオマス利用の歴史	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「バイオマス」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第4回	化石燃料の功と罪	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「化石燃料（あるいは石油、石炭、天然ガス）」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第5回	世界のバイオマスエネルギー利用状況	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「バイオマス」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第6回	バイオマス資源の種類と利用例	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「バイオマス」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第7回	木質系廃棄物・未利用材	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「薪」「チップ」「ペレット」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第8回	農業系廃棄物	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「下水汚泥」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第9回	下水汚泥	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「廃油」もしくは「BDF」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分

第10回	廃食油	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「廃油」もしくは「BDF」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第11回	資源作物	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「作物からつくるエタノール」と関係した記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第12回	プラスチック	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「生分解性プラスチック」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第13回	繊維	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「セルロースファイバー」というワードの入った記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第14回	薬品	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「バイオマス由来の薬品」と関係した記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】授業内容の200字程度でまとめ、感想や質問を自学ノートに書く。質問のうち全員で共有すべきものには次回の授業で回答するので、その質問と回答も自学ノートに追記する。	20分
第15回	これからのバイオマス利用	
	【予習】一週間以内の新聞・ネット記事から「バイオマス」と関係した記事を探し（無ければ「自然」「生態系」の関する記事）、その内容をまとめるとともに、その記事を自学ノートに貼り付ける。	210分
	【復習】15回の授業内容の見直しを行い、試験において回答できるようにする。	20分
第16回	期末試験	
	【予習】15回の授業内容の見直しを行い、試験において回答できるようにする。	210分
	【復習】試験において答えられなかったところを復習し、知識として蓄積する。	20分

評価方法	<p>目標 : 毎回の理解度(まとめが書けているか・20%)と毎回の家庭学習成果(ニュース記事が書けているか・20%)で評価する。</p> <p>目標 : 毎回の授業における意見交換(質問が書けているか・10%)で評価する。</p> <p>目標 : 毎回の家庭学習成果(ニュース記事が書けているか・20%)および期末試験(知識の定着と課題解決力の養成が行えているか・30%)で評価する。</p>		
使用資料 <テキスト>	適宜配布	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習としてのニュース記事の把握は、1日の新聞・ニュースの視聴時間を約30分として計算したものである。大学での授業と時事的な問題をつなげるための大切な活動であることを理解し取り組むこと。 ・ 毎回の「まとめ」は、個人の感想ではなく、授業全体を通して述べられた内容をまとめること。 		
授業外質問方法	授業終了後およびメールにより質問を受け付ける。		
オフィス・アワー			

授業科目名	エネルギー論演習	科目コード	G3303P05
英文名	Energy Practicum		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 地球・自然環境		
------	----------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	上坂 博亨
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	資源・エネルギー論で学んだ日本と世界のエネルギーの動向や特性をふまえ、本授業ではエネルギーの具体的なエネルギーの取り扱いに踏み込む。授業では基本的な物理的性質や単位系と数量的な取り扱い、また再生可能エネルギーの利用の詳細について演習をとおして理解を深める。【SDGs目標7,目標13】			
-------	--	--	--	--

キーワード	エネルギー	熱	単位系	エネルギー変換	電気自動車
-------	-------	---	-----	---------	-------

到達目標	自宅や社会でのエネルギー使用量を調査でき、説明することができる			
	様々なエネルギーの量的な表し方(単位等)を理解し使用することができる			
	エネルギーの相互変換について、効率を考慮して概要を説明できる			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	4.社会人としての能力(社会性の向上)
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<p><ガイダンスとトピックス> 本授業の概要を示し、本授業で学ぶ内容と授業の受け方について説明する また 2021/3/1に公開された富山市のゼロカーボンシティ宣言と、2050年に向けたロードマップについて改めて考えてみる</p>	
	<p>【予習】富山市のゼロカーボンシティ宣言を読んでおく https://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/23229/1/01zerocarbonsengensyo.pdf?20210301152929</p>	15分
	<p>【復習】富山市の「ゼロカーボンシティの実現に向けたロードマップ」を見直しておく https://www.city.toyama.toyama.jp/data/open/cnt/3/23229/1/02roadmap.pdf?20210301152929</p>	30分
第2回	<p><自宅のエネルギーを理解する> 家庭でのエネルギー使用量 まず資源・エネルギー論で学んだことを復習する。世界は、日本は、どのようなエネルギーの使い方をしているのか？次にそれぞれの家庭ではどの程度の電力を使っているか？北陸電力の明細書の読み方を学び、実際に自宅の電力を調査して、1か月に必要な電力量を把握してみる</p>	
	<p>【予習】資源エネルギー論の講義内容を思い出しておく</p>	15分
	<p>【復習】自分の自宅の電力使用量を調査しておく。さらに1年間に必要な電力量はどの程度になるか計算しておく。 さらに年間の、ガス使用量、灯油使用量、ガソリン使用量を調べておく</p>	15分
第3回	<p><自宅のエネルギーを理解する> 太陽光発電で得られる電力 宿題として調査した自宅のガス・灯油・ガソリン・電力の使用量から、年間のエネルギー消費（MJ）を計算する。また、そのエネルギーを電力で賄うとすると、どの程度の発電をすれば良いかについて計算してみる。</p>	
	<p>【予習】資源・エネルギー論の太陽光発電の部分を見直しておく</p>	15分
	<p>【復習】指定した演習問題を解く</p>	15分
第4回	<p><自宅のエネルギーを理解する> 自宅のエネルギーを太陽光でまかなう 商品の太陽光パネルのデータ）をもちいて自宅の電力を賄う計画を立ててみる パネル1枚の最大出力、1日あたりの発電量はデータを使用し、晴天率、設備利用率などから、年間の発電量を推計してみる</p>	
	<p>【予習】自宅の年間の使用電力量を調べておく 資源・エネルギー論の太陽光発電の部分を見直しておく</p>	15分
	<p>【復習】指定した演習問題を解く</p>	15分
第5回	<p><小水力発電のエネルギー変換> 水力発電の原理 位置エネルギーから運動エネルギー、そして「仕事」をするという概念を理解する レールに球を転がして木片にぶつけ、球の持つエネルギーの大きさを考えてみる。高さを2倍にすると、仕事はどうなるか？</p>	
	<p>【予習】高校の物理 の教科書の、運動エネルギーのところを復習しておく</p>	15分
	<p>【復習】指定した演習問題を解く</p>	15分
第6回	<p><小水力発電のエネルギー変換> 水車で電気をつくる 水車の気持ちになって、発電機を回す「仕事」を試みる。（グループ活動） たくさんの電気を発電するときには、ハンドルの重さはどうなるか？その違いの理由を考えてみる。</p>	
	<p>【予習】資源・エネルギー論の発電の部分を見直しておく</p>	15分
	<p>【復習】指定した演習問題を解く</p>	15分
第7回	<p><小水力発電のエネルギー変換> 用水路での発電を試みる 流量、落差から発電量を求める原理と、簡単な計算方法を学びEXCEL体験する。我々の身の回りの用水路でどの程度の発電ができるのか？その電力は皆さんにとって大きいのか？小さいか？自宅の電気代は只になるのか？</p>	
	<p>【予習】資源・エネルギー論の発電の部分を見直しておく</p>	15分
	<p>【復習】指定した演習問題を解く</p>	15分

第8回	<p><小水力発電のエネルギー変換> 水路発電で自宅の電力自給 発電に必要な水路の流量はどのように求めるのか？落差はどのように計測するのか？ 与えられた落差と流量から、1か月にどの程度の発電ができるのか？年間の発電量はいかにほどになるのか？</p>	
	【予習】 資源・エネルギー論の発電の部分を復習しておく	15分
第9回	<p><熱エネルギーの利用> 木質バイオマスのエネルギー 「木」は発熱量としてどれくらいのエネルギーを持っているか？生活の中で、薪や炭が灯油やガスに置き換わってきたのはなぜだろうか？家の暖房費を下げるにはどうすればよいのか？ 熱の伝わり方<対流・伝導・輻射>からエネルギーロスを考えてみる。</p>	
	【予習】 資源・エネルギー論の木質バイオマスの部分を復習しておく	15分
第10回	<p><熱エネルギーの利用> 電気から熱へ 熱エネルギーとはどのようなものか？そもそも「熱い」とはどういうことか？ 電子レンジが温めているのは水である。電気から熱へのエネルギー変換はどのように行われているのか？</p>	
	【予習】 家庭での実験：自宅の電子レンジでコップ1杯（約100ml程度）の水を1分間温めてみる。次にコップ2杯（100mlのコップを二つ）の水を1分間温めてみる。その温度の違いはなぜかを考えておく	15分
第11回	<p><熱エネルギーの利用> 家庭暖房のエネルギー 電気から熱を得る道具として電気ストーブとエアコンを比べてみる。どちらが電気代が安いのか？ また電力から熱へのエネルギー変換方法としてヒートポンプを理解する。エコキュートは与えた電力の3倍もの熱を生み出すが、なぜそんなことができるのか？</p>	
	【予習】 資源・エネルギー論のヒートポンプの部分を復習しておく	15分
第12回	<p><熱エネルギーの利用> 料理のエネルギー 昔は薪や炭で料理、今はガスで調理、何が良くてそうなってきたのか？ IH電磁調理器はガスに比べて圧倒的に早くお湯が沸くがなぜだろうか？電磁調理器で土鍋を使うにはどうすればよいのか？</p>	
	【予習】 300mlの冷たい水道水を鍋に入れて、ガスレンジ、またはIH電磁調理器で沸騰するまでの時間を測っておく。授業中に全員に発表してもらおう	15分
第13回	<p><電気自動車の利用> 自動車のエネルギー効率 それぞれ自分の自動車の燃費を調べておく。ガソリンのエネルギーの何パーセントほどが移動に利用されているのか？ 自動車のエネルギーロスはどこから？ 燃費をよくする運転とは？</p>	
	【予習】 自分の車の燃費を調べておく	15分
第14回	<p><電気自動車の利用> 電気自動車はお得か？ 2050年のCO2排出量ゼロ社会を目指して、2035年にはガソリン車販売が停止される。 学生諸君は電気自動車に乗るべきか？乗らざるべきか？エネルギーと経済性の両面から計算し、改めて考えてみる。</p>	
	【予習】 日本で販売されている電気自動車の車種名と特徴について調べておく	15分
第15回	<p><電気自動車の利用> EV、HV、PHV、FCVの仕組みと普及 エコカーとして知られるEV、HV、PHV、FCVのしくみは？ 日本におけるEVの普及は世界に比べてどうか？日本でEVを普及させるためにはどのような事が必要になるだろうか？</p>	
	【予習】 FCVとは何か？EVとPHVは何が違うのか？基礎知識として調べておく	15分
	【復習】 指定した演習問題を解く	15分

第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への興味関心度と受講態度（10%）、授業毎の演習問題（30%）、期末試験（60%）にて評価する。 ただし70%以上の出席が無い場合は期末試験受験資格が得られない。
------	--

使用資料 <テキスト>	パワーポイント資料などを提示する	使用資料 <参考図書>	パワーポイント資料などを提示する
----------------	------------------	----------------	------------------

授業外学修等	
--------	--

授業外質問方法	
---------	--

オフィス・アワー	
----------	--

授業科目名	環境政策論	科目コード	G3403L04
英文名	Environmental Policy		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 社会環境		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	上坂 博亨
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	富山県と富山市の環境政策についてまなぶ。特にパリ協定とSDGs に注目して、世界の中の日本という視点を保ちながら、行政サイドの取組みを学び、持続可能な社会を形成するための方策と取組みについて理解を深める。【SDGs：目標11，目標9】			
-------	---	--	--	--

キーワード	環境政策	SDGs	パリ協定	経済と社会	持続可能
-------	------	------	------	-------	------

到達目標	富山県と富山市の特徴的な環境施策について理解を深め、分野ごとの取組みについて概略を説明できる（50%）			
	あらゆる活動（企業、生活者等）において環境保全に配慮した行動が求められていることを考慮し、県民や事業者に必要な環境法令や自主的な行動について説明できる（50%）			

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション / 環境政策について (上坂博亨) 環境政策に関する一般的な議論、および最近のトピックスを踏まえて環境政策としての視点を紹介する	
	【予習】 ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】 提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第2回	パリ協定およびSDGsに対する世界と日本の動向	
	【予習】 ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】 提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第3回	富山県の環境政策の概要 (環境審議会より)	
	【予習】 ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】 提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第4回	富山県における温暖化対策の現状と課題	
	【予習】 ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】 提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第5回	消費者から見たエコライフスタイルの推進	
	【予習】 ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】 提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第6回	3R・食品ロス対策の推進について	
	【予習】 ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】 提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第7回	立山カルデラの自然と災害	
	【予習】 ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】 提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第8回	生物多様性の保全と持続可能な利用	
	【予習】 ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】 提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分

第9回	水と緑の森づくり	
	【予習】ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第10回	国際協力と海洋環境保全	
	【予習】ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第11回	生活環境の保全のために	
	【予習】ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第12回	富山湾における豊かな海づくり	
	【予習】ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第13回	富山市におけるSDGsへの取り組み	
	【予習】ホームページ等によって講義内容に関する事前知識を得ておくこと 新聞などで、講義内容に関する記事を探しておくこと	20分
	【復習】提供されたパワーポイント資料を読み直してみる	20分
第14回	大学生が考える富山県における環境政策（グループワーク）	
	【予習】提供されたパワーポイント資料を読み直して討議に備える	40分
	【復習】（次の時間と連続のため、特になし）	
第15回	大学生が考える富山県における環境政策（グループワーク）	
	【予習】（前の時間と連続のため、特になし）	
	【復習】レポート作成する	60分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>授業への興味関心度と取り組み姿勢（20%）、授業毎の演習問題（30%）、最終レポート（50%）にて評価する。 ただし70%以上の出席が無い場合は期末試験受験資格が得られない。 【ディプロマポリシー配分比率】社会性：50%、専門性：50%</p>		
使用資料 <テキスト>	パワーポイント資料などを提示する	使用資料 <参考図書>	パワーポイント資料などを提示する
授業外学修等	<p>授業外における課題学習については、授業中にレポート課題などを提示する。</p>		
授業外質問方法	<p>授業終了後または電子メールにて受け付ける（上坂：uesaka@tuins.ac.jp）</p>		
オフィス・アワー	<p>月曜日 2 時限（上坂）436研究室</p>		

授業科目名	環境マネジメント（CSR）	科目コード	G3403L05
英文名	Environmental Management (CSR)		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 社会環境		
------	-------------------	--	--

職名	客員教授	担当教員名	藤田 香
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	3年後期集中	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	CSRは「企業の社会的責任」と訳されるが、環境・社会・経済を両立させることは持続可能な経営をする企業の使命でもある。企業が事業活動を通してどのように環境や社会に配慮をし、SDGsに貢献しているか、講義や企業担当者の声、現場視察を通して学ぶ。			
-------	--	--	--	--

キーワード	企業経営	CSR	環境マネジメント	持続可能性	SDGs
-------	------	-----	----------	-------	------

到達目標	企業が社会的責任をどのように捉え、環境や社会の問題と向き合い、事業と両立させながら取り組んでいるかを理解する。
	企業活動と環境問題や社会問題との関係性を理解する。
	企業を見る目を養い、商品の背景を知り、消費者として判断できるようになる。
	企業に対し、より良い企業活動を行うために、自らの視点で提案する。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	幅広く多様な専門知識の修得

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	全体講義：企業の社会的責任（CSR）の基礎 - CSRからCSVへ、環境マネジメントシステム、トリプルボトムライン、SDGsへの貢献など（オンライン）。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	全体講義：企業の環境コミュニケーションや環境教育活動、環境人材の育成など（オンライン）。	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	キリンを実例にしたワークショップ：グローバル企業であるキリンのCSRを学ぶ1（オンライン）。	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	キリンを実例にした講義：キリンホールディングス株式会社 CSV戦略部 藤原啓一郎さんの講義と質疑応答。グローバル企業であるキリンのCSRを学ぶ2（オンライン）。	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	キリンを実例にしたグループワーク：グローバル企業であるキリンのCSRを学んだうえで、関心を持った取り組みや消費者への伝え方をグループで議論し、発表する（オンライン）。	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	YKKを実例にした講義：YKK株式会社 黒部事業所 環境・安全グループ長の村田康博さんの講義。環境や社会に配慮して持続可能な経営をしている富山県の企業YKKの経営や事業への考え方や取り組みを学ぶ1（オンライン）。	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	YKKを実例にしたワークショップ：YKKの村田さんを交えたワークショップ。環境や社会に配慮して持続可能な経営をしている富山県の企業YKKの経営や事業への考え方や取り組みを学ぶ2（オンライン）。	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	YKKを実例にしたグループワーク：YKKのCSRを学んだうえで、関心を持った取り組みや消費者への伝え方をグループで議論し、発表する（オンライン）。	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	YKKの講義：YKKの担当者が、経営や事業への考え方や取り組みの実例について講義（リアル）。	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	YKKを実例にしたワークショップ：YKKの担当者との質疑応答とレポートの発表など（リアル）。	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	ハリタ金属の視察：ハリタ金属株式会社 代表取締役社長の張田真さんの講義。環境や社会に配慮して持続可能な経営をしている富山県の企業、高岡市のハリタ金属を訪れ、経営や事業への考え方や取り組みを張田社長の講義から学ぶ。ハリタ金属は家電リサイクルなどの資源循環で評価されている企業である（リアル）。	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	ハリタ金属の視察：ハリタ金属の家電リサイクルの工場を視察し、リサイクルの現場を知る（リアル）。	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	ハリタ金属でのワークショップ：ハリタ金属の講義と工場視察を経て、レポートを作成（リアル）。	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	ハリタ金属でのグループワーク：ワークショップでまとめたレポートをグループで議論し、グループごとに発表する（リアル）。	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	ハリタ金属でのグループワークとレポート作成：グループごとの発表の続きと、最終レポートの作成（リアル）。	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	最終レポートで評価する。ただし、平常点として、出席回数やワークショップ、グループワークへの参加態度も加味し、総合的に評価する。		
使用資料 <テキスト>	なし	使用資料 <参考図書>	pptなどの資料を共有する
授業外学修等	視察や実例で取り上げる企業の取り組みについて、予習・復習を行うこと。		
授業外質問方法			
オフィス・アワー			

授業科目名	都市空間デザイン	科目コード	G3403L06
英文名	Urban Space Design		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 社会環境		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	川本 聖一
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	1限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p> 本学の住環境分野に関する授業は、「住環境デザイン」「住環境デザイン」「住環境デザイン演習」「都市空間デザイン」である。その中で、「住環境デザイン」と「住環境デザイン」では、2つの講義を通して住環境に係わる職業人としての一般常識の習得と、「インテリアコーディネーター試験」などの住環境関連資格取得のための基礎知識習得を目指している。「都市空間デザイン」では、「住環境デザイン」で学んだ基礎知識が、実社会における法制度や社会システムの中でどのように生かされていくのかを学ぶ。また、住環境関連産業の発展の歴史や、問題点と今後の展望について学ぶとともに、都市計画の制度とまちづくりの手法も学習する。講義は1回ずつ完結するスタイルで行うため、「住環境デザイン」を未受講であったり、前回講義を欠席しても、その回の講義は理解できるように進める。(担当教員:企業での実務経験豊富)(関連SDGs:目標7、目標11、目標12) </p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	住宅市場	住宅産業	建築基準法	品確法	まちづくり
-------	------	------	-------	-----	-------

到達目標	住環境産業の発展と最新状況を説明できる。(40%)
	住まいに係る法制度とまちづくりの手法を説明できる。(30%)
	今日的な住環境産業界の問題点を認識し、その解決に向けた将来展望のイメージを持つ。(30%)

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
第2回	日本の住宅市場の現状	
	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
第3回	住宅産業の誕生と成長	
	【予習】LINEで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
第4回	住宅産業の構造	
	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
第5回	用途地域と建物の大きさ	
	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
第6回	法律用語と居室の規定	
	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
第7回	安心・安全に暮らすための規定	
	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
第8回	品確法1（概要と構造性能）	
	【予習】LINEで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
第9回	品確法2（火災・劣化・維持管理・省エネ）	
	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分

	品確法3（空気・光・高齢者・防犯・音）	
第10回	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
	都市計画とまちづくり	
第11回	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
	まちづくりの理論と実例	
第12回	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
	住宅産業の最新技術	
第13回	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
	住宅産業の課題	
第14回	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
	住宅産業の将来展望	
第15回	【予習】SNSで授業内容を配信するので、目を通しておく。	15分
	【復習】講義内容を踏まえ、「必修レポート」「自由レポート」「復習レポート」を作成し、次回の講義の初めに代表者が作成したレポートをプレゼンテーションする。	60分
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>期末考査は行わない。毎回の講義の終わりに行う「ミニテスト」(約50%の評価)、全員が提出すべき「必修レポート」(「復習レポート」を含む)、各自興味がある項目を深く掘り下げる「自由レポート」、調べたことを全員の前で発表する「プレゼンテーション」(ミニテスト以外で約50%の評価)の4項目で評価する。頑張った人には、頑張った分に応じて高い評価をする方針である。</p>		
使用資料 <テキスト>	<p>オリジナルプリントを配布 各自フォルダーを用意して配布されたプリ</p>	<p>使用資料 <参考図書></p>	<p>授業の内容はSNS上にアップするので、予習・復習に活用することができる。必要に応</p>
授業外学修等	<p>授業以外に、自ら調べてそれを自分の言葉でまとめる作業を、ほぼ毎回宿題として出題する。全員が提出すべき「必修レポート」、過去の講義の内容を復習する「復習レポート」、各自興味がある項目を深く掘り下げる「自由レポート」がある。</p>		
授業外質問方法	<p>オフィスアワーを中心に随時研究室にて質問を受け付ける他、メール、SNS、にて対応する。遅刻や欠席の連絡は事前にメールやSNSにて行うことを希望する。 メールアドレス : kawamoto@tuins.ac.jp SNS : https://www.facebook.com/Kawamoto.Laboratory?ref=aymt_homepage_panel</p>		
オフィス・アワー	<p>木曜日 2時限 (10:40~12:10) 研究室(439室)にて</p>		

授業科目名	環境共生社会論	科目コード	G3403L07
英文名	Environmentally Friendly Society		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 社会環境		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	上坂 博亨
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>環境デザイン専攻において学んできた様々な環境に対する取り組みやその基本的考え方を踏まえて、その知識や経験を実社会においてどのように実践に生かすかについて学ぶ。授業ではいくつかの実践事例に触れながら、地域に対する環境・社会・経済を軸とする複合的な視点を養い、人と環境との持続可能な共生社会について考える。【SDGs目標：目標11/関連目標7, 8, 17】</p>			
-------	--	--	--	--

キーワード	持続可能性	自然と生活	環境と経済	エネルギーと社会	共生社会
-------	-------	-------	-------	----------	------

到達目標	地域の抱える問題について、地域生活者の視点で理解することができる(30%)
	地域の問題や課題に基づいて、地域の将来を考えることができる(30%)
	地域の課題について新しい改善策を検討し提案することができる(40%)

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	4.社会人としての能力(社会性の向上)
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<p><オリエンテーションとガイダンス> (富山国際大学・上坂博亨) 講義内容、到達目標、評価方法などについて説明する。 授業資料はTeamsを利用して配布し、課題もTeamsにて集めるため、その使用方法についても説明する。</p>	
	<p>【予習】(特に無し)</p>	
	<p>【復習】(特に無し)</p>	
第2回	<p><宇奈月温泉における地域活性化 > 上坂博亨 平成以降、経済の鈍化、人口減少などによって宇奈月温泉の客数は現象し続けてきた。このような温泉観光地において水力、温泉熱、森林バイオマスなどを利用した、エコ温泉リゾートとして活性化を目指す「でんき宇奈月プロジェクト」の活動を紹介し、実践事例に基づいてプロジェクト推進者の役割について考える。</p>	
	<p>【予習】(特に無し)</p>	
	<p>【復習】振り返りレポートに講義の概要をまとめる</p>	
第3回	<p><宇奈月温泉における地域活性化 > 上坂博亨 でんき宇奈月プロジェクトを事例として、プロジェクト実施にあたってのいくつかの具体的な問題点をあげ、それに対する解決策をグループ毎に検討する。さらに今後取り入れていく事が望まれるプランについても提案を試みる</p>	
	<p>【予習】第1回の実践事例内容について資料を読み返しておく。</p>	
	<p>【復習】グループとしての意見に加えて個人のプランを記したレポートをまとめる</p>	
第4回	<p><社会における電気自動車の導入 > 上坂博亨 でんき宇奈月プロジェクトでは、温泉街を電気自動車の街にすることを目標に様々な施策を実施し、現在はEMUという低速8輪電気バス3台を定期運航している。ここではまず、電気自動車導入のきっかけとなるスイスのツェルマットの現状と、宇奈月温泉における活性化策の実践事例を紹介し、現状について理解を深める</p>	
	<p>【予習】(特に無し)</p>	
	<p>【復習】振り返りレポートに講義の概要をまとめる</p>	
第5回	<p><社会における電気自動車の導入 > 上坂博亨 地域への電気自動車導入を目指した、でんき宇奈月プロジェクトでの実践事例の中から、いくつかの具体的な問題点をあげ、それに対する解決策をグループ毎に検討する。さらに今後取り入れていく事が望まれるプランについても提案を試みる</p>	
	<p>【予習】第1回の実践事例内容について資料を読み返しておく。</p>	
	<p>【復習】グループとしての意見に加えて個人のプランを記したレポートをまとめる</p>	
第6回	<p><棚田保全是なぜ必要か > 繁宮悠介 日本の原風景とも言われる棚田は、作業効率の悪さや後継者不足から存続が危ぶまれている。日本各地で取り組まれている棚田農家と都市部住民による棚田存続の取り組みについて学ぶと共に、中山間地集落の存続について考える。</p>	
	<p>【予習】(特に無し)</p>	
	<p>【復習】振り返りレポートに講義の概要をまとめる</p>	
第7回	<p><棚田保全是なぜ必要か > 繁宮悠介 棚田の存続には、実際に農業が営まれることが不可欠であるが、経済効率性は平地や外国の水田に比べ圧倒的に悪いため、通常の営農による収入だけでは持続可能ではない。棚田集落と景観の存続を目指し、現代社会のニーズに合った新たな取り組みを考案する。</p>	
	<p>【予習】第1回の実践事例内容について資料を読み返しておく。</p>	
	<p>【復習】グループとしての意見に加えて個人のプランを記したレポートをまとめる</p>	
第8回	<p><間伐材利用の推進 > 繁宮悠介 戦後、日本の山林は木材の利用が進まず、人工林の材木蓄積量は増加の一途をたどっている。このような現状をふまえ、間伐材によって収入を得ながら木材の利用を促進する自伐林業を促進し、林業循環の再生に取り組む事例を学ぶ。</p>	
	<p>【予習】(特に無し)</p>	
	<p>【復習】振り返りレポートに講義の概要をまとめる</p>	

第9回	<p><間伐材利用の推進 > 繁宮悠介 木質バイオマスの利用を促進するための事例をあげながら、実践事例の中にひそむ具体的な問題点を明らかにする。それに対する解決策をグループ毎に検討し、さらに今後取り入れていく事が望まれるプランについても提案を試みる。</p>	
	【予習】 第1回の実践事例内容について資料を読み返しておく。	
	【復習】 グループとしての意見に加えて個人のプランを記したレポートをまとめる	
第10回	<p><地域小水力発電の開発 > 上坂博亨 南砺市や黒部市で実践されてきた地域への小水力発電の導入事例について紹介し、その目的と意義について理解する。またプロジェクト推進にあたって必要となる法令や制度についても概要に触れ、地域資源利用についての理解を深める。</p>	
	【予習】 (特に無し)	
	【復習】 振り返りレポートに講義の概要をまとめる	
第11回	<p><地域小水力発電の開発 > 上坂博亨 地域資源の利用に関して、地域には利害関係者が存在する。地域小水力発電の開発事例をとおして、典型的な利害関係構造の実例を示し、その合意形成プロセスについて実践的に学ぶ。また事例を用いて利害関係の解消についてグループで意見をまとめる。</p>	
	【予習】 第1回の実践事例内容について資料を読み返しておく。	
	【復習】 グループとしての意見に加えて個人のプランを記したレポートをまとめる	
第12回	<p><科学の知見と社会をつなぐ > 繁宮悠介 人間は科学によって繁栄した一方で環境への負荷を増大させてきた。これからの快適な社会を構築するためには、科学技術に頼るだけで無く、科学知識の正しい使い方(科学リテラシー)が求められる。学校教育や生涯教育を通じた科学リテラシーの向上について考える。</p>	
	【予習】 (特に無し)	
	【復習】 振り返りレポートに講義の概要をまとめる	
第13回	<p><科学の知見と社会をつなぐ > 繁宮悠介 市民の科学リテラシーの向上における博物館施設の役割は大きい。科学的概念の理解を促進するために、展示を始めとした博物館の工夫を学んだ後、展示のアイデアを考案する。</p>	
	【予習】 第1回の実践事例内容について資料を読み返しておく。	
	【復習】 グループとしての意見に加えて個人のプランを記したレポートをまとめる	
第14回	<p><グループワーク > 繁宮・上坂 与えられた地域課題について、グループでその問題点の本質を討議し、持続可能な地域社会形成にむけた改善プランを検討する。その環境適合性、社会的共生性、経済的有益性を吟味し、持続可能なプランとするための諸条件について検討する。</p>	
	【予習】 本授業で学んだ実践事例について復習しておく	
	【復習】 グループワークが時間内に終わらない場合は、放課後などを利用してグループ討議を進めておくこと	
第15回	<p><グループワークの続きと、発表 > 繁宮・上坂 第14回で検討した内容をさらにブラッシュアップし、それに基づいて発表資料を作成し、与えられた時間内に発表して相互評価する。</p>	
	【予習】 検討中の課題についてインターネットなどで情報収集しておく	
	【復習】 期末課題のレポート作成にむけて、発表会での指摘を参考にしてグループの提案の改善を進める	
第16回	(期末試験はレポートとする)	
	【予習】 (特に無し)	
	【復習】 (特に無し)	

評価方法	単元ごとに課すレポート（30%）、積極的な授業への参加態度（20%）、期末試験に代える個人レポート(50%)		
使用資料 <テキスト>	教科書は特に無し、資料は必要に応じて教員が提示する	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	必要に応じて、インターネット調査やグループワークを授業外に実施する		
授業外質問方法	出席確認のためのフォーム提出に合わせて質問を送信する。また随時メールでも質問を受け付ける 上坂：uesaka@tuins.ac.jp 繁宮：shigemiy@tuins.ac.jp		
オフィス・アワー	毎週(木)曜日、4～5限目		

授業科目名	環境デザイン特別講義	科目コード	G3503L01
英文名	Special Lecture on Environmental Design		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	上坂 博亨
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>環境問題を地域の視点で捉え、問題解決に向けての方策を考えるため、地域のエネルギー企業、施設、行政担当者を招き富山の実情を学ぶ。具体的には、エネルギー分野の企業、環境保全のための公的機関の担当者、地域活動や自然環境の専門家などを招いて新しい情報提供を受けながら、富山の未来環境をデザインするために情報を収集し、課題解決に向けた方策について考える。少なくとも1回は県外の第一人者の講義を実施する。【SDGs：目標3,7,11,14】</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	災害	エネルギー	環日本海	富山の自然	富山の暮らし
-------	----	-------	------	-------	--------

到達目標	環境に関わる専門分野の第一人者から現在の実情や取組を聞き実態を理解する。			
	環境に関する課題を整理することができる。			
	課題解決のための提案ができる。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<オリエンテーションとガイダンス> (富山国際大学・上坂博亨) 講義内容、到達目標、評価方法などについて説明する。 授業資料はTeamsを利用して配布し、課題もTeamsにて集めるため、その使用方法についても説明する。	
	【予習】(特になし)	
	【復習】課題提出の練習のための課題を課すので、提出練習をしておくこと。 また、Teamsを使った授業の受け方について復習しておくこと。	30分
第2回	<エネルギーと環境(電気事業者を中心として)> (北陸電力株式会社) 世界・日本のエネルギー事情のなかから特に電力エネルギーについて、日本と世界のエネルギーミックスの動きと北陸地方の電力消費や電源構成について紹介する。また2050年のCO2排出ゼロを実現のための方針を考えていく。	
	【予習】日本の電力利用と、自宅における電力消費について復習しておく	30分
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	30分
第3回	エネルギーと環境(電気事業者を中心として) > (北陸電力株式会社) 原子力発電の構造と機能に簡単に触れながら、東日本大震災以降、稼働が困難となっている原子力発電の現状について紹介する。また将来にむけて原子力発電の役割と見直しについて考えていく。	
	【予習】富山のエネルギー事情について調べる	15分
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	30分
第4回	<富山県の自然エネルギーとその利用> (富山国際大学・上坂博亨) 自然エネルギーは地域によって偏在するため、その利用には工夫が求められる。富山県に豊富な自然エネルギーである水力、地熱、木質バイオマスについて、有効な利用方法について学ぶ	
	【予習】資源エネルギー論で学んだ自然エネルギーについて復習しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第5回	<エネルギー会社からみた化石エネルギーのゆくえと環境> (日本海ガス株式会社) ガス販売を主体とするエネルギー会社が、2030年のCO2排出量の46%削減、2050年のカーボンニュートラル宣言を受けて、今後どのようなビジネス活動を目指していくかについて、富山のリーディング企業としてのエネルギー企業の方向性を紹介する	
	【予習】生活の中でのガス利用について改めて整理しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第6回	<富山県の知られざる風景> (JOURNALカメラマン・小島崇義) テレビ局のカメラマンも勤める講師が、様々な取材をとおして、あるいは自身の探求によって得られた貴重な富山の風景や自然現象の映像を用いて、富山県の新たな自然について紹介し環境の保全について考える。	
	【予習】(特になし)	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第7回	<環境と福祉の融合の視点(富山県寄付講義)> (社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長・住谷茂氏) 日本の高度経済成長の反面としての環境汚染や社会的弱者の切り捨てなどに端を発した社会的問題にすどくメスをいれ、日本においていち早く環境福祉学を提唱してきた講師による環境と福祉の融合による新たな社会形成について考える。	
	【予習】Web記事(https://www.smgf.co.jp/sustainability/report/topinterview/detail075.html) を通読しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第8回	<環日本海海域と富山(ごみ問題を中心として)> (環日本海環境協力センター・吉田尚弘氏) 富山湾を中心とした海洋ごみ問題、ならびにマイクロプラスチックなどによる汚染問題などに注目しながら、海洋保全について考える。	
	【予習】海洋ゴミと汚染についてWeb記事などに目を通しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	

第9回	<環日本海海域と富山(文化交流の視点から)> (富山県環日本海推進機構・藤田富士夫氏)	
	【予習】富山県における海洋交通や通商の歴史について復習しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第10回	<環日本海海域の水環境(海洋生物)について> (魚津水族館館長・稲村修氏)	
	【予習】魚津水族館のHPIに目を通しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第11回	<富山の地形の成り立ちと災害> (立山カルデラ砂防博物館学芸課長・飯田肇氏) 立山連峰をはじめとした急峻で複雑な富山県の地形と、それに伴う災害などの社会現象、また日本で唯一認定されている現存する氷河などについて、その地球科学的な背景から成り立ちを考えていく	
	【予習】立山カルデラ博物館の見学レポートを見直しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第12回	<黒部川の自然と災害> (大高建設株式会社社長・大橋聡司氏) 立山連峰と白馬連邦の間を流れる急峻で水量豊富な黒部川は、下流に居住する人々に豊かな恵みと大きな災害をもたらしてきた。黒部川の治水と利水に取り組む県有数の建設企業が長年の黒部川との闘いについて紹介し、自然との共生について考える。	
	【予習】黒部川の自然環境の概要や重要な地名について、地図などを使って学んでおく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第13回	<富山県の住宅と災害対策> (富山国際大学・川本聖一) 過去から雪害、水害などの闘いによって形作られてきた富山県に特徴的な住宅環境について紹介し、環境と調和した生活スタイルの形成と持続可能性について考える。	
	【予習】これまでの住環境に関する授業を復習しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第14回	<富山の歴史・自然・文化からみる持続可能性> (早稲田大学名誉教授・宮口侗彦先生) ここまで学んだ富山県の様々な知識を総合する形で、富山という地域を形成した歴史・自然・文化などの相互関係と成り立ちの必然性について、人と環境の関わり合いに注目しながら富山についての理解を深める。	
	【予習】これまでの自分のレポートに目を通し、自身の富山への興味のポイントについて再確認しておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第15回	<授業の振り返りと興味ある分野の探求> (富山国際大学・上坂博亨) 第14回までの講義を受けて、富山県の環境から地域の活性化、持続可能な社会創造について考える。特に自分が興味ある分野の一つ決め、指示に従ってインターネット調査を行い、問題点の掘り下げと解決方法を考えてみる。	
	【予習】これまでの自分のレポートに目を通し、自身の富山への興味のポイントを見つけておく	
	【復習】提示されるレポートを作成してTeamsにて提出すること	
第16回	<期末試験> 期末試験としてA4判2枚程度のレポートを課す	
	【予習】(特に無し)	
	【復習】(特に無し)	

評価方法	毎回提示されるレポートの提出（50%）、授業への積極的な取り組み姿勢（20%）、期末最終レポート（30%）		
使用資料 <テキスト>	必要に応じて講師が提示する	使用資料 <参考図書>	講義によって資料を指示される場合がある
授業外学修等	特に無し		
授業外質問方法	授業の振り返り時間の出欠フォームによって質問を受け付ける。後日の質問はメールでも受け付ける。 Mail address: uesaka@tuins.ac.jp		
オフィス・アワー	毎週(木)曜日 4～5 限目		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G3503L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	上坂 博亨
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	後期には小水力・木質バイオマス・太陽光のどれかを題材に自分の研究テーマを選び、それぞれに興味のある事を調べて発表する形でゼミを進行する【SDGs：目標7】			
-------	---	--	--	--

キーワード	資源	エネルギー	太陽光	バイオマス	地域理解
-------	----	-------	-----	-------	------

到達目標	自分が担当した再生可能エネルギーについて基礎的取り扱いを理解し、必要なエネルギーの計算方法やの利用方法が説明できるようになる（50%）			
	与えられたテーマについてインターネットや文献を調査して、研究まとめが発表できるようになる（50%）			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	後期ゼミ活動に関する計画や目標のオリエンテーションをおこなう。後期には自分の専門分野を一つ決めて、その分野について深く掘り下げ調査を進めることとするので自分の目標を明らかにする。	
	【予習】特になし	10分
	【復習】	30分
第2回	自分の専門分野に関する文献調査	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第3回	自分の専門分野に関する文献調査	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第4回	自分の専門分野に関する文献調査	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第5回	パワーポイントを用いた中間発表	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第6回	パワーポイントを用いた中間発表	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第7回	専門分野に関する文献調査	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第8回	専門分野に関する文献調査	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第9回	専門分野に関する文献調査	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分

第10回	グループごとの調査活動（現地調査を含む）	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第11回	グループごとの調査活動（現地調査を含む）	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第12回	グループごとの調査活動（現地調査を含む）	
	【予習】あらかじめ決められた箇所について目を通しておく	10分
	【復習】調査箇所について自分で調査を掘り下げておく	30分
第13回	専門分野に関する調査結果発表と討議	
	【予習】発表準備を行っておく	10分
	【復習】質問を受けた箇所について不明点を解決しておく	30分
第14回	専門分野に関する調査結果発表と討議	
	【予習】発表準備を行っておく	10分
	【復習】質問を受けた箇所について不明点を解決しておく	30分
第15回	専門分野に関する調査結果発表と討議	
	【予習】発表準備を行っておく	10分
	【復習】質問を受けた箇所について不明点を解決しておく	30分
第16回		
	【予習】	10分
	【復習】	30分

評価方法	授業中の積極的な参加（50%）、レポート(50%）		
使用資料 <テキスト>	授業時間に文献を提示する	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	関連する文献を探しておく		
授業外質問方法	電子メール、研究室を訪問して直接討議		
オフィス・アワー	月曜1限目・436室		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G3503L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	大谷 孝行
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	このゼミでは、4年次での卒論執筆と就職活動を見据えて、物事について深く考え自分で調べる習慣をつけるとともに、他者とのコミュニケーション能力全般を高めることを目標にします。ゼミの進め方としては、「LTD話し合い学習法」の方法を取り入れて実施し、課題に基づいたディスカッション形式でゼミを運営します。		
-------	--	--	--

キーワード	LTD話し合い学習法	予習ノート	ミーティング		
-------	------------	-------	--------	--	--

到達目標	学習課題の理解を深め、特に環境倫理学の立場から考えた自分の意見を表明することができる。			
	ディスカッション・スキル、対人関係スキル、仲間意識を向上させ、他者と適切な交流をすることができる。			
	論理的思考能力を高め、他者に対して自分の考えを筋道立てて伝えることができる。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	4.社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	前期オリエンテーション 各自、3年次後期の過ごし方を考える。学期の目標を立てる。履修指導。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	「LTD話し合い学習法」(1) 「LTD話し合い学習法」の手法についての確認。	
	【予習】	
	【復習】配付プリントを読んでおく。	40分
第3回	「LTD話し合い学習法」(2) 予習ノートを作成する(1)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第4回	「LTD話し合い学習法」(3) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(1)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルしておく。	40分
	【復習】	
第5回	「LTD話し合い学習法」(4) 予習ノートを作成する(2)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第6回	「LTD話し合い学習法」(5) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(2)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルしておく。	40分
	【復習】	
第7回	「LTD話し合い学習法」(6) 予習ノートを作成する(3)	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第8回	「LTD話し合い学習法」(7) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(3)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルしておく。	40分
	【復習】	

第9回	「LTD話し合い学習法」(8) 予習ノートを作成する(4)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第10回	「LTD話し合い学習法」(9) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(4)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルしておく。	40分
	【復習】	
第11回	「LTD話し合い学習法」(10) 予習ノートを作成する(5)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第12回	「LTD話し合い学習法」(11) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(5)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルしておく。	40分
	【復習】	
第13回	「LTD話し合い学習法」(12) 予習ノートを作成する(6)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第14回	「LTD話し合い学習法」(13) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(6)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルしておく。	40分
	【復習】	
第15回	学期の振り返り。夏休みの過ごし方を考える。	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】ゼミ中に提出してもらった予習ノートと、ゼミ中に実施するディスカッションに基づいた評価をします。 到達目標1については、予習ノートを中心に評価します。(60%) 到達目標2と3については、ゼミ中に実施するディスカッションを中心に評価します。(40%) なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。 欠席厳禁。	

評価方法	ゼミ中に提出してもらった予習ノートと、ゼミ中に実施するディスカッションに基づいた評価をします。 到達目標1については、予習ノートを中心に評価します。(60%) 到達目標2と3については、ゼミ中に実施するディスカッションを中心に評価します。(40%) なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。 社会性:40%、 専門性:60%		
使用資料 <テキスト>	授業中に指定します。	使用資料 <参考図書>	授業中に随時指定します。
授業外学修等	予習ノートを事前に完成させてから、ミーティングに参加することが必須です。		
授業外質問方法	オフィスアワー等を利用して、直に質問をしてください。		
オフィス・アワー	月曜日3限、324研究室。		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G3503L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	川本 聖一
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	2限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>本学の住環境分野に関する授業は、「住環境デザイン」「住環境デザイン」「住環境デザイン演習」「都市空間デザイン」である。その中で、「住環境デザイン」と「住環境デザイン」では、2つの講義を通して住環境に係わる職業人としての一般常識の習得と、「インテリアコーディネーター試験」などの住環境関連資格取得のための基礎知識習得を目指している。「住環境デザイン」で学んだ専門知識をベースに、「専門演習 a・b」を通して卒業研究のテーマの絞り込みを行う。「専門演習 b」では、既往研究調査を実施して、各自が実際に卒業研究のテーマの絞り込む作業を行っていく。(担当教員：企業での実務経験豊富)(関連SDGs：目標7、目標11、目標12)</p>				
-------	--	--	--	--	--

キーワード	卒業研究	既往論文	地域の人たちとの協	家づくり	まちづくり
-------	------	------	-----------	------	-------

到達目標	目標 : 卒業論文テーマの決定できている。(40%)
	目標 : 関連既往論文の収集が終了している。(30%)
	目標 : 具体的な研究作業開始が開始されている。(30%)

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
			/	/

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
/		/			

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第2回	既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第3回	既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第4回	既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第5回	既往研究調査（プレゼンテーション）	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第6回	研究テーマ領域設定	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第7回	研究テーマ領域設定	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第8回	研究テーマ領域設定	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第9回	研究テーマ領域設定	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分

	研究テーマ領域設定（プレゼンテーション）	
第10回	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
	卒業論文研究計画立案	
第11回	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
	卒業論文研究計画立案	
第12回	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
	卒業論文研究計画立案	
第13回	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	
	卒業論文研究計画立案	
第14回	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
	卒業論文研究計画立案（プレゼンテーション）	
第15回	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>期末考査は行わない。毎回のゼミで各自の課題解決に向けた取り組み状況の報告とその後の計画を確認していく。取り組み状況の結果と、そこに至るプロセスを総合的に評価する。ゼミに毎週出席すればいいのではなく、自分で計画を立て、それを実行し、問題点をゼミの中で確認し、その改善を次週に実行していくことができたかを評価する。頑張った人には、頑張った分に応じて高い評価をする方針である。</p>		
使用資料 <テキスト>	<p>テキスト：オリジナルプリントを配布 各自フォルダーを用意して配布されたプリ</p>	<p>使用資料 <参考図書></p>	<p>授業の内容はLINE上にアップするので、予習・復習に活用することができる。必要に</p>
授業外学修等	<p>授業以外に、各自との個人面談を実施し、前期においてゼミ合宿を行う予定である。また、「北陸の家づくり設計コンペ」にグループで参加予定である。</p>		
授業外質問方法	<p>オフィスアワーを中心に随時研究室にて質問を受け付ける他、メール、SNS、にて対応する。遅刻や欠席の連絡は事前にメールやSNSにて行うことを希望する。 メールアドレス：kawamoto@tuins.ac.jp SNS：https://www.facebook.com/Kawamoto.Laboratory?ref=aymt_homepage_panel</p>		
オフィス・アワー	<p>木曜日 2 時限（10：40～12：10） 研究室（439室）にて</p>		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G3503L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 ゆかり
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	1限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	身近な室内外空気環境や化学物質と環境とのかかわり、化学物質のリスクなどに対する理解を深める。また、身近な環境に関する客観的なデータを得て、そこからどのようなことがいえるか考察し、説明をすることを学ぶ。さらに、文献講読によっても理解を深める。			
-------	--	--	--	--

キーワード	大気環境	室内環境	土壌	リスク	フィールドワーク
-------	------	------	----	-----	----------

到達目標	環境リスクについて分かりやすく説明することができる。
	実験や実習を行い、得られた結果をまとめる。
	環境に関連するテーマについて調べ、文章にまとめることができる。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション 後期の授業の進め方について	
	【予習】特に定めない	
	【復習】	
第2回	フィールドでの実習	
	【予習】事前に配布された資料をよく読んで予習しておく。	30分
	【復習】実習によって得られた結果をまとめる。	30分
第3回	フィールドでの実習のまとめ	
	【予習】実習で得られた結果をまとめておく	30分
	【復習】実習によって得られた結果をまとめる。	30分
第4回	リスク評価の基本 リスクについての基本的な考え方について、演習を通して理解する。	
	【予習】あらかじめ配布された資料をよく読んで内容を理解しておく。	30分
	【復習】演習によって学んだことを振り返り、まとめる。	30分
第5回	リスク評価の基本 リスクについての基本的な考え方について、演習を通して理解する。	
	【予習】あらかじめ配布された資料をよく読んで内容を理解しておく。	30分
	【復習】演習によって学んだことを振り返り、まとめる。	30分
第6回	リスクコミュニケーション	
	【予習】事前に配布された資料をよく読んで予習しておく。	30分
	【復習】授業をふり返り、振り返りシートに記録する。	30分
第7回	リスクコミュニケーション	
	【予習】事前に配布された資料をよく読んで予習しておく。	30分
	【復習】授業をふり返り、振り返りシートに記録する。	30分
第8回	課題研究 各自が自分の興味あるテーマについて調べ、発表する。さらに、発表内容について討論する。	
	【予習】自分のテーマについて文献を調査し、まとめておく。	60分
	【復習】自分の調査が不十分だった点について、さらに調べておく。	30分

第9回	課題研究 それぞれが自分の興味あるテーマについて調べ、発表する。さらに、発表内容について討論する。	
	【予習】自分のテーマについて文献を調査し、まとめておく。	60分
	【復習】自分の調査が不十分だった点について、さらに調べておく。	30分
第10回	課題研究 それぞれが自分の興味あるテーマについて調べ、発表する。さらに、発表内容について討論する。	
	【予習】自分のテーマについて文献を調査し、まとめておく。	60分
	【復習】自分の調査が不十分だった点について、さらに調べておく。	30分
第11回	卒業研究計画の立案	
	【予習】これまでの授業を通して、卒業研究のテーマを考えておく。	60分
	【復習】立案したテーマをレポートにまとめる。	30分
第12回	研究テーマに関する文献調査	
	【予習】文献を収集しておく。	60分
	【復習】調べたことをまとめる	30分
第13回	研究テーマに関する文献調査	
	【予習】文献を収集しておく。	60分
	【復習】調べたことをまとめる	30分
第14回	研究テーマに関する文献調査	
	【予習】文献を収集しておく。	60分
	【復習】調べたことをまとめ、発表資料を作成する	30分
第15回	卒業研究計画の発表 研究テーマについてこれまで得られた情報を整理し、発表する。	
	【予習】発表の準備（発表内容、資料）をしておく。	60分
	【復習】これまでの調査で分かったことを整理し、レポートにまとめる。	30分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	レポートなどの課題（50%）、授業への積極的な取り組み姿勢（50%） 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。 【ディプロマポリシー配分比率】専門性：80%、社会性20%		
使用資料 <テキスト>	必要に応じて授業中に配布する	使用資料 <参考図書>	金原粲監修「環境科学 改訂版（専門基礎ライブラリー）」（実教出版、2014年）
授業外学修等	授業での発表をする際には、十分に準備しておくこと		
授業外質問方法	授業終了後、オフィスパワーおよびEメール		
オフィス・アワー	月曜日 4限、440研究室		

授業科目名	環境デザイン実習	科目コード	G3503P02
英文名	Practical Training in Environmental Design		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授 教授 教授 教授 准教授	担当教員名	上坂 博亨 川本 聖一 大谷 孝行 高橋 ゆかり 繁宮 悠介
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	3限目 4限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	社会学としての環境学を学ぶ上で必要な、自然環境・生活環境・社会環境の実際的取り扱いを実習をとおして学ぶ。また、富山県内の環境関連施設の訪問を通して環境学の社会実装にも触れる。			
-------	---	--	--	--

キーワード	水環境	地域資源	住環境	聞き書き	調査レポート
-------	-----	------	-----	------	--------

到達目標	学外での調査を通して自然環境・水環境・住環境について基礎的な計測方法及聞き書きの手法を身に付ける(40%)				
	調査結果を集計・分析して、客観的で論理的なレポートを作成する能力及聞き書きの技術を身に付ける(40%)				
	県内各地の環境関連施設を視察し、社会の中での環境活動の実装について理解を深める(20%)				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	専門性をさらに高める実習・演習	専門分野に共通する基礎知識の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	環境デザイン実習のオリエンテーション（川本、上坂、高橋） グループ分けとチームビルディング、レポートの書き方（章立て・はじめに・先行研究・方法・結果・考察・まとめ・参考文献）、各章立てにおいて、どのようなことを記述するかについて解説し、本格的なレポート作成方法を習得する。WORDを利用してレポートを作成するために見出しを付けたひな形ファイルを作成する	
	【予習】シラバス、1年次に配られた「大学生生活のためのツールブックに目を通しておくこと	15分
	【復習】WORDファイルの作成を完了しておくこと	30分
第2回	集合：第1駐車場（12:40）出発12：45 （上坂） 場所：〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂6 8 内容：立山カルデラ砂防博物館でのテーマ別調査	
	【予習】富山県の環境施設について事前調査しておく	15分
	【復習】立山カルデラ砂防について事前調査しておく	15分
第3回	集合：第1駐車場（12:40）出発12：45 （高橋） 場所：射水市中太閤山17-1 （バス移動） 内容：環境科学センター見学とテーマ別調査	
	【予習】富山県の環境施設について事前調査しておく	15分
	【復習】見学レポート作成する	15分
第4回	集合：第1駐車場（12:40）出発12：45 （川本） 場所：富山県富山市豊田本町1丁目68番35 （バス移動） 内容：スマートハウスとまちづくりのSDGsを学ぶ	
	【予習】スマートハウスについて事前調査しておく	15分
	【復習】見学レポート作成する	15分
第5回	テーマ：日本の公害問題を自分ごととして考える （大谷） 富山で起こった4大公害病「イタイイタイ病」についての基礎知識を学び、イ病関係者の思いにできるだけ近づくために、聞き書きという手法を用いて、作品を完成させる。その聞き書き作品の作り方を学び、イ病関係者からの体験談を聞く。	
	【予習】実習のてびきに目を通しておくこと	15分
	【復習】授業中の説明についてよく理解しておくこと	15分
第6回	テーマ：富山市の水環境を体験する （高橋） 富山市内の環境水のpH、硬度、電気伝導度、水温を測定してその関係性について考える この時間には測定器の操作方法、測定方法、関係性についてのEXCEL分析方法について説明する	
	【予習】実習のてびきに目を通しておくこと	15分
	【復習】授業中の説明についてよく理解しておくこと	15分
第7回	テーマ：富山市の水環境を体験する （高橋） 富山市内の環境水のpH、硬度、電気伝導度、水温を測定してその関係性について考える この時間には実際に現地に赴いて採水および測定を実施する。また測定結果については教室にもどって整理する。	
	【予習】実習のてびきに目を通しておくこと	15分
	【復習】授業中の説明についてよく理解しておくこと	15分

第8回	<p>テーマ：日本の公害問題を自分ごととして考える（大谷） イタイイタイ病関係者の体験談を聞き書き作品としてグループごとに完成させる。テープ起こした文章を一人語りの文体に組み替えたうえで、グループごとに小見出し、文体などの面から編集作業をし、小冊子を完成させる。</p>	
	【予習】 実習のてびきに目を通しておくこと	15分
	【復習】 授業中の説明についてよく理解しておくこと	15分
第9回	<p>テーマ：身近な森林資源・植物資源を調べる（繁宮） 大学近隣の森林において、プロット調査による森林の生育本数、胸高直径+B47:I52、樹高などの計測をとおして過密度評価を行う この時間にはプロット調査の手法と分析方法、ならびに評価方法について説明する</p>	
	【予習】 実習のてびきに目を通しておくこと	15分
	【復習】 授業中の説明についてよく理解しておくこと	15分
第10回	<p>テーマ：身近な森林資源・植物資源を調べる（繁宮） 大学近隣の森林において、プロット調査による森林の生育本数、胸高直径、樹高などの計測をとおして過密度評価を行う この時間には実際に森林にはいって計測を行い、得られたデータを大学に持ち帰って整理する</p>	
	【予習】 実習のてびきに目を通しておくこと	15分
	【復習】 授業中の説明についてよく理解しておくこと	15分
第11回	<p>テーマ：CASBEEを用いた家屋の環境評価（川本） CASBEEの基準にしたがって自宅を調査し、グループごとに検討して家屋の環境性能について結論をみちびく この時間にはCASBEEおよび分析方法について学ぶ</p>	
	【予習】 実習のてびきに目を通しておくこと	15分
	【復習】 CASBEEに従って自宅における環境性能を調査して記入しておく	15分
第12回	<p>テーマ：CASBEEを用いた家屋の環境評価（川本） CASBEEの基準にしたがって自宅を調査し、グループごとに検討して家屋の環境性能について結論をみちびく この時間には各自の家で調査した結果を相互に交換して、分析を行う</p>	
	【予習】 実習のてびきに目を通しておくこと	15分
	【復習】 授業中の説明についてよく理解しておくこと	15分
第13回	<p>テーマ：日本の公害問題を自分ごととして考える（大谷） イタイイタイ病関係者の体験談を聞き書き作品としてグループごとに完成させる。テープ起こした文章を一人語りの文体に組み替えたうえで、グループごとに小見出し、文体などの面から編集作業をし、小冊子を完成させる。</p>	
	【予習】 実習のてびきに目を通しておくこと	15分
	【復習】 授業中の説明についてよく理解しておくこと	15分
第14回	<p>4つのグループワークの実習の内、指定された1テーマについてをプレゼンテーションを行う準備をする。（各教員）</p>	
	【予習】 4つのグループワークについて復習しておく、またデータや資料を整理しておく。	15分
	【復習】 次週の発表に向けて発表資料を完成させておく	15分
第15回	<p>最終発表会（1グループ1テーマについて発表する）（各教員）</p>	
	【予習】 発表の練習をしておく	30分
	【復習】 特になし	

第16回	臨海実習（7/9-10）（希望者、高橋） 能登の海での磯採集、動物の観察・分類、ピオトープの観察などを通して海の生物の多様性について理解を深める。 金沢大学 環日本海域環境研究センター 臨海実験施設において1泊2日で実施する。	
	【予習】事前講義に出席し、海の生物についての理解を深めておく。	
	【復習】	

評価方法	実習に参加し、グループの中での役割を果たす事を必要条件とする。 グループ発表（30%）、実習レポート（4篇・40%）、学外見学レポート（4編・30%）で評価する		
使用資料 <テキスト>	実習の手引きを配布する	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	特になし		
授業外質問方法	研究室訪問と電子メールでの質問を受け付ける		
オフィス・アワー	（各教員のオフィスアワーに合わせる）		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G3503P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	上坂 博亨
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	4限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>小水力発電、木質バイオマスの利用、熱エネルギーなどの原理・測定方法・計算方法・利用方法などについて、基礎的な技能を実践的に学ぶ。当初は小水力発電の専門知識について講義する。一通りの講義を終えたところで、実際に野外に出て用水路の流量測定や土地の起伏の測定を、実際の測定器を用いて実習する。前期は特に技能習得に重点を置く。 【SDGs：目標7】</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	小水力発電	木質バイオマス	計測	エネルギー
-------	-------	---------	----	-------

到達目標	富山県における地域資源の賦存や利用の実態について概略を説明できる(30%)
	小水力発電、木質バイオマスの利用、熱エネルギーなどの原理・計算方法・利用方法などについて理解し、資源量の見積もりができるようになる(50%)
	小水力発電、木質バイオマス、熱エネルギーなどに関連する計測器の操作ができ、計測ができるようになる(20%)

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	自己紹介、授業内容や計画、方針など説明	
	【予習】特になし	
	【復習】	
第2回	資源とエネルギーについて復習	
	【予習】資源エネルギー論の資料を読み返しておく	
	【復習】提示した資料について振り返りをしておく	
第3回	資源とエネルギーについて復習	
	【予習】資源エネルギー論の資料を読み返しておく	
	【復習】提示した資料について振り返りをしておく	
第4回	エネルギーの数量的取り扱いについて復習 (位置エネルギー、運動エネルギー、電力など)	
	【予習】高校の物理の教科書程度の内容を思い出しておく	
	【復習】提示した資料について振り返りをしておく	
第5回	木質バイオマスCO2利用農法の説明と、作物の植付け	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけておく	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしておく	
第6回	小水力発電可能性調査の野外実習(川の観察・小水力発電所の見学など)	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけておく	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしておく	
第7回	小水力発電可能性調査の野外実習(川の流量調査など)	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけておく	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしておく	
第8回	地形や自然環境の観察と調査(レベル測量の実践)	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけておく	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしておく	
第9回	森林バイオマス調査の野外実習(近隣の森林調査など)	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけておく	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしておく	

第10回	森林バイオマス調査の野外実習（森林研究所の訪問調査など）	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけよう	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしよう	
第11回	熱エネルギーの利用方法の調査（温泉熱の利用について調査）	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけよう	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしよう	
第12回	環境未来都市プロジェクトの見学（富山市・営農サポートセンターの見学など）	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけよう	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしよう	
第13回	宇奈月温泉における熱利用の調査・見学	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけよう	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしよう	
第14回	南砺市上平地区における小水力発電の見学	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけよう	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしよう	
第15回	前期に体験した地域資源利用・エネルギー創出に関してグループ討議・レポート作成	
	【予習】提示した資料を読んで解らないところを見つけよう	
	【復習】解らないところが解決したかどうかをチェックしよう	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業中の参加態度（50%）、レポート（50%）		
使用資料 <テキスト>	授業時間にパワーポイントを提示する	使用資料 <参考図書>	関連図書を種々利用する
授業外学修等	事前に与える資料に目を通し、授業終了後にまとめをする		
授業外質問方法	電子メールでの質問の他、随時研究室に来てよい		
オフィス・アワー	月曜 1 限目・436室		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G3503P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	大谷 孝行
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>このゼミでは、4年次での卒論執筆と就職活動を見据えて、物事について深く考え自分で調べる習慣をつけるとともに、他者とのコミュニケーション能力全般を高めることを目標にします。ゼミの進め方としては、「LTD話し合い学習法」の方法を取り入れて実施し、課題に基づいたディスカッション形式でゼミを運営します。</p>		
-------	---	--	--

キーワード	LTD話し合い学習法	予習ノート	ミーティング		
-------	------------	-------	--------	--	--

到達目標	学習課題の理解を深め、特に環境倫理学の立場から考えた自分の意見を表明することができる。			
	ディスカッション・スキル、対人関係スキル、仲間意識を向上させ、他者と適切な交流をすることができる。			
	論理的思考能力を高め、他者に対して自分の考えを筋道立てて伝えることができる。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	4.社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	前期オリエンテーション 各自、自己紹介をする。3年次の過ごし方を考える。学期の目標を立てる。履修指導。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	「LTD話し合い学習法」(1) 「LTD話し合い学習法」についての説明。	
	【予習】	
	【復習】配付プリントを読んでおく。	40分
第3回	「LTD話し合い学習法」(2) 予習ノートを作成する(1)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第4回	「LTD話し合い学習法」(3) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(1)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルをしておく。	40分
	【復習】	
第5回	「LTD話し合い学習法」(4) 予習ノートを作成する(2)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第6回	「LTD話し合い学習法」(5) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(2)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルをしておく。	40分
	【復習】	
第7回	「LTD話し合い学習法」(6) 予習ノートを作成する(3)	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第8回	「LTD話し合い学習法」(7) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(3)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルをしておく。	40分
	【復習】	

第9回	「LTD話し合い学習法」(8) 予習ノートを作成する(4)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第10回	「LTD話し合い学習法」(9) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(4)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルしておく。	40分
	【復習】	
第11回	「LTD話し合い学習法」(10) 予習ノートを作成する(5)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第12回	「LTD話し合い学習法」(11) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(5)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルしておく。	40分
	【復習】	
第13回	「LTD話し合い学習法」(12) 予習ノートを作成する(6)。	
	【予習】LTD学習法に沿った予習ノートの作成。	40分
	【復習】	
第14回	「LTD話し合い学習法」(13) 作成した予習ノートに基づきミーティングを行う(6)。	
	【予習】各自、ミーティングのリハーサルしておく。	40分
	【復習】	
第15回	学期の振り返り。夏休みの過ごし方を考える。	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】ゼミ中に提出してもらった予習ノートと、ゼミ中に実施するディスカッションに基づいた評価をします。 到達目標1については、予習ノートを中心に評価します。(60%) 到達目標2と3については、ゼミ中に実施するディスカッションを中心に評価します。(40%) なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。 欠席厳禁。	

評価方法	ゼミ中に提出してもらった予習ノートと、ゼミ中に実施するディスカッションに基づいた評価をします。 到達目標1については、予習ノートを中心に評価します。(60%) 到達目標2と3については、ゼミ中に実施するディスカッションを中心に評価します。(40%) なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。 社会性:40%、 専門性:60%		
使用資料 <テキスト>	授業中に指定します。	使用資料 <参考図書>	授業中に随時指定します。
授業外学修等	予習ノートを事前に完成させてから、ミーティングに参加することが必須です。		
授業外質問方法	オフィスアワー等を利用して、直に質問をしてください。		
オフィス・アワー	月曜日3限、324研究室。		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G3503P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	川本 聖一
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	1限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>本学の住環境分野に関する授業は、「住環境デザイン」「住環境デザイン」「住環境デザイン演習」「都市空間デザイン」である。その中で、「住環境デザイン」と「住環境デザイン」では、2つの講義を通して住環境に係わる職業人としての一般常識の習得と、「インテリアコーディネーター試験」などの住環境関連資格取得のための基礎知識習得を目指している。「住環境デザイン」で学んだ専門知識をベースに、「専門演習 a・b」を通して卒業研究のテーマの絞り込みを行う。「専門演習 a」では、そのための基礎力養成として、グループワークでの住宅の模型作り、CAD演習、コンペティションへの応募を予定している。（担当教員：企業での実務経験豊富）（関連SDGs：目標7、目標11、目標12）</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	模型作成	CAD	コンペティション	住宅設計	住宅生産
-------	------	-----	----------	------	------

到達目標	協働して模型製作、住宅建築現場作業を行うことができる。（30％）				
	コンペティションに応募するためのプラン作りの協働作業ができる。（30％）				
	研究テーマを絞り込むため、自ら既往研究調査を行うことができる。（40％）				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
			/	/

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
/		/			

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	自己紹介、オリエンテーション	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第2回	CAD演習と模型作成、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第3回	CAD演習と模型作成、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第4回	CAD演習と模型作成、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第5回	CAD演習と模型作成の成果発表	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第6回	コンペティション応募準備、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第7回	コンペティション応募準備、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第8回	コンペティション応募準備、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第9回	コンペティション応募準備、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分

第10回	コンペティション応募準備	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第11回	コンペティション応募準備、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第12回	コンペティション応募準備	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第13回	コンペティション応募準備、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第14回	コンペティション応募準備	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第15回	コンペティション応募準備、既往研究調査	
	【予習】	
	【復習】ゼミにおいて課題の進捗状況の確認を行う。遅れている場合は、次回のゼミまでに自分で設定した進捗まで進めることを復習課題とする。	60分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>期末考査は行わない。毎回のゼミで各自の課題解決に向けた取り組み状況の報告とその後の計画を確認していく。取り組み状況の結果と、そこに至るプロセスを総合的に評価する。ゼミに毎週出席すればいいのではなく、自分で計画を立て、それを実行し、問題点をゼミの中で確認し、その改善を次週に実行していくことができたかを評価する。頑張った人には、頑張った分に応じて高い評価をする方針である。</p>		
使用資料 <テキスト>	<p>テキスト：オリジナルプリントを配布 各自フォルダーを用意して配布されたプリ</p>	<p>使用資料 <参考図書></p>	<p>授業の内容はLINE上にアップするので、予習・復習に活用することができる。必要に</p>
授業外学修等	<p>授業以外に、各自との個人面談を実施し、前期においてゼミ合宿を行う予定である。また、「北陸の家づくり設計コンペ」にグループで参加予定である。</p>		
授業外質問方法	<p>オフィスアワーを中心に随時研究室にて質問を受け付ける他、メール、SNS、にて対応する。遅刻や欠席の連絡は事前にメールやSNSにて行うことを希望する。 メールアドレス：kawamoto@tuins.ac.jp SNS：https://www.facebook.com/Kawamoto.Laboratory?ref=aymt_homepage_panel</p>		
オフィス・アワー	<p>木曜日 2 時限（10：40～12：10） 研究室（439室）にて</p>		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G3503P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	繁宮 悠介
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	4限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	生態学を中心とした環境学の知識を活かし、富山の生態系を活用する方策を検討する。そのために、フィールドワークや文献調査を実施し、その結果からプレゼンテーション資料を作成する。調査対象は学生の希望をもとに決定し、学生自らが能動的に取り組むこととし、成果も学外へも発信できうるレベルのものを旨とする。			
-------	---	--	--	--

キーワード	生態学	環境学	生態系サービス	フィールドワーク	プレゼンテーション
-------	-----	-----	---------	----------	-----------

到達目標	地域の課題を自らの興味に照らして見つけ出し、その課題を解決する方策を検討することができる。(30%)			
	課題解決のための適切な調査を計画し、実行することができる。(40%)			
	課題の検討結果をまとめ、プレゼンテーションにより分かりやすく伝えることができる。(30%)			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動
/		/			/

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション、テーマ検討の開始	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	テーマ検討、テーマ決定	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	フィールドワーク（第1回）の実施	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	フィールドワーク（第1回）のまとめと課題抽出	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	フィールドワーク（第2回）の実施	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	フィールドワーク（第2回）のまとめと課題抽出	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	フィールドワーク（第3回）の実施	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	フィールドワーク（第3回）のまとめと課題抽出	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	フィールドワーク（第4回）の実施	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	フィールドワーク（第4回）のまとめと課題抽出	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	文献調査	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	プレゼンテーション資料の作成	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	プレゼンテーション資料の完成	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	プレゼンテーションの実施	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	活動の振り返り	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	各自の課題に対する取り組み姿勢（50%） プレゼンテーションの完成度（50%） 【ディプロマポリシー配分比率】専門性：50%、社会性50%		
使用資料 <テキスト>	（特になし）	使用資料 <参考図書>	（特になし）
授業外学修等	テレビや新聞で報道されるエネルギー関連記事にも注目すること		
授業外質問方法	Eメール		
オフィス・アワー			

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G3503P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 ゆかり
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	身近な水環境や化学物質と環境とのかかわりに対する理解を深める。また、身近な環境に関する客観的なデータを得て、そこからどのようなことがいえるか考察し、説明をすることを学ぶ。さらに、文献講読によっても理解を深める。		
-------	---	--	--

キーワード	リスク	水環境	室内環境		
-------	-----	-----	------	--	--

到達目標	環境に関するさまざまなことに興味をもち、自発的に学ぶことができる。		
	フィールドで試料採取や測定をし、結果をまとめることができる。		
	文献や実習などを通して自分で調べたことをわかりやすく発表できる。		

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	授業の進め方および授業への取り組み方。	
	【予習】特に定めない	
	【復習】	
第2回	環境を学ぶ者にとっての倫理	
	【予習】あらかじめ配布された資料を読み、要点や自分の意見をまとめておく。	30分
	【復習】授業で学んだことをノートに記録しておく。	30分
第3回	環境を学ぶ者にとっての倫理	
	【予習】あらかじめ配布された資料を読み、要点や自分の意見をまとめておく。	30分
	【復習】授業で学んだことをノートに記録しておく。また、次週までの課題に取り組む。	30分
第4回	SDGsについて知識と理解を深める。	
	【予習】あらかじめ配布された資料を読み、要点や自分の意見をまとめておく。	30分
	【復習】授業で学んだことをノートに記録しておく。	30分
第5回	フィールドでの実習（1回目）、試料採取	
	【予習】事前に配布された資料をよく読んで予習しておく。	30分
	【復習】実習によって得られた結果をまとめる。	30分
第6回	フィールドでの実習（1回目）のまとめ	
	【予習】実習で得られた結果をまとめておく	30分
	【復習】実習によって得られた結果をまとめる。	30分
第7回	フィールドでの実習（2回目）	
	【予習】事前に配布された資料をよく読んで予習しておく。	30分
	【復習】実習によって得られた結果をレポートにまとめる。	30分
第8回	フィールドでの実習（2回目）のまとめ	
	【予習】実習で得られた結果をまとめておく	30分
	【復習】実習によって得られた結果をまとめる。	30分
第9回	試料中の成分の分析	
	【予習】分析方法を予習しておく	
	【復習】	

	試料中の成分の分析	
第10回	【予習】	60分
	【復習】得られた結果をレポートにまとめる	30分
	課題研究 それぞれが自分の興味あるテーマを設定し、文献調査をする。	
第11回	【予習】あらかじめ文献を調べておく。	60分
	【復習】授業中に疑問に感じた点などについて、自分で調べてまとめておく。	30分
	課題研究 それぞれが自分の興味あるテーマについてさらに詳しく調べたものを発表する。また、発表内容について討論する。	
第12回	【予習】あらかじめ文献を調べておく。	60分
	【復習】授業中に疑問に感じた点などについて、自分で調べてまとめておく。	30分
	課題研究 それぞれが自分の興味あるテーマについてさらに詳しく調べる。必要に応じて調査を実施する。	
第13回	【予習】調査に必要な準備を行う。	60分
	【復習】調査結果をまとめる。	30分
	課題研究 それぞれが自分の興味あるテーマについてさらに詳しく調べる。必要に応じて調査を実施する。	
第14回	【予習】調査に必要な準備を行う。	60分
	【復習】調査結果をまとめる。	30分
	調べたことの発表 研究テーマについてこれまで得られた情報を整理し、発表する。	
第15回	【予習】発表の準備（発表内容、資料）をしておく。	60分
	【復習】これまでの調査で分かったことを整理し、レポートにまとめる。	30分
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	レポートなどの課題（50%）、授業への積極的な取り組み姿勢（50%） 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。 【ディプロマポリシー配分比率】専門性：80%、社会性20%		
使用資料 <テキスト>	必要に応じて授業中に配布する	使用資料 <参考図書>	金原稔監修「環境科学 改訂版（専門基礎ライブラリー）」（実教出版、2014年）
授業外学修等	授業中、自分で調べたことについて発表する時間を設けるので、十分に準備してから授業に臨むこと		
授業外質問方法	授業終了後、オフィスアワーおよびEメール		
オフィス・アワー	月曜日 4限、440研究室		

授業科目名	インターンシップ	科目コード	G3507F03
英文名	Internship		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	尾畑 納子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	1年・2年・3年・4年前期・後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>本学においてインターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」を指し、事前に学生が取り組む課題を設定し、それに基づき企業や各種機関において短期間の実習・研修を行う制度のことをいう。今日、国際化や情報化の急速な進展、あるいは社会や産業構造の激しい変化により、雇用環境も大きく変わりつつある。その中であって、人材育成の核となる大学には、社会人基礎力を有する人材はもちろん、社会や産業界・企業のニーズに応える人材育成を目指した教育機能の一層の拡充・強化が求められている。このような要請に応えるために、本学のインターンシッププログラムは、産学官の連携により、学生のキャリア形成教育の一環として実施されるものである。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	インターンシップ	企業研究		
-------	----------	------	--	--

到達目標	高い職業意識の育成・啓発：実習・研修を通じ、仕事とは何か、ビジネスはどのように形作られていくのか等についての理解を深め、自らの職業適性や将来設計を考える機会を得る。		
	学習意欲の向上・教育効果の実現：実習・研修を通じ、これまで大学で学んできたことを確かめるとともに、自らの専攻や研究と関連のある問題や課題を見出し、専門分野への学習意欲を高めたり、深化させたりする。		
	自主性・責任感のある人材の育成：現実の組織・職場の厳しさを体験することによって、社会人としての自覚を促すとともに、自主性・責任感のある人材の育成に役立てる。		

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力（社会性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門性をさらに高める実習・演習	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	事前研修（1）企業説明会への参加（富山県インターンシップ推進センター主催説明会）	
	【予習】インターンシップ研修参加希望企業につき予習をしておくこと	30分
	【復習】説明会で学んだ企業情報を整理しておくこと	30分
第3回	事前研修（2）インターンシップ参加の心得	
	【予習】	
	【復習】企業研究ノートを作成し、整理しておくこと	30分
第4回	事前研修（3）マナー講座（身だしなみ）	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	事前研修（4）テーマ発表	
	【予習】インターンシップ参加にあたり設定したテーマに関するプレゼンテーションを準備しておくこと	90分
	【復習】テーマ発表で受けたアドバイスにもとづき修正点、改善点につき検討しておくこと	30分
第6回	事前研修（5）マナー講座（マナー研修Part1）	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	事前研修（5）マナー講座（マナー研修Part2）	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	事前研修（6）事前面談（就職アドバイザーとの個人面談）	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	企業研修（1）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分

第10回	企業研修（2）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第11回	企業研修（3）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第12回	企業研修（4）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第13回	企業研修（5）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第14回	事後研修（1） 報告書の作成	
	【予習】日報や企業研究ノートをもとに報告書の原案を作成しておくこと	90分
	【復習】教員による添削をもとに報告書を修正すること	60分
第15回	事後研修（2）研修報告会	
	【予習】研修成果に関するプレゼンテーション内容を準備しておくこと	60分
	【復習】	
第16回	事後研修（3）インターンシップ学内報告会	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	事前・事後研修、研修先での実習・研修に対する評価、事後レポートを総合的に判断する。		
使用資料 <テキスト>	適宜資料を配布する。	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	インターンシップ申込み、実習方法等は受入企業により異なるため、自主性・責任感をもって取り組んでください。		
授業外質問方法	質問にはオフィスアワー以外にも対応します（メール可）。		
オフィス・アワー	木曜日3限		

授業科目名	グローバルキャンパスプログラム（環境デザイン）	科目コード	G3508F04
英文名	Global Campus Program (Environmental Design)		

科目区分	環境デザイン専攻科目 - 総合		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	川本 聖一
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	2年・3年・4年前期・後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	日本の住宅の平均寿命は30年と言われてきた。それに比べて、アメリカは50年以上、イギリスは70年以上と言われている。長寿命な住宅デザインや住宅の供給システムが構築されてきた、アメリカやイギリスの住宅やその産業を実際に視察することにより、持続可能な社会における住宅デザインと住宅生産を考え、これからの日本の住宅関連産業を考えるきっかけを持つことを学生には期待している。本学の「住環境デザイン」においては、世界の住宅の歴史を学んだ。そこで学習した日本の住宅や建築デザインに大きな影響を及ぼした20世紀前半に活躍した建築家の作品を中心に視察を行う。アメリカにおいては、「フランクロイドライト」と「ミースファンデルローエ」であり、イギリスにおいては、「ウィリアムモリス」と「マッキントッシュ」である。また、特に環境を配慮してデザインされた建築や持続可能な社会システムを目指した街を中心に視察する。住宅関連産業の視察においては、実際に住宅をデザインしている設計会社のオフィスや、インテリア会社のショールームを訪れて、最新の業界情報を習得する。学生は英語で調べ、英語を用いて実体験をし、英語で現地の人とコミュニケーションをとって、海外の住宅の歴史と、住宅事情を学ぶ。なお、この研修は、アメリカへの研修とイギリスへの研修と隔年で実施予定である。（担当教員：企業での実務経験あり）			
-------	--	--	--	--

キーワード	住宅寿命	環境と建築	世界の住宅史	アメリカの住宅	イギリスの住宅
-------	------	-------	--------	---------	---------

到達目標	「フランクロイドライト」と「ミースファンデルローエ」や「ウィリアムモリス」と「マッキントッシュ」の住宅に触れ、彼らのデザインの歴史上の意味を説明できる。			
	長寿命なアメリカやイギリスの住宅デザインや生産システムを日本と比較して説明できる。			
	アメリカやイギリスで、住宅関連産業の第一線で活躍している方々と、簡単な英語でコミュニケーションをとり、情報収集できる。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	環境デザインに関する専門性の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<事前指導> 「フランクロイドライト」と「ミースファンデルローエ」や「ウィリアムモリス」と「マッキントッシュ」について概説する。また、昨年までの研修にの内容を学習する。	
	【予習】「フランクロイドライト」と「ミースファンデルローエ」や「ウィリアムモリス」と「マッキントッシュ」について下調べをする。	20分
	【復習】訪問予定の住宅や建築について、現地での調査内容をまとめる。	30分
第2回	<事前指導> アメリカやイギリスの住宅や建築に関わるの歴史について概説する。また、昨年までの研修にの内容を学習する。また、昨年までの研修にの内容を学習する。	
	【予習】アメリカやイギリスの住宅や建築に関わるの歴史について下調べをする。	20分
	【復習】訪問予定の住宅や建築について、現地での調査内容をまとめる。	30分
第3回	<事前指導> アメリカやイギリスの住宅デザインや住宅関連産業の特徴について概説する。また、昨年までの研修にの内容を学習する。また、昨年までの研修にの内容を学習する。	
	【予習】アメリカやイギリスの住宅デザインや住宅関連産業の特徴について下調べをする。	20分
	【復習】訪問予定のデザイン事務所やインテリアショップについて、現地での調査内容、質問内容をまとめる。	30分
第4回	<事前指導> アメリカやイギリスにおける環境を配慮してデザインされた建築や持続可能な社会システムを目指した街を紹介する。また、昨年までの研修にの内容を学習する。また、昨年までの研修にの内容を学習する。	
	【予習】環境を配慮してデザインされた建築や持続可能な社会システムを目指した街について下調べをする。	20分
	【復習】訪問予定の環境を配慮してデザインされた建築や持続可能な社会システムを目指した街について、現地での調査内容をまとめる。	30分
第5回	<アメリカやイギリスでの実習> 「フランクロイドライト」、「ミースファンデルローエ」、「ウィリアムモリス」、「マッキントッシュ」関連住宅視察 NO1	
	【予習】日本での事前レクチャー及び、自分で学習した内容を確認しておく。	10分
	【復習】視察の記録をまとめる。	30分
第6回	<アメリカやイギリスでの実習> 「フランクロイドライト」、「ミースファンデルローエ」、「ウィリアムモリス」、「マッキントッシュ」関連住宅視察 NO2	
	【予習】日本での事前レクチャー及び、自分で学習した内容を確認しておく。	10分
	【復習】視察の記録をまとめる。	30分
第7回	<アメリカやイギリスでの実習> 「フランクロイドライト」、「ミースファンデルローエ」、「ウィリアムモリス」、「マッキントッシュ」関連住宅視察 NO3	
	【予習】日本での事前レクチャー及び、自分で学習した内容を確認しておく。	10分
	【復習】視察の記録をまとめる。	30分
第8回	<アメリカやイギリスでの実習> 歴史上重要な住宅、建築物視察 NO1	
	【予習】日本での事前レクチャー及び、自分で学習した内容を確認しておく。	10分
	【復習】視察の記録をまとめる。	30分

第9回	<アメリカやイギリスでの実習> 歴史上重要な住宅、建築物視察 NO2	
	【予習】日本での事前レクチャー及び、自分で学習した内容を確認しておく。	10分
	【復習】視察の記録をまとめる。	30分
第10回	<アメリカやイギリスでの実習> 住宅関連産業視察（住宅デザイン事務所を予定） NO1	
	【予習】日本での事前レクチャー及び、自分で学習した内容を確認しておく。	10分
	【復習】視察の記録をまとめる。	30分
第11回	<アメリカやイギリスでの実習> 住宅関連産業視察（インテリアショップを予定） NO2	
	【予習】日本での事前レクチャー及び、自分で学習した内容を確認しておく。	10分
	【復習】視察の記録をまとめる。	30分
第12回	<アメリカやイギリスでの実習> 環境を配慮してデザインされた建築や持続可能な社会システムを目指した街の視察 NO1	
	【予習】日本での事前レクチャー及び、自分で学習した内容を確認しておく。	10分
	【復習】視察の記録をまとめる。	30分
第13回	<アメリカやイギリスでの実習> 環境を配慮してデザインされた建築や持続可能な社会システムを目指した街の視察 NO2	
	【予習】日本での事前レクチャー及び、自分で学習した内容を確認しておく。	10分
	【復習】視察の記録をまとめる。	30分
第14回	<事後指導> 本グローバルキャンパスにおいて、各人が最も興味をもった項目について、一連の視察をパワーポイントにまとめてプレゼンテーションを行う。そのための準備である。	
	【予習】（特になし）	
	【復習】発準備を完成できなかった者は宿題となる。	120分
第15回	<事後指導> グローバルキャンパス視察発表会	
	【予習】発表会の準備を行う。	120分
	【復習】（特になし）	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	研修先での積極的な参加および質問などの発言、ならびに発表会でのプレゼンテーションにて総合的に評価する。		
使用資料 <テキスト>	オリジナルプリントを配布 各自フォルダーを用意して配布されたプリ	使用資料 <参考図書>	授業の内容はLINE上にアップするので、予 習・復習に活用することができる。必要に
授業外学修等	現地で視察する住宅、建築、関連施設はすべて事前調査をし、資料を作成して訪問する。また、現地での行動は、所在の把握、交通手段、タイムスケジュールなど学生が自ら計画を立てて行動しなければならない。現地での食事は自炊を原則とし、チームワークを構築し行わなければならない。住宅関連施設の訪問時はもとより、現地での行動では、周りの人や関係者と積極的に英語でコミュニケーションをとって進めることを学修する。		
授業外質問方法	オフィスアワーを中心に随時研究室にて質問を受け付ける他、メール、LINE、SNS、にて対応する。遅刻や欠席の連絡は事前にメールやLINEにて行うことを希望する。 メールアドレス：kawamoto@yuins.ac.jp SNS：https://www.facebook.com/Kawamoto.Laboratory?ref=aymt_homepage_panel		
オフィス・アワー	木曜日 2 時限（10：40～12：10） 研究室にて		

授業科目名	ベンチャー・ビジネス論	科目コード	G4203L04
英文名	Theory of Startup Companies		

科目区分	経営情報専攻科目 - 経営環境		
------	-----------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 哲郎
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	金曜日	時限	2限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>2つの観点から、「ベンチャー・ビジネス」について考える。 現在は大企業に成長した企業の創業期に焦点をあて、そのスタート・アップの全体像を理解する。 外部環境要因、内部環境要因、両面から理解を深める。 グループ学習・プレゼンテーションなどアクティブラーニングを適宜取り入れる。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	イノベーション	創業者精神	初期市場	資金調達	人材調達
-------	---------	-------	------	------	------

到達目標	イノベーションについて理解を深める。(20%)				
	起業時のポイント、「初期市場」(主に外部環境要因)、「成長段階」(主に外部環境要因)、「資金調達」(主に内部環境要因)、「人材調達」(主に内部環境要因)について理解を深める。(60%)				
	「起業家精神」について理解を深める。(20%)				

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力(社会性の向上)	
カリキュラムポリシー	経営情報に関する専門性の向上	幅広く多様な専門知識の修得

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	講義の進め方、大学ホームページ、「Web Syllabus」の確認 講義の内容概説。「経営資源」の説明。	
	【予習】シラバスを読み不明なところあれば講義時に質問する。	20分
	【復習】当日の講義内容の整理。	20分
第2回	4項目の分析視点、起業時のポイント、「初期市場」（主に外部環境要因）、「成長段階」（主に外部環境要因）、「資金調達」（主に内部環境要因）、「人材調達」（主に内部環境要因）について概説する。 ケーススタディ（ホンダ：創業分野のポジショニング） ホンダの初期市場について考える。	
	【予習】前回配布資料（ホンダのケーススタディ）を読む。	20分
	【復習】配布資料を読み、ホンダの創業分野のポジショニングについてまとめる。	20分
第3回	ケーススタディ（ホンダ：資金調達、人材調達） ホンダの資金調達、人材調達の特徴について考える。	
	【予習】配布資料（ホンダのケーススタディ）を読み、ホンダの資金調達、人材調達の特徴についてまとめる。	20分
	【復習】これまでの講義内容をまとめる。	20分
第4回	ケーススタディ（ホンダ：成長段階のステージと事業展開） ホンダの成長が何によってもたらされたかについて考える。	
	【予習】配布資料（ホンダのケーススタディ）を読み、ホンダの成長段階のステージと事業展開についてまとめる。	20分
	【復習】これまでの講義内容をまとめる。	20分
第5回	ケーススタディ（京セラ：創業分野のポジショニング） 京セラの初期市場について考える。	
	【予習】前回配布資料（京セラのケーススタディ）を読む。	20分
	【復習】配布資料（京セラのケーススタディ）を読み、京セラの創業分野のポジショニングについてまとめる。	20分
第6回	ケーススタディ（京セラ：資金調達、人材調達） 京セラの資金調達、人材調達の特徴について考える。	
	【予習】配布資料（京セラのケーススタディ）を読み、京セラの資金調達、人材調達の特徴についてまとめる。	20分
	【復習】これまでの講義内容をまとめる。	20分
第7回	ケーススタディ（京セラ：成長段階のステージと事業展開） 京セラの成長が何によってもたらされたかについて考える。	
	【予習】配布資料（京セラのケーススタディ）を読み、京セラの資金調達、人材調達の特徴についてまとめる。	20分
	【復習】これまでの講義内容をまとめる。	20分
第8回	ケーススタディ（ヤマト運輸：創業分野のポジショニング） ヤマト運輸の初期市場について考える。	
	【予習】前回配布資料を読む。	20分
	【復習】配布資料を読み、ヤマト運輸の創業分野のポジショニングについてまとめる。	20分

第9回	ケーススタディ（ヤマト運輸：資金調達、人材調達） ヤマト運輸の資金調達、人材調達の特徴について考える。	
	【予習】配布資料（ヤマト運輸のケーススタディ）を読み、ヤマト運輸の資金調達、人材調達の特徴についてまとめる。	20分
	【復習】これまでの講義内容をまとめる。	20分
第10回	ケーススタディ（ヤマト運輸：成長段階のステージと事業展開） ヤマト運輸の成長が何によってもたらされたかについて考える。	
	【予習】配布資料（ヤマト運輸のケーススタディ）を読み、ヤマト運輸の資金調達、人材調達の特徴についてまとめる。	20分
	【復習】これまでの講義内容をまとめる。	20分
第11回	ビジネスプランとは何か 作成方法、発想のポイント、創業の理念について	
	【予習】ビジネスプランとは何か、調べる	20分
	【復習】講義内容をまとめる。	20分
第12回	富山県内での起業を考える（1）	
	【予習】配布資料予習。富山県内で起業するとしたら、なにをするか考える。	20分
	【復習】講義内容をまとめる。	20分
第13回	富山県内での起業を考える（2）	
	【予習】配布資料予習。富山県内で起業するとしたら、なにをするか考える。	20分
	【復習】講義内容をまとめる。	20分
第14回	富山県内での起業を考える（3）	
	【予習】配布資料予習。富山県内で起業するとしたら、なにをするか考える。	20分
	【復習】講義内容をまとめる。	20分
第15回	まとめと期末試験の概要説明	
	【予習】配布資料予習。これまでの講義内容をまとめる。	20分
	【復習】これまでの講義内容をまとめる。 試験対策勉強。	20分
第16回	期末試験	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	期末試験(50%)、授業内課題・提出物(50%)により評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。 【ディプロマポリシー配分比率】専門性：70%、社会性30%		
使用資料 <テキスト>	使用しない。資料を配布する。	使用資料 <参考図書>	講義中に随時紹介する。
授業外学修等	出席は毎回とる。3分の1以上欠席した者は単位を取得できない。 配布資料による予習・復習を欠かさない事が肝要。		
授業外質問方法	授業後とオフィス・アワーにて対応する。メールでの質問は授業中に指示する。		
オフィス・アワー	水曜日 1 時限目、130研究室		

授業科目名	金融論	科目コード	G4203P03
英文名	Financial Science		

科目区分	経営情報専攻科目 - 経営環境		
------	-----------------	--	--

職名	客員教授	担当教員名	川田 文人
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	現代社会において金融の知識は必須である。ファイナンス理論も含めて金融の基礎を学ぶ。			
-------	---	--	--	--

キーワード	金融の役割	金融システム	金融政策	アベノミクス	コーポレートファイ
-------	-------	--------	------	--------	-----------

到達目標	金融の役割、金融システム、金融政策について歴史的に考察しながら理解を深める。			
	ファイナンスの基礎を学び、現代社会を生きていくうえで必要な金融リテラシーを学ぶ。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	経営情報に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	「金融論」の授業の進め方についてガイダンスを行います。経済活動における「金融」の基本的な役割について説明します。	
	【予習】 予習、復習すべき内容等については、授業の内容、進度に併せて適宜、指示します。	
	【復習】 復習についてのガイダンスを行います。	
第2回	金融の役割・・・経済における金融の役割について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第3回	金融システム・・・金融機関と各種市場について学びます	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第4回	銀行制度の歴史と役割・・・日本における近代的銀行制度の歴史と信用創造など銀行の機能について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第5回	中央銀行と普通の銀行の違いや中央銀行の役割について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第6回	中央銀行の伝統的金融政策について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第7回	中央銀行の非伝統的金融政策とアベノミクスとの関連について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第8回	国際収支など国際金融の理論について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第9回	外国為替市場と国際通貨制度について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分

第10回	現代ポートフォリオ理論の基礎とリスクとリターンについて学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第11回	現在価値と資産選択 (CAPM) の基本的考え方について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第12回	間接金融、直接金融など企業の資金調達について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第13回	デリバティブ (派生商品) の種類や基本について学びます。	
	【予習】	30分
	【復習】	30分
第14回	地域経済における金融、金融機関の役割について学びます。	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	まとめ・・・講義のポイントの整理と金融の新しい動きについて学びます。	
	【予習】	
	【復習】	30分
第16回	学期末試験	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	学期末テスト、宿題、レポート、授業での発言等によって評価します。		
使用資料 <テキスト>	なし	使用資料 <参考図書>	講義中に適宜指示及び配布
授業外学修等	講義中に配られたプリントや自分の講義ノートをよく復習すること。日々、一般紙の経済面及び経済専門紙に目を通すこと。		
授業外質問方法	在室している限り研究室でも質問を受け付けます。		
オフィス・アワー	火曜日の昼の休憩時間から3限目		

授業科目名	マーケティングリサーチ	科目コード	G4303P05
英文名	Marketing Research		

科目区分	経営情報専攻科目 - 経営戦略		
------	-----------------	--	--

職名	助教	担当教員名	梁 庭昌
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	金曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>マーケティングリサーチは重要なマーケティング活動の一つである。本講義では、定量調査に焦点を当て、具体的なマーケティング事例からマーケティングリサーチの意義および分析方法について学ぶ。具体的には、マーケティングリサーチの全体像、グラフや平均など分析の第一ステップ、また相関分析や回帰分析など主要な5つの分析手法を取り上げる。統計学や社会調査法などを受講しておくことが望ましい。</p>			
-------	--	--	--	--

キーワード	マーケティングリサ	定量調査	データ集計	データ分析
-------	-----------	------	-------	-------

到達目標	マーケティングリサーチの機能的側面から、その意義を体系的に理解することができる。			
	マーケティングリサーチの基本的な手順を理解し、データ集計および分析方法を把握することができる。			
	マーケティングリサーチのための定量調査を利用し、具体的なマーケティング課題を解決する能力を身につける。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	経営情報に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	オリエンテーション、マーケティングリサーチの全体像と基礎概念	
	【予習】本講義の概要や到達目標、各回の内容を確認する。	60分
	【復習】マーケティングリサーチの全体像を確認する。	60分
第2回	マーケティングリサーチの基本的な手順	
	【予習】「マーケティングリサーチの手続きの出発点とは何か」について調べておくこと。	60分
	【復習】検証的リサーチと探索的リサーチのそれぞれのサイクルをまとめること。	60分
第3回	マーケティング問題に対して答えを出す方法：仮説検証	
	【予習】「仮説検証とは何か」について調べておくこと。	60分
	【復習】仮説検証の発想を理解してその手順をまとめること。	60分
第4回	どのようにデータを集めるか：サンプリング	
	【予習】「サンプリング・プロセスとは何か」について調べておくこと。	60分
	【復習】サンプリングを実施するときの注意点とその理由をまとめること。	60分
第5回	どのようにスーパーの仕入れをより効率的に実現するか：平均と標準偏差	
	【予習】「平均の使い方と標準偏差の役割」について調べておくこと。	60分
	【復習】事例として分析結果からマーケティング案を作成し、その理由をまとめること。	60分
第6回	エアコンの販売台数とアイスクリームの販売量との間にはどのような関係があるか：相関分析	
	【予習】「相関分析とは何か」について調べておくこと。	60分
	【復習】相関分析からわかることと気を付けることをまとめること。	60分
第7回	男性と女性で味の選好に違いはあるか：2検定	
	【予習】「2検定とは何か」について調べておくこと。	60分
	【復習】2検定でできることと気を付けることをまとめること。	60分
第8回	コンビニのPOP広告は効果があるか：t検定	
	【予習】「t検定とは何か」について調べておくこと。	60分
	【復習】t検定でできることと気を付けることをまとめること。	60分
第9回	最も有効なプロモーション企画はどれか：分散分析	
	【予習】「分散分析とは何か」について調べておくこと。	60分
	【復習】分散分析でできることをまとめること。	60分

第10回	暑い日ほど弁当が売れる現象からみる因果関係：回帰分析	
	【予習】「回帰分析とは何か」について調べておくこと。	60分
	【復習】回帰分析でできることと気を付けることをまとめること。	60分
第11回	お気に入りのブランドに対するイメージはどのようなものか：因子分析	
	【予習】「因子分析とは何か」について調べておくこと。	60分
	【復習】因子分析でできることと気を付けることをまとめること。	60分
第12回	質問票の作成（1）	
	【予習】「質問票を作成する前に何を行うか」について調べておくこと。	60分
	【復習】質問票調査でできることをまとめること。	60分
第13回	質問票の作成（2）	
	【予習】「質問票の回答形式にはどのようなものがあるか」について調べておくこと。	60分
	【復習】各回答形式の特徴とメリット・デメリットをまとめること。	60分
第14回	質問票の作成（3）	
	【予習】「ある商品またはサービスの満足に関する質問票」を参考資料として調べておくこと。	60分
	【復習】Googleフォームを利用して質問票の作成を実践すること。	60分
第15回	講義内容の総括	
	【予習】講義内容の全体を確認し整理すること。	60分
	【復習】マーケティングリサーチの意義、またそれぞれ具体的な分析手法がどのようなマーケティング課題を解決できるかを明確にすること。	60分
第16回	期末レポートはこちらから提出してください。 授業アンケートの回答を忘れないように。	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・最終課題レポート 100% ・富山国際大学成績評価基準に従って評価する 		
使用資料 <テキスト>	講義の際に適宜資料を用意し、一部を配布する。	使用資料 <参考図書>	松井剛・西川英彦『1からのマーケティング分析』，碩学舎，2020
授業外学修等	予習、復習を合計、週2時間必要とする。その他、新聞、雑誌、ニュースなど、企業や消費者などの関連記事に常に目を通しておくこと。		
授業外質問方法	適宜相談に応じるが、電子メールなどで事前にアポイントを取ること。		
オフィス・アワー			

授業科目名	管理会計	科目コード	G4403L03
英文名	Managerial Accounting		

科目区分	経営情報専攻科目 - 会計		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	佐藤 綾子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	2限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>財務会計が企業外部の利害関係者による財務情報の利用を前提としているのに対して、管理会計は、企業の経営管理者の意思決定や業績管理を支援します。本講義では、企業の経営管理の仕組みと、そこで用いられる会計情報の関係について学びます。授業では企業の管理会計活用事例や、事業計画作成を通じて理解向上を図ります。なお、本講義ではPCをするため持参してください。（担当教員：企業での実務経験あり）</p>		
-------	--	--	--

キーワード	管理会計	経営戦略	原価計算		
-------	------	------	------	--	--

到達目標	管理会計の基礎知識を理解します。		
	経営管理における会計情報の役割について理解します。		

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	経営情報に関する専門性の向上	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	資料 ガイダンスー管理会計とはー	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	経営計画と管理計画	
	【予習】	
	【復習】 想定するビジネスの経営理念、ビジョン、目標につき整理する	30分
第3回	経営計画と管理計画（続）	
	【予習】	
	【復習】 想定するビジネスのSWOT分析を完成させる	30分
第4回	原価計算（1）原価の種類	
	【予習】	
	【復習】 プリントを復習し、原価の種類につき理解しておくこと	30分
第5回	原価計算（2）材料費	
	【予習】 原価の種類につき理解しておくこと	30分
	【復習】 プリントを復習し、材料費の計算につき理解しておくこと	30分
第6回	原価計算（3）材料費（続）	
	【予習】 材料費の計算につき理解しておくこと	30分
	【復習】 授業で作成した材料費のエクセルシートを完成させること	30分
第7回	原価計算（4）労務費	
	【予習】 原価の種類、材料費の計算につき理解しておくこと	30分
	【復習】 授業で作成した労務費のエクセルシートを完成させること	30分
第8回	原価計算（5）経費	
	【予習】 原価の種類、材料費、労務費の計算につき理解しておくこと	30分
	【復習】 授業で作成した経費のエクセルシートを完成させること	30分
第9回	販売価格と損益分岐点（1）	
	【予習】	
	【復習】 授業で作成した価格設定のエクセルシートを完成させること	30分

	販売価格と損益分岐点（3）	
第10回	【予習】	
	【復習】プリントを参照し損益分岐点の計算を理解しておくこと	30分
	利益計画（1）	
第11回	【予習】前回プリントを参照し損益分岐点の計算を理解しておくこと	30分
	【復習】授業で作成した利益計画のエクセルシートを完成させること	30分
	利益計画（2）	
第12回	【予習】	
	【復習】授業で作成した修正利益計画のエクセルシートを完成させること	30分
	事業計画モデルの作成（1）	
第13回	【予習】	
	【復習】授業で作成した売上モデルに対するコメントを完成させること	30分
	事業計画モデルの作成（2）	
第14回	【予習】	
	【復習】授業で作成した利益モデルに対するコメントを完成させること	30分
	総括	
第15回	【予習】	
	【復習】	
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	出席および講義における課題、ミニテストへの取り組み（60％）、期末レポート（40％）		
使用資料 <テキスト>	岡本清、廣本敏郎 編著：『検定簿記講義<平成31年度版>[2級/工業簿記]、中央経済社	使用資料 <参考図書>	谷武幸『エッセンシャル管理会計』（中央経済社）
授業外学修等	「経営情報資格演習（日商簿記2級）」とあわせて履修することにより、より理解が深まります。		
授業外質問方法	疑問や質問にはオフィスアワー以外でも対応します。対応可能時間はメールで確認して下さい（asatoh@tuins.ac.jp）		
オフィス・アワー	木曜日1限		

授業科目名	企業会計	科目コード	G4403P02
英文名	Corporate Accounting		

科目区分	経営情報専攻科目 - 会計		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	佐藤 綾子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>本講義では、ビジネスの言語といわれる会計の基礎知識を習得することで、企業活動を理解し、企業分析の視点を身につけることを目指します。講義では、上場企業の財務情報や新聞記事など、リアルタイムな事例を取り上げることで応用力の向上を図ります。また、本講義を通じてビジネス会計検定2級の内容をほぼ網羅することが出来ます。なお、本講義ではPCを使用しますので持参してください。（担当教員：企業での実務経験あり）</p>		
-------	--	--	--

キーワード	財務会計	企業分析		
-------	------	------	--	--

到達目標	連結財務諸表の構造および関連する勘定科目につき理解することができる。(50%)		
	企業が開示する財務諸表を用いて業績動向を読み取ることができる。(50%)		

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	経営情報に関する専門性の向上	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	第1回資料オリエンテーション	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	企業会計制度と連結財務諸表第2回資料	
	【予習】テキストの第1章、第2章を読んでおくこと	
	【復習】テキスト第1章、第2章の練習問題及び別途配付問題で復習しておくこと	30分
第3回	第3回資料貸借対照表(1)	
	【予習】	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第4回	第4回資料貸借対照表(2)	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第5回	第5回資料貸借対照表(3)	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第6回	第6回資料貸借対照表(4)	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第7回	第7回資料貸借対照表	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第8回	第8回資料貸借対照表	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第9回	第9回講義資料損益計算書(1)	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分

第10回	第10回資料損益計算書(2)	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第11回	第11回資料損益計算書	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第12回	第12回資料連結包括利益計算書と株主資本等返答計算書	
	【予習】テキストを読んでおくこと	
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第13回	第13回資料キャッシュフロー計算書	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第14回	第14回資料 財務諸表分析	
	【予習】テキストを読んでおくこと	30分
	【復習】プリントを復習しておくこと	30分
第15回	第15回資料企業価値評価	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	出席と講義におけるミニテスト、課題への取組み(70%)、期末試験(30%) なお、到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料 <テキスト>	大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験 公式過去問題集 2級』	使用資料 <参考図書>	佐藤信彦、河崎照行、齋藤真哉、柴健次、 高須教夫、松本敏史編著『スタンダードテ
授業外学修等	「会計基礎演習」、「経営分析論」、「管理会計」とあわせて履修することにより、より理解が深まります。また、練習問題に積極的に取り組むことで、ビジネス会計検定試験2級の資格取得につなげることが出来ます。		
授業外質問方法	疑問や質問にはオフィスアワー以外でも対応します。対応可能時間はメールで確認して下さい (asatoh@tuins.ac.jp)		
オフィス・アワー	木曜日 1 限		

授業科目名	情報ネットワーク論	科目コード	G4503L03
英文名	Information Networks		

科目区分	経営情報専攻科目 - 情報システム		
------	-------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	高尾 哲康
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>現在の情報ネットワーク社会はインターネットが基盤である。望ましい活用、発展のあり方、さらにトータルシステムとしての考え方を理解する。(担当教員:企業での実務経験あり)</p> <p>オンライン授業 (Zoomミーティング)</p> <p>Teamsへのリンク チームコード: svma96c</p>			
-------	--	--	--	--

キーワード	ネットワーク	コンピュータ	ソフトウェア	ハードウェア	サーバ・クライアント
-------	--------	--------	--------	--------	------------

到達目標	インターネットの仕組みと、情報セキュリティの問題、そのための種々の技術について理解する。				
	サーバ・クライアントモデルについて、具体例を挙げて説明できる。				
	将来のインターネット社会、特にEC(電子商取引)とそれにかかわる問題、ビジネス、教育、行政、医療などへの活用についての理解を深める。				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	経営情報に関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	コンピュータと通信の発展過程、デジタル・ネットワークと情報化社会	
	【予習】シラバスを確認する。 コンピュータネットワークの基礎	10分
	【復習】情報ネットワークの基本知識を確認しておく。	30分
第2回	通信技術、構成と接続方式、LANとWANの仕組み	
	【予習】配付資料を読んでおく。 コンピュータネットワークの基礎(続)	15分
	【復習】ネットワークの動作技術を確認する。	30分
第3回	階層モデル、伝送方式、変調方式、多重化など	
	【予習】配付資料を読んでおく。 TCP/IPの基礎	15分
	【復習】ネットワークの通信方式を確認する。	30分
第4回	マルチメディアと通信の品質、高速化、高信頼化	
	【予習】配付資料を読んでおく。 TCP/IPの基礎(2)	15分
	【復習】マルチメディア通信技術を確認する。	30分
第5回	OSIモデルとプロトコル、インターネットの仕組み、データ伝送	
	【予習】配付資料を読んでおく。 Ethernetによるデータ転送	15分
	【復習】インターネットの動作の仕組みを確認する。	30分
第6回	ドメイン名とDNSの仕組み、セキュリティ、ファイアーウォール	
	【予習】配付資料を読んでおく。 TCP/IPの基礎(3) CGIの練習	15分
	【復習】インターネットの動作の仕組みを確認する。	30分
第7回	暗号、認証システム、EC(電子商取引)	
	【予習】配付資料を読んでおく。	15分
	【復習】情報ネットワークのセキュリティ技術について確認する。	30分
第8回	情報端末、携帯電話、モバイル端末	
	【予習】配付資料を読んでおく。	15分
	【復習】情報ネットワークの利用形態について確認する。	30分

	インターネット活用と社会変革、ビジネス、教育、行政、医療、ユビキタス、ICタグ	
第9回	【予習】配付資料を読んでおく。	15分
	【復習】情報ネットワーク化社会について確認する。	30分
	WWWサーバ(HTTP)との通信、POP、FTP、DNSなど各種サーバとの通信	
第10回	【予習】配付資料を読んでおく。	15分
	【復習】ウェブサーバ動作の仕組みを確認する。	30分
	サーバ・クライアント間通信の復習	
第11回	【予習】配付資料を読んでおく。	15分
	【復習】インターネットサービスの仕組みについて確認する。	30分
	各種CGIシステムの構築	
第12回	【予習】配付資料を読んでおく。	15分
	【復習】CGIシステムの動作の仕組みについて確認する。	30分
	コラボレーションツールWikiの構築	
第13回	【予習】配付資料を読んでおく。	15分
	【復習】Wikiツールの動作の仕組みを確認する。	30分
	MovableTypeを利用したSNS構築	
第14回	【予習】配付資料を読んでおく。	15分
	【復習】ブログシステムの動作の仕組みについて確認する。	30分
	まとめと復習 授業アンケート(Webシラバスから)	
第15回	【予習】これまでの配付資料を再確認しておく。	30分
	【復習】これまで学んだことを再確認する。課題レポートを作成する。	4分
	課題提出	
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への参加態度（出席状況、ミニレポートなど）40%、課題レポート60% 到達目標の評価は「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。 人間性：10% 社会性：10% 専門性：80%		
使用資料 <テキスト>	プリントを配布、必要に応じてスライド表 示する。	使用資料 <参考図書>	「マスタリングTCP/IP 入門編 第4版」（竹下 隆史
授業外学修等	15分以上の遅刻は入室禁止。配布されたプリントにて事前学習しておくことが望ましい。 インターネットを利用したシステム構築も行なうのでノートPCなどの活用を勧める。		
授業外質問方法	共有ファイルサーバ、Webシラバス、MicrosoftTeamsに、授業で配布する講義資料をアップロードします。 質問等は、MicrosoftTeamsやメール(takao@tuins.ac.jp)を利用するか、授業の前後やオフィスアワーなどに直接声をかけてください。		
オフィス・アワー	水曜日 1 時限（425室）		

授業科目名	e マネジメント論	科目コード	G4503P02
英文名	e-Management Theory		

科目区分	経営情報専攻科目 - 情報システム		
------	-------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	高尾 哲康
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	2限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>国家資格である「ITパスポート試験」の「ストラテジ系」の一部と「マネジメント系」分野を中心に「e マネジメント」と「e ビジネス」について学習する。「テクノロジー系」については「情報システム論」と「情報技術論」で学習し、「ITパスポート試験」の受験に必要な知識をほぼ網羅して学習する。(担当教員: 企業での実務経験あり)</p> <p>オンライン授業 (Zoomミーティング)</p> <p>Teamsへのリンク</p> <p>「チームに参加、またはチームを作成」から、「コードでチームに参加する」をクリックする (チームコード: s0d13sb)。</p>			
-------	--	--	--	--

キーワード	ソフトウェア	プロジェクト	サービス	システム	監査
-------	--------	--------	------	------	----

到達目標	「ITパスポート試験」シラバス (Ver. 5.0) に記載されている用語例について説明できる。(30%)				
	用語例について、具体例を挙げて説明できる。(30%)				
	「ITパスポート試験」の過去問や模擬問題を、合格基準の70%以上正解できる。(40%)				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力 (専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	

キー・コンピテンシー (重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法 (授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	e マネジメント、e ビジネスとは ・授業の進め方の解説 クリッカーを利用した相互コミュニケーション方法の説明（状況によってはMicrosoftTeams、Forms、PDFフォームを活用）	
	<p>【予習】シラバスを読んでおく。 履修者アンケート&出席調査第2回の授業開始までに提出 PDFフォームのテキストフィールドに漢字などがうまく入力できない場合の対処法 (Microsoft Edgeでは半角英数字・ひらがな・カタカナの入力ができますが、漢字入力できません(空白になる)のでAdobe Reader DCを使います) Adobe Reader DCの保護モードを無効化する。 <設定手順> 1.Adobe Reader DCを起動し、メニューの[編集]-[環境設定]をクリックする。 2.左側の[分類]リストから[セキュリティ(拡張)]を選択する。 3.「起動時に保護モードを有効にする」のチェックを外す。 4.「OK」ボタンをクリックする。 5.Adobe Reader DCをいったん終了する。 Adobe Reader DCのダウンロード：提供オプションのMcAfeeのチェック2箇所をはずしてダウンロードします。 Adobe Reader DCのバージョンアップは、Adobe Reader DCを起動し、ヘルプのアップデートの有無から。</p>	10分
	<p>【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説</p>	15分
第2回	システム戦略(情報システム戦略、業務プロセス)	
	<p>【予習】テキスト第3章p.92-97を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート01第2回の授業開始までに提出</p>	30分
	<p>【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説</p>	15分
第3回	システム戦略(ソリューションビジネス、システム活用促進・評価)	
	<p>【予習】テキスト第3章p.98-105を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート02第3回の授業開始までに提出</p>	30分
	<p>【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説</p>	15分
第4回	システム化計画(システム化計画、要件定義、調達計画・実施) Zoomでのオンライン授業となります。	
	<p>【予習】テキスト第3章p.106-112を読み、サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート03第4回の授業開始までに提出</p>	30分
	<p>【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説</p>	15分
第5回	システム開発技術(ソフトウェア開発プロセス(要件定義、システム設計、プログラミング)) 教室変更：C2 441	
	<p>【予習】テキスト第4章p.116-118を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート04第5回の授業開始までに提出</p>	30分
	<p>【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説</p>	15分
第6回	システム開発技術(ソフトウェア開発プロセス(テスト、ソフトウェア受入れ、ソフトウェア保守))	
	<p>【予習】テキスト第4章p.118-120を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート05第6回の授業開始までに提出</p>	30分
	<p>【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説</p>	15分

第7回	ソフトウェア開発管理技術（開発プロセス・手法）	
	【予習】テキスト第4章p.126-128を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート06第7回の授業開始までに提出	30分
	【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説	15分
第8回	第1回～第7回までの理解確認、中間試験、試験の解説	
	【予習】テキスト第3章、第4章を再確認し、試験準備しておく。 中間試験問題	30分
	【復習】中間試験結果を確認しておく。 中間試験解答	30分
第9回	ソフトウェア開発管理技術（共通フレーム）	
	【予習】テキスト第4章p.128-131を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート07第9回の授業開始までに提出	30分
	【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説	15分
第10回	プロジェクトマネジメント	
	【予習】テキスト第5章p.134-139を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート08第10回の授業開始までに提出	30分
	【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説	15分
第11回	サービスマネジメント	
	【予習】テキスト第6章p.142-144を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート09第11回の授業開始までに提出	30分
	【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説	15分
第12回	ファシリティマネジメント	
	【予習】テキスト第6章p.147-151を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート10第12回の授業開始までに提出	30分
	【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説	15分
第13回	システム監査	
	【予習】テキスト第6章p.152-157を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート11第13回の授業開始までに提出	30分
	【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説	15分

第14回	技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ	
	【予習】テキスト第2章p.68-78を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート12第14回の授業開始までに提出	30分
	【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説	15分
第15回	e ビジネス、民生機器・産業機器 授業アンケート(7/29(木)17:00まで) 問5 追加 (13)その他1:予習用サブノート(PDFファイルによるオンライン提出)の活用 問6-1 到達目標 目標 : 「ITパスポート試験」シラバス(ver2.0)に記載されている用語例について理解している。 目標 : 用語例について、具体例を挙げて説明できる。 目標 : 「ITパスポート試験」の過去問や模擬問題を、合格基準の70%以上正解できる。	
	【予習】テキスト第2章p.79-87を読み、講義サブノートで学習する。 e マネジメント論2021講義サブノート13第15回の授業開始までに提出	30分
	【復習】授業で学んだ練習問題を再確認しておく。 問題解答・解説	15分
第16回	期末試験、試験の解説	
	【予習】これまでに学んだ練習問題、過去問題を再確認し、試験準備しておく。 期末試験問題	30分
	【復習】試験結果を確認する。 期末試験解答	30分

評価方法	定期試験(100%) + 予復習及び授業時の発言等に対して5%~10%のボーナス点を付加する。 出席確認 = シャトルカード(毎回授業の感想質問など) 欠席が3分の1を超える学生は、評価対象外。 予習・復習確認 = 授業冒頭で、サブノートへの記入を確認する。 到達目標の評価は「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。 人間性:10% 社会性:10% 専門性:80%	
使用資料 <テキスト>	滝口 直樹 著:『ゼロからはじめる ITパスポートの教科書』改訂第6版、とりい書	使用資料 <参考図書>
授業外学修等	15分以上の遅刻は入室禁止。履修登録確定後、座席指定を実施予定。テキスト該当部分とサブノート(次週分も配布)を参照し、必ず予習・復習をすること。	
授業外質問方法	授業で配布する講義サブノート等の資料のバックナンバーを常備する。 質問等は、MicrosoftTeamsやメール(takao@tuins.ac.jp)を利用するか、授業の前後やオフィスアワーなどに直接声をかけてください。	
オフィス・アワー	水曜日1時限(425室)	

授業科目名	情報メディア論	科目コード	G4503P03
英文名	Information Media Theory		

科目区分	経営情報専攻科目 - 情報システム		
------	-------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	高尾 哲康
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	4限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>情報メディア、特に画像・動画・音声処理の概念とその処理手法を理解するとともに、処理技術の応用面に関する知識を広める。また、画像編集ツールGIMP、Inkscapeについての解説も行なう。さらに、PC上にてVisual Basic等の開発環境のもとで簡単な画像処理プログラムを作成して情報メディア全般の技術の基本を体得する。（担当教員：企業ので実務経験あり）</p> <p>オンライン授業（Zoomミーティング） Teamsへのリンク 「チームに参加、またはチームを作成」から、「コードでチームに参加する」をクリックする（チームコード：jhjb83g）。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	情報メディア	画像処理	コンピュータ	ソフトウェア	ハードウェア
-------	--------	------	--------	--------	--------

到達目標	人間の情報メディア処理のメカニズムを理解する。			
	情報メディア技術の代表例として、画像入力、画像変換、符号化・蓄積、画像生成・表示技術を習得する。			
	PC上にてVisual Basic等の開発環境のもとで簡単な画像処理プログラムを作成して情報メディア処理技術の基本を学び、GIMP2やInkscapeなどの画像処理ツールにて情報メディア処理技術の実用技術レベルを体得する。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	情報メディア論の受講にあたって、本講座で扱うトピックス・全体像の説明 VisualBasicの使い方の説明	
	【予習】シラバスを確認する。 00_コンピュータでメディア処理	10分
	【復習】情報メディアの基本知識を確認しておく。	30分
第2回	情報メディアの代表例として、画像処理の工学的モデル、デジタルカメラモデル	
	【予習】配付資料（画像処理モデル、3原色RGBとWの表示）を読んでおく。 P01_画像のブラウザ表示（更新）	15分
	【復習】情報メディア、特に画像処理について基本知識を確認しておく。	30分
第3回	座標系とモデリング、画像・図形の幾何学的モデル	
	【予習】配付資料（モデリング、RGB分解画像表示）を読んでおく。 P02_3原色RGBとWの表示	15分
	【復習】情報メディアの基本モデルについて確認しておく。	30分
第4回	基本変換、拡大・縮小・回転・アフィン変換	
	【予習】配付資料（画像変換、画像の成分別ヒストグラム作成）を読んでおく。 P03_RGB分解画像表示.pdf	15分
	【復習】情報メディア、特に画像についてコンピュータでの基本的な処理方式を確認しておく。	30分
第5回	ビジュアル情報処理の光学的モデル、光と色・人の知覚・色と表色系	
	【予習】配付資料（光学モデル、モノクロ画像の量子化）を読んでおく。 P04_画像の成分別ヒストグラム作成	15分
	【復習】情報メディアの特徴である、画像・動画の色情報について確認しておく。	30分
第6回	デジタル画像・動画・音声、標準化・量子化・階調・解像度・空間周波数	
	【予習】配付資料（デジタル画像のサンプリング・量子化）を読んでおく。 P05_モノクロ画像の量子化.pdf	15分
	【復習】デジタル画像・動画・音声について、コンピュータでの処理方式を確認しておく。	30分
第7回	画像の性質を表す諸量、画像の統計量、ヒストグラム・中央値	
	【予習】配付資料（画像の特徴量）を読んでおく。 P06_カラー画像の量子化.pdf(更新)	15分
	【復習】画像データの特徴について、ファイルフォーマット、格納形式について確認しておく。	30分
第8回	画素単位の濃度変換、トーンカーブ・ガンマ変換・ヒストグラム変換	
	【予習】配付資料（画像変換の実例）を読んでおく。 P07_画像のモザイク化.pdf(更新)	15分
	【復習】情報メディアの変換方式について確認しておく。	30分

第9回	多値画像の処理、カラー処理・画像間演算処理	
	【予習】配付資料（画像変換の実例2）を読んでおく。 P08_量子化画像、モザイク化画像の成分別ヒストグラム.pdf	15分
	【復習】情報メディア、特に画像についてコンピュータでの応用的な処理方式について確認しておく。	30分
第10回	領域に基づく濃淡変換、フィルタリング・平滑化・尖鋭化	
	【予習】配付資料（画像のフィルタリング処理）を読んでおく。 P09_領域指定モザイクング.pdf	15分
	【復習】情報メディア変換、特に画像変換について確認しておく。	30分
第11回	空間周波数に基づく濃度変換、空間周波数の概念・フィルタリング	
	【予習】配付資料（画像の特徴量について）を読んでおく。	15分
	【復習】情報メディアのコンピュータでの自動認識技術の基本を確認しておく。	30分
第12回	カラーサンプル画像のRGB3原色分解画像の表示	
	【予習】配付資料（RGB分解画像表示）を読んでおく。 情報メディア論2021課題 課題提出締切延長：8/6（金）まで。	15分
	【復習】情報メディア、特に画像の分解処理方式について確認しておく。	30分
第13回	画像の量子化	
	【予習】配付資料（カラー画像の量子化）を読んでおく。 P10_画像のセピア変換.pdf	15分
	【復習】デジタル化したデータの特徴である離散データについてその基本を確認しておく。	30分
第14回	カラー画像の成分別ヒストグラム	
	【予習】配付資料（量子化画像の成分別ヒストグラム作成）を読んでおく。	15分
	【復習】画像処理応用として、画像の特徴量抽出技術について確認しておく。	30分
第15回	画像のモザイク化、フィルタリング 授業アンケート（7/29(木)17:00まで）	
	【予習】配付資料（画像のモザイク化）を読んでおく。	15分
	【復習】これまで学んだことを再確認する。課題レポートを作成する。	30分
第16回	予備日	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業への参加態度・ミニレポート（30%）、課題レポート（70%） 到達目標の評価は「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。 人間性：10% 社会性：10% 専門性：80%		
使用資料 <テキスト>	プリントを配布、必要に応じてスライド表示する。	使用資料 <参考図書>	「ビジュアル情報処理 - CG・画像処理入門 -」（画像情報教育振興協会発行）、Vis
授業外学修等	15分以上の遅刻は入室禁止。配布されたプリントにて事前学習しておくことが望ましい。 情報メディア処理プログラムの作成を行なうのでノートPCなどの活用を勧める。		
授業外質問方法	共有ファイルサーバ、Webシラバス、MicrosoftTeamsに、授業で配布する講義資料をアップロードします。 質問等は、MicrosoftTeamsやメールを利用するか、授業の前後やオフィスアワーなどに直接声をかけてください。		
オフィス・アワー	水曜日 1 時限（425室）		

授業科目名	データサイエンス実践演習	科目コード	G4603P03
英文名	Practical Seminar on Data Science II		

科目区分	経営情報専攻科目 - データサイエンス		
------	---------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	河野 信
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	水曜日	時限	1限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>本講義では実際のデータに触れながら、RやPythonといったデータ解析用のプログラミング言語を利用して、モデリングの手法や機械学習、ディープラーニングについて学ぶ。データの中から関連性を抽出し現象の解明や要因の分析に役立つ知識を得たり、データに潜む関連性をもとに予測を行う方法について学習する。本講義ではPCを利用する。「データサイエンス実践演習I」、「情報統計学I・II」、「プログラミングの基礎」を受講していることが望ましい。（担当教員：企業での実務経験有り）</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	R	Python	データ分析	モデリング	機械学習
-------	---	--------	-------	-------	------

到達目標	統計的なモデリングを実行するためのデータの準備と加工ができる（40%）				
	機械学習で予測モデルを作成できる（30%）				
	ディープラーニングで予測モデルを作成できる30%）				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門性をさらに高める実習・演習	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】シラバスを読んでおくこと	30分
	【復習】ガイダンス資料を確認し、受講する場合には受講登録をすること	30分
第2回	モデリングの準備 - データの準備と加工、分析とモデリングの手法	
	【予習】教科書4.1 (p220 ~ 225) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
第3回	データの加工1 - データのクレンジング、カテゴリ変数の加工、数値変数の加工とスケールリング	
	【予習】教科書4.2.1 ~ 4.2.3 (p226 ~ 238) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
第4回	データの加工2 - 分布の形を変える - 対数変換とロジット変換	
	【予習】教科書4.2.4 (p239 ~ 252) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
第5回	データの加工3 - 欠損値の処理、外れ値の処理	
	【予習】教科書4.2.5 ~ 4.2.6 (p252 ~ 263) を読んでおく	60分
	【復習】	60分
第6回	モデリングの手法1 - グループに分ける - クラスタリング	
	【予習】教科書4.3.1 (p264 ~ 275) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
第7回	モデリングの手法2 - 指標を集約する - 因子分析と主成分分析	
	【予習】教科書4.3.2 (p275 ~ 302) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
第8回	モデリングの手法3 - 一般化線形モデル (GLM) とステップワイズ法、2値データを目的とする分析 - ロジスティック回帰	
	【予習】教科書4.3.3 ~ 4.3.4 (p302 ~ 321) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
第9回	モデリングの手法4 - セグメントの抽出とその特徴の分析 - 決定木	
	【予習】教科書4.3.5 (p321 ~ 331) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分

	因果推論 - データから因果関係を明らかにする - 統計的因果推論、因果関係に基づく変数選択	
第10回	【予習】教科書4.4 (p332 ~ 346) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
	機械学習の目的と手順 - 機械学習の基本、機械学習の手順、データ準備に関わる問題、特徴抽出と特徴ベクトル	
第11回	【予習】教科書5.1 (p348 ~ 369) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
	機械学習の実行 - 機械学習ライブラリの活用 - scikit-learn、機械学習アルゴリズムの例 - ランダムフォレスト、サポートベクターマシン (SVM)、機械学習の実行例	
第12回	【予習】教科書5.2 (p370 ~ 389) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
	ディープラーニング - ニューラルネットワーク、ディープラーニングを支える技術、ディープラーニング・フレームワーク	
第13回	【予習】教科書5.3.1 ~ 5.3.3 (p390 ~ 398) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
	ディープラーニング - ディープラーニングの実行、生成モデル	
第14回	【予習】教科書5.3.4 ~ 5.3.5 (p399 ~ 412) を読んでおく	60分
	【復習】作成・実行したプログラムの入力値を変えて実行し、結果を確認すること	60分
	まとめと総復習	
第15回	【予習】これまで学んだことを復習し、わからないところを調べること	180分
	【復習】レポート課題を作成し、提出すること	180分
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	講義期間中の課題提出（50%）+ 期末レポート（50%） なお評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価する。		
使用資料 <テキスト>	RとPythonで学ぶ実践的データサイエンス & 機械学習、有賀友紀・大橋俊介著、技術	使用資料 <参考図書>	データサイエンス・オンライン講座 社会 人のためのデータサイエンス入門（総務省
授業外学修等			
授業外質問方法	いつでもどうぞ		
オフィス・アワー	月曜5限		

授業科目名	経営情報実習	科目コード	G4703L02
英文名	Practical Training in Business Management		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	佐藤 綾子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	3限目 4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>経営系と情報系に分かれて実習を行う。 <経営系> チーム毎に与えられた課題に取り組み、最後に報告会で成果を発表する。学外調査を実施する。 <情報系> 小型コンピュータ (Raspberry Pi) を用いたシステム開発の実習を行う。学外への数回の見学を行う。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	実習	グループ作業	課題解決力		
-------	----	--------	-------	--	--

到達目標	コミュニケーション力、チームワーク力、課題解決力などを向上させる。(70%)				
	大学で学んだ知識を活用することを学ぶ。(30%)				

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力(社会性の向上)	
カリキュラムポリシー	専門性をさらに高める実習・演習	

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	<共通> ガイダンス(実習の背景と狙い、達成目標、実習内容、実習日程、実習場所) 演習テーマとチーム分け	
	【予習】シラバスを読み不明なところあれば講義時に質問する。	30分
	【復習】演習テーマについてチームで考える機会を設ける。	30分
第2回	<経営系> 実習先におけるメンターによる実践的課題の指導。会社概要の説明 <情報系> Raspberry Pi初期設定	
	【予習】演習テーマについて疑問点がないか確認する。あれば実習時にメンターに質問する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第3回	<経営系> テーマに関する基本調査・事業の仮説検討 <情報系> Raspberry Piの基本的な使い方	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第4回	<経営系> <経営系> テーマに関する基本調査・事業の仮説検討 <情報系> Pythonの基本	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第5回	<経営系> フィールドワーク <情報系> Raspberry PiへのLEDの接続と点灯	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第6回	<経営系> フィールドワーク <情報系> Raspberry Piへのスイッチ、スピーカー、マイクの接続と設定	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第7回	<経営系> フィールドワークに基づく仮説検証、報告 <情報系> クラウドの設定	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分

第8回	< 経営系 > 企画検討 < 情報系 > 学外見学	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第9回	< 経営系 > 企画立案・中間発表 < 情報系 > Raspberry Piを使ったシステム開発	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第10回	< 経営系 > フィールドワーク（準備、補足調査） < 情報系 > Raspberry Piを使ったシステム開発	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第11回	< 経営系 > フィールドワーク（準備、補足調査） < 情報系 > Raspberry Piを使ったシステム開発	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第12回	< 経営系 > 企画最終検討、磨き上げ < 情報系 > Raspberry Piを使ったシステム開発	
	【予習】チームごとに与えられた課題を予習する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第13回	< 共通 > 成果報告会準備	
	【予習】プレゼンデータ等をチームごとに手分けして整理する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第14回	< 共通 > 成果報告会準備	
	【予習】プレゼンデータ等をチームごとに手分けして整理する。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分
第15回	< 共通 > 成果報告会	
	【予習】プレゼン資料を完成させる。	30分
	【復習】本日の実習内容をまとめる。 反省点、改善点、また良かった点をまとめる。	30分

第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>経営系と情報系でそれぞれ評価を行う。 <経営系> 企画への貢献度(60%程度)、出席・取組み姿勢(40%程度)。 <情報系> 担当教員3名が評価を行う。最終成果物の完成度(60%)、出席・取組み姿勢(40%)。 「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。</p>	
------	---	--

使用資料 <テキスト>		使用資料 <参考図書>	<情報系> 「Raspberry Pi + AI 電子工作超入門」(吉田顕一著,
----------------	--	----------------	--

授業外学修等	自宅で行なう課題があればそれを行なう。		
--------	---------------------	--	--

授業外質問方法	<p>メンターとの連絡方法はチームごとに決める。 教員への連絡は実習先に付き添う教員および専攻長が行う。</p>		
---------	---	--	--

オフィス・アワー	各教員のオフィスアワーは大学ホームページの教員一覧を参照のこと。		
----------	----------------------------------	--	--

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G4703L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	伊藤 葵
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>専門演習 では、経営学（特に経営戦略論や経営組織論）の理論を用いて、地域および企業の経営課題への解決策について考えます。また、グループ学習を通して、協働力を身に付けることを目指します。後期は、前期に学んだことをふまえ、各自の問題意識を絞り込み、レポートとしてまとめます。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	経営学	共同研究	基礎学力	プレゼンテーション
-------	-----	------	------	-----------

到達目標	問題に対する多様な視点を身に付けること。
	地域課題等への関心を高めること。
	グループ学習を通して協働力を身に付けること。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	卒業論文の書き方	
	【予習】	
	【復習】 卒業論文の書き方におけるポイントを復習してください。	30分
第3回	卒業論文テーマと問題意識の明確化	
	【予習】	
	【復習】 授業以外の時間でも、卒業論文テーマと問題意識について関心を持つようにしてください。	30分
第4回	卒業論文テーマと問題意識の明確化	
	【予習】	
	【復習】 授業以外の時間でも、卒業論文テーマと問題意識について関心を持つようにしてください。	30分
第5回	卒業論文テーマと問題意識の明確化	
	【予習】	
	【復習】 卒業論文のテーマと問題意識の報告準備をしてください。	30分
第6回	卒業論文テーマと問題意識の報告	
	【予習】	
	【復習】 報告で指摘された課題等を改善してください。	30分
第7回	卒業論文テーマと問題意識の報告	
	【予習】	
	【復習】 報告で指摘された課題等を改善してください。	30分
第8回	研究アプローチの検討	
	【予習】	
	【復習】 授業以外の時間でも、卒業論文について関心を持つようにしてください。	30分
第9回	研究アプローチの検討	
	【予習】	
	【復習】 論文構想の報告準備をしてください。	30分

第10回	論文構想の報告	
	【予習】	
	【復習】 報告で指摘された課題等を改善してください。	30分
第11回	論文構想の報告	
	【予習】	
	【復習】 報告で指摘された課題等を改善してください。	30分
第12回	論文作成指導	
	【予習】	
	【復習】 各自の論文構想に応じて、学習する内容を指示します。	30分
第13回	論文作成指導	
	【予習】	
	【復習】 各自の論文構想に応じて、学習する内容を指示します。	30分
第14回	論文作成指導	
	【予習】	
	【復習】 各自の論文構想に応じて、学習する内容を指示します。	30分
第15回	総括	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	受講態度および課題への取組みによる総合評価とします。到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料 <テキスト>	適宜指示します。	使用資料 <参考図書>	適宜指示します。
授業外学修等	各自・各グループで設定したテーマに関連する情報を収集するために、常に新聞や本などに目を通すようにして下さい。また、卒業論文に向けて、早い時期から関連文献の収集を進める必要があります。		
授業外質問方法	疑問や質問にはオフィスアワー以外でも対応します。対応可能時間はメールで確認して下さい(aito@tuins.ac.jp)		
オフィス・アワー	木曜日1時限		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G4703L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	河野 信
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>専門演習 では、データを通して社会に関するさまざまな問題について考えていきます。その過程において、問題設定や解決のための思考能力を身につけるために、各種手法を試しながらそれらの仕組みを理解するとともにさまざまな技法を学習します。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	データ収集	データ解析	情報技術	プレゼンテーション
-------	-------	-------	------	-----------

到達目標	問題に対する多様な視点を身に付ける。			
	データ解析・情報技術等への関心を高める。			
	協働学習を通してチームとしての力を身に付ける。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	データの解析	
	【予習】データの解析方法や改良点を洗い出し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第3回	データの解析	
	【予習】データの解析方法や改良点を洗い出し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第4回	データの解析	
	【予習】データの解析方法や改良点を洗い出し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第5回	データの解析	
	【予習】データの解析方法や改良点を洗い出し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第6回	データの解析	
	【予習】データの解析方法や改良点を洗い出し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第7回	解析結果の解釈	
	【予習】データ解析結果からどのような解釈が可能か多様な視点で考え、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第8回	解析結果の解釈	
	【予習】データ解析結果からどのような解釈が可能か多様な視点で考え、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第9回	解析結果の解釈	
	【予習】データ解析結果からどのような解釈が可能か多様な視点で考え、レポートにまとめること	60分
	【復習】	

第10回	解析結果の解釈	
	【予習】データ解析結果からどのような解釈が可能か多様な視点で考え、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第11回	研究結果をまとめる	
	【予習】発表資料の作成、研究発表の練習をすること	60分
	【復習】	
第12回	研究結果をまとめる	
	【予習】発表資料の作成、研究発表の練習をすること	60分
	【復習】	
第13回	研究結果をまとめる	
	【予習】発表資料の作成、研究発表の練習をすること	60分
	【復習】	
第14回	研究成果の発表	
	【予習】発表資料の作成、研究発表の練習をすること	60分
	【復習】	
第15回	まとめ	
	【予習】1年間研究してきたことをレポートにまとめること	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>受講態度および課題への取組みによって総合的に評価します。 なお評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価する。</p>		
使用資料 <テキスト>	適宜指示します。	使用資料 <参考図書>	適宜指示します。
授業外学修等	<p>各自で設定したテーマに関連する情報を収集するために、インターネットだけでなく、書籍や新聞・各種資料などに目を通すようにして下さい。</p>		
授業外質問方法	<p>質問等についてはメールや空き時間に対応します。</p>		
オフィス・アワー	<p>月曜日5限</p>		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G4703L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	助教	担当教員名	梁 庭昌
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	本講義は、論文を読む・書くための基礎練習に重点を置く。関心テーマの先行研究に問わず、さまざまな文献を読むことと読んだ論文を要約することの積み重ねによって、論文を作成する能力を身につける。		
-------	---	--	--

キーワード	読解練習	文献レビュー	ディスカッション	
-------	------	--------	----------	--

到達目標	論文の構造を理解することができる。
	文献の要旨をまとめ、発表することができる。
	他人の発表の内容を理解したうえ、質問やコメントができる。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	後期における専門演習の方針について説明する。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第3回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第4回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第5回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第6回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第7回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第8回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第9回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分

第10回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第11回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第12回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第13回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第14回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第15回	これまでの基礎練習の効果について、総括を行う。	
	【予習】 これまでの基礎練習の効果について、自己評価する。	90分
	【復習】 これまでの基礎練習に対する振り返りを行う。	30分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み姿勢 (40%) ・ 発表内容 (60%) ・ 富山国際大学成績評価基準に従って評価する 		
使用資料 <テキスト>	講義の際に適宜資料を用意し、一部を配布する。	使用資料 <参考図書>	適宜、演習において紹介する。
授業外学修等	予習、復習を合計、週2時間必要とする。その他、新聞、雑誌、ニュースなど、企業や消費者などの関連記事に常に目を通しておくこと。		
授業外質問方法	適宜相談に応じるが、電子メールなどで事前にアポイントを取ること。		
オフィス・アワー	月 / 9:00-10:30		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G4703L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	佐藤 綾子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>本講義では、1年を通じて経営の理論と実践の両面にふれることで、物事を多面的に捉える力を身につけることを目指します。前期に学んだことをふまえ、各自の関心事や問題意識を絞り込み、その課題解決に向けて、関連する経営学、経済学等の理論を参照し議論します。その内容は期末レポートにまとめます。これは次年度の卒業論文の基礎となるものです。（担当教員：企業での実務経験あり）</p>		
-------	---	--	--

キーワード	経営学			
-------	-----	--	--	--

到達目標	論文構成の検討を通じて、物事を理論的に考える力を身につける。		
	演習における討議を通じて、多様な考え方がることを学ぶ。		

ディプロマポリシー	1. 「人」としての能力（人間性の向上）	
カリキュラムポリシー	経営情報に関する専門性の向上	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】シラバスを読んでおくこと	30分
	【復習】	
第2回	学术论文の書き方	
	【予習】研究テーマについて検討しておくこと	30分
	【復習】	
第3回	テーマ策定	
	【予習】	
	【復習】ゼミの議論をもとに必要に応じてテーマを再考すること	30分
第4回	テーマの概要・論点に関する調査・発表	
	【予習】発表準備	30分
	【復習】ゼミの議論をもとづく修正	30分
第5回	テーマの概要・論点に関する調査・発表	
	【予習】発表準備	30分
	【復習】ゼミの議論をもとづく修正	30分
第6回	テーマの概要・論点に関する調査・発表	
	【予習】発表準備	30分
	【復習】ゼミの議論をもとづく修正	30分
第7回	テーマに対する仮説と研究アプローチの検討	
	【予習】仮説と研究アプローチの準備	30分
	【復習】ゼミの議論をもとづく修正	30分
第8回	テーマに対する仮説と研究アプローチの検討	
	【予習】仮説と研究アプローチの準備	30分
	【復習】ゼミの議論をもとづく修正	30分
第9回	テーマに対する仮説と研究アプローチの検討	
	【予習】仮説と研究アプローチの準備	30分
	【復習】ゼミの議論をもとづく修正	30分

第10回	論文構想発表	
	【予習】発表準備	30分
	【復習】ゼミの議論をもとづく修正	30分
第11回	論文構想発表	
	【予習】発表準備	30分
	【復習】ゼミの議論をもとづく修正	30分
第12回	論文作成指導	
	【予習】論文執筆	30分
	【復習】指導に基づく論文の修正	30分
第13回	論文作成指導	
	【予習】論文執筆	30分
	【復習】指導に基づく論文の修正	30分
第14回	論文作成指導	
	【予習】論文執筆	30分
	【復習】指導に基づく論文の修正	30分
第15回	総括	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	出席状況、演習における討議参加状況、レポート等により総合的に評価します。		
使用資料 <テキスト>	適宜、演習において紹介します	使用資料 <参考図書>	適宜、演習において紹介します
授業外学修等	卒論における文献研究には時間を要します。3年生のうちにテーマを決め、関連文献購読を進めることが重要です。		
授業外質問方法	疑問や質問にはオフィスアワー以外でも対応します。対応可能時間はメールで確認して下さい (asatoh@tuins.ac.jp)		
オフィス・アワー	木曜日 1 時限		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G4703L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	高尾 哲康
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>専門演習 ではシステム構築のための思考能力およびプログラミングスキルを身につけるために、各種アプリケーションシステムやサーバシステムを試作しながら、その仕組みを理解するとともに様々な技法を学習する。また、AI（人工知能）分野の基本を学ぶ。</p>			
-------	--	--	--	--

キーワード	情報システム	プログラミング	情報技術	プレゼンテーション
-------	--------	---------	------	-----------

到達目標	問題に対する多様な視点を身に付ける。			
	情報システム・情報技術等への関心を高める。			
	協働学習を通してチームとしての力を身につける。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス 研究テーマの今後の計画を検討	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	システムの試作・改良	
	【予習】システムの問題点や改良点の洗い出し	30分
	【復習】	
第3回	システムの試作・改良	
	【予習】システムの問題点や改良点の洗い出し	30分
	【復習】	
第4回	システムの試作・改良	
	【予習】システムの問題点や改良点の洗い出し	30分
	【復習】	
第5回	システムの試作・改良	
	【予習】システムの問題点や改良点の洗い出し	30分
	【復習】	
第6回	システムの試作・改良	
	【予習】システムの問題点や改良点の洗い出し	30分
	【復習】	
第7回	システムの試作・改良	
	【予習】システムの問題点や改良点の洗い出し	30分
	【復習】	
第8回	システムの構築作業	
	【予習】	
	【復習】プログラム動作確認・テスト	60分
第9回	システムの構築作業	
	【予習】	
	【復習】プログラム動作確認・テスト	60分

第10回	システムの構築作業	
	【予習】	
	【復習】プログラム動作確認・テスト	60分
第11回	システムの構築作業	
	【予習】	
	【復習】プログラム動作確認・テスト	60分
第12回	システムの構築作業	
	【予習】	
	【復習】プログラム動作確認・テスト	60分
第13回	システムの構築作業	
	【予習】	
	【復習】プログラム動作確認・テスト	60分
第14回	システムの構築作業	
	【予習】	
	【復習】プログラム動作確認・テスト	60分
第15回	まとめ	
	【予習】	
	【復習】プログラム動作確認・テスト	60分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	受講態度(40%)および課題への取組み(60%)によって総合的に評価する。 到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。		
使用資料 <テキスト>	適宜指示する。	使用資料 <参考図書>	適宜指示する。
授業外学修等	各自で設定したテーマに関連する情報を収集するために、インターネットだけでなく、書籍や新聞・各種資料などに目を通すようにしておくこと。		
授業外質問方法	質問等についてはメール(takao@tuins.ac.jp)、SNS等にて対応する。		
オフィス・アワー	水曜日 1 時限 (425室)		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G4703L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 哲郎
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	金曜日	時限	1限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>専門演習 は卒論作成に必要な基礎知識を積み上げ、専門的な分析能力を養う場とする。研究テーマごとにチームをつくる。チームごとに基礎的な学習から徐々に専門的な研究へと深めていく。地域課題解決策を考えるグループ学習など、アクティブラーニングを取り入れる。</p>		
-------	---	--	--

キーワード	課題発見	地域課題解決	チームワーク		
-------	------	--------	--------	--	--

到達目標	ゼミ生相互に刺激し、鍛えられる関係性の構築。				
	基礎学力および発想力の向上。				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	幅広く多様な専門知識の修得	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	後期の学習内容決定、就職活動の心構え。	
	【予習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
	【復習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
第2回	卒業論文テーマについて。過去の卒論テーマ、卒論作成の方法、スケジュールについて。	
	【予習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
	【復習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
第3回	卒論の研究方法について - 文献、調査	
	【予習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
	【復習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
第4回	卒論テーマと問題意識の発表。 質疑応答。	
	【予習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
	【復習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
第5回	卒論テーマと問題意識の発表。 質疑応答。	
	【予習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
	【復習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
第6回	卒論テーマと問題意識の発表。 質疑応答。	
	【予習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
	【復習】卒論テーマを考える。 文献資料を収集する。	
第7回	地方公共団体等の地域課題解決策の提案検討	
	【予習】地元の「地域課題」はなにか考える。	
	【復習】地元の「地域課題」はなにか考える。	

第8回	地方公共団体等の地域課題解決策の提案検討	
	【予習】地元の「地域課題」はなにか考える。	
	【復習】地元の「地域課題」はなにか考える。	
第9回	地方公共団体等の地域課題解決策の提案検討	
	【予習】地元の「地域課題」はなにか考える。	
	【復習】地元の「地域課題」はなにか考える。	
第10回	地方公共団体等の地域課題解決策の提案検討	
	【予習】地元の「地域課題」はなにか考える。	
	【復習】地元の「地域課題」はなにか考える。	
第11回	地方公共団体等の地域課題解決策の提案まとめ	
	【予習】地元の「地域課題」はなにか考える。	
	【復習】地元の「地域課題」はなにか考える。	
第12回	地域課題解決策をプレゼンテーション資料としてまとめる。	
	【予習】役割分担してプレゼン資料を作成する。	
	【復習】役割分担してプレゼン資料を作成する。	
第13回	地域課題解決策をプレゼンテーション資料としてまとめる。	
	【予習】役割分担してプレゼン資料を作成する。	
	【復習】役割分担してプレゼン資料を作成する。	
第14回	地域課題解決策のプレゼンテーション練習	
	【予習】役割分担してプレゼン資料を作成する。	
	【復習】役割分担してプレゼン資料を作成する。	
第15回	進路について。休暇中の課題、4年次（来年度）の卒論指導について 研究計画書（フォーマット）配布	
	【予習】	
	【復習】春休み中に研究計画書を作成し、研究室に提出する。	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	出席状況(25%)、受講意欲(50%)、終了レポート(25%)により、評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。 【ディプロマポリシー配分比率】専門性：60%、社会性40%		
使用資料 <テキスト>	基礎的なテキストと専門的なテキストをゼミ生の意見を勘案して決める予定。	使用資料 <参考図書>	随時紹介する。
授業外学修等	時間厳守、無断欠席厳禁です。 来年度の卒論準備を進める。		
授業外質問方法	授業後とオフィス・アワーにて対応する。メーリングリスト作成予定。		
オフィス・アワー	木曜日 1 時限		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G4703L06
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	新森 昭宏
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>テキストマイニングツール「KH Coder」を用い、小説・ブログ・SNS(Social Network Service)・新聞記事など、インターネット上に存在し、利用可能となっているテキストデータを対象として、様々な分析を行う。 また、4年生における卒業論文執筆の準備として、アカデミックライティングのトレーニングとテーマ探索の作業を行う。 (担当教員：企業での実務経験あり)</p>				
-------	---	--	--	--	--

キーワード	テキスト処理	テキストマイニング	データ収集	データ分析	プレゼンテーション
-------	--------	-----------	-------	-------	-----------

到達目標	テキストデータ分析ツール「KH Coder」を使って、さまざまなテキストデータを分析することができる。(40%)				
	アカデミックライティングの基本的事項を説明・実践できる。(30%)				
	自分が興味があり、かつ、社会的・学術的に意義のある研究テーマが設定できる。(40%)				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	後期の進め方についてのガイダンス。	
	【予習】前期に実施したことを復習しておくこと	30分
	【復習】説明・議論した内容を復習しておくこと	30分
第2回	データ収集と前処理	
	【予習】データ収集と前処理について考えておくこと	30分
	【復習】説明・議論した内容を復習しておくこと	30分
第3回	研究実施(1)	
	【予習】データ分析の結果についての仮説を立てておくこと	30分
	【復習】説明・議論した内容を復習しておくこと	30分
第4回	結果分析(1)	
	【予習】結果分析のための準備をしておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第5回	研究実施(2)	
	【予習】データ分析の結果についての仮説を立てておくこと	30分
	【復習】説明・議論した内容を復習しておくこと	30分
第6回	結果分析(2)	
	【予習】結果分析のための準備をしておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第7回	アカデミックライティングについての説明と実習(1)	
	【予習】パラグラフライティングについて調べておくこと	30分
	【復習】提示した課題に取り組むこと	30分
第8回	アカデミックライティングについての説明と実習(2)	
	【予習】論文の書き方について調べておくこと	30分
	【復習】提示した課題に取り組むこと	30分
第9回	アカデミックライティングについての説明と実習(3)	
	【予習】論文の書き方について調べておくこと	30分
	【復習】提示した課題に取り組むこと	30分

第10回	テーマ策定(1)	
	【予習】自分が研究したいテーマについて考察、調査しておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第11回	テーマ策定(2)	
	【予習】自分が研究したいテーマについて考察、調査しておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第12回	テーマ策定(3)	
	【予習】自分が研究したいテーマについて考察、調査しておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第13回	研究計画の準備(1)	
	【予習】自分が研究したいテーマについて考察、調査しておくこと	30分
	【復習】研究計画準備資料を作成すること	30分
第14回	研究計画の準備(2)	
	【予習】自分が研究したいテーマについて考察、調査しておくこと	30分
	【復習】議論を踏まえて研究計画準備資料を改訂すること	30分
第15回	研究計画の準備(3)	
	【予習】自分が研究したいテーマについて考察、調査しておくこと	30分
	【復習】議論を踏まえて研究計画準備資料を完成させること	30分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>受講態度、研究への取組み姿勢、提出された課題によって総合的に評価する。 「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。</p> <p>人間性：30% 社会性：30% 専門性：40%</p>		
使用資料 <テキスト>	適宜、指示する。	使用資料 <参考図書>	・「テキストマイニング入門: ExcelとKH Coderでわかるデータ分析」(末吉美喜,
授業外学修等	<p>課題の提示と提出にMicrosoft Teamsを使用する。提出された課題にフィードバックが必要な場合は、Microsoft Teamsを使ってフィードバックする</p> <p>各自で設定したテーマに関連する情報を収集するために、インターネットだけでなく、書籍や新聞・各種資料などに目を通すようにすること。</p>		
授業外質問方法	メールまたはオフィス・アワーで対応。		
オフィス・アワー	月曜日2限		

授業科目名	専門演習 ・a	科目コード	G4703P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	伊藤 葵
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>専門演習 では、経営学（特に経営戦略論や経営組織論）の理論を用いて、地域および企業の経営課題への解決策について考えます。また、グループ学習を通して、協働力を身に付けることを目指します。前期は、学外のコンペティション、コンテスト等への応募・参加を計画しています。</p>		
-------	---	--	--

キーワード	経営学	共同研究	基礎学力	プレゼンテーション
-------	-----	------	------	-----------

到達目標	問題に対する多様な視点を身に付けること。
	地域課題等への関心を高めること。
	グループ学習を通して協働力を身に付けること。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	グループワークのテーマ策定	
	【予習】 事前に共同研究のテーマを考えてきてください。	30分
	【復習】	
第3回	グループ分け、グループ別の学習スケジュールの作成	
	【予習】	
	【復習】 ワーキング・グループ別作業に必要な資料を準備してください。	30分
第4回	ワーキング・グループ別作業	
	【予習】 ワーキング・グループ別作業に必要な資料を準備してください。	30分
	【復習】 進捗状況に応じて、ワーキング・グループ別に指示します。	30分
第5回	ワーキング・グループ別作業	
	【予習】 ワーキング・グループ別作業に必要な資料を準備してください。	30分
	【復習】 進捗状況の報告準備をしてください。	30分
第6回	グループごとの進捗状況の報告	
	【予習】	
	【復習】 進捗状況の報告において指摘された課題等があれば、改善するようにしてください。	30分
第7回	ワーキング・グループ別作業	
	【予習】 ワーキング・グループ別作業に必要な資料を準備してください。	30分
	【復習】 進捗状況に応じて、ワーキング・グループ別に指示します。	30分
第8回	ワーキング・グループ別作業	
	【予習】 ワーキング・グループ別作業に必要な資料を準備してください。	30分
	【復習】 進捗状況に応じて、ワーキング・グループ別に指示します。	30分
第9回	ワーキング・グループ別作業	
	【予習】 ワーキング・グループ別作業に必要な資料を準備してください。	30分
	【復習】 中間プレゼンテーションの準備を進めてください。	30分

第10回	中間プレゼンテーション	
	【予習】	
	【復習】 中間プレゼンテーションで指摘された課題等を改善してください。	30分
第11回	ワーキング・グループ別作業	
	【予習】 ワーキング・グループ別作業に必要な資料を準備してください。	30分
	【復習】 進捗状況に応じて、ワーキング・グループ別に指示します。	30分
第12回	ワーキング・グループ別作業	
	【予習】 ワーキング・グループ別作業に必要な資料を準備してください。	30分
	【復習】 進捗状況に応じて、ワーキング・グループ別に指示します。	30分
第13回	ワーキング・グループ別作業	
	【予習】 ワーキング・グループ別作業に必要な資料を準備してください。	30分
	【復習】 最終プレゼンテーションの準備をしてください。	30分
第14回	最終プレゼンテーション	
	【予習】	
	【復習】 各グループで最終プレゼンテーションの振り返りを実施してください。	30分
第15回	総括	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	受講態度および課題への取組みによる総合評価とします。到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。		
使用資料 <テキスト>	適宜指示します。	使用資料 <参考図書>	適宜指示します。
授業外学修等	各自・各グループで設定したテーマに関連する情報を収集するために、常に新聞や本などに目を通すようにして下さい。		
授業外質問方法	疑問や質問にはオフィスアワー以外でも対応します。対応可能時間はメールで確認して下さい (aito@tuins.ac.jp)		
オフィス・アワー	木曜日1時限		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G4703P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	河野 信
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>専門演習 では、データを通して社会に関するさまざまな問題について考えていきます。その過程において、問題設定や解決のための思考能力を身につけるために、各種手法を試しながらそれらの仕組みを理解するとともにさまざまな技法を学習します。</p>			
-------	---	--	--	--

キーワード	データ収集	データ解析	情報技術	プレゼンテーション
-------	-------	-------	------	-----------

到達目標	問題に対する多様な視点を身に付ける。(40%)			
	データ解析・情報技術等への関心を高める。(30%)			
	協働学習を通してチームとしての力を身に付ける。(30%)			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス、研究テーマの紹介	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	研究テーマの策定	
	【予習】 希望するテーマについて調査し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第3回	研究テーマの策定	
	【予習】 希望するテーマについて調査し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第4回	研究テーマごとに必要な書籍や資料などの紹介	
	【予習】 研究テーマに関連する書籍や資料について調査し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第5回	研究テーマごとに必要な書籍や資料などの紹介	
	【予習】 研究テーマに関連する書籍や資料について調査し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第6回	文献購読	
	【予習】 書籍や資料を予習し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第7回	文献購読	
	【予習】 書籍や資料を予習し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第8回	文献購読	
	【予習】 書籍や資料を予習し、レポートにまとめること	60分
	【復習】	
第9回	研究実施方法の策定	
	【予習】	
	【復習】 研究実施方法について調査し、レポートにまとめること	60分

第10回	研究実施方法の策定	
	【予習】	
	【復習】 研究実施方法について調査し、レポートにまとめること	60分
第11回	研究実施方法の策定	
	【予習】	
	【復習】 研究実施方法について調査し、レポートにまとめること	60分
第12回	データの収集	
	【予習】	
	【復習】 PCを利用した作業を進め、レポートにまとめること	60分
第13回	データの収集	
	【予習】	
	【復習】 PCを利用した作業を進め、レポートにまとめること	60分
第14回	データの収集	
	【予習】	
	【復習】 PCを利用した作業を進め、レポートにまとめること	60分
第15回	まとめ	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>受講態度および課題への取組みによって総合的に評価します。 なお評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価する。</p>		
使用資料 <テキスト>	適宜指示します。	使用資料 <参考図書>	適宜指示します。
授業外学修等	<p>各自で設定したテーマに関連する情報を収集するために、インターネットだけでなく、書籍や新聞・各種資料などに目を通すようにして下さい。</p>		
授業外質問方法	いつでもどうぞ		
オフィス・アワー			

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G4703P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	助教	担当教員名	梁 庭昌
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	4限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>本講義は、論文を読む・書くための基礎練習に重点を置く。関心テーマの先行研究に問わず、さまざまな文献を読むことと読んだ論文を要約することの積み重ねによって、論文を作成する能力を身につける。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	読解練習	文献レビュー	ディスカッション	
-------	------	--------	----------	--

到達目標	論文の構造を理解することができる。
	文献の要旨をまとめ、発表することができる。
	他人の発表の内容を理解したうえ、質問やコメントができる。

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	3年次生としての勉強生活の進め方（ガイダンス・履修指導等）について説明する。また、前期における専門演習の方針について説明する。	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第3回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第4回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第5回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第6回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第7回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第8回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第9回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分

第10回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第11回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第12回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第13回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第14回	文献を理解することから、要旨を作成・発表すること、そして発表に対しコメントすることまでの基礎練習を行う。	
	【予習】 関心のある文献を調べて入手する。要旨の作成および発表の準備をする。	90分
	【復習】 コメント等に対する振り返りを行う。	30分
第15回	これまでの基礎練習の効果について、総括を行う。	
	【予習】 これまでの基礎練習の効果について、自己評価する。	90分
	【復習】 これまでの基礎練習に対する振り返りを行う。	30分
第16回	期末レポートはこちらから提出してください。	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢（40%） ・発表内容（60%） ・富山国際大学成績評価基準に従って評価する 		
使用資料 <テキスト>	講義の際に適宜資料を用意し、一部を配布する。	使用資料 <参考図書>	適宜、演習において紹介する。
授業外学修等	予習、復習を合計、週2時間必要とする。その他、新聞、雑誌、ニュースなど、企業や消費者などの関連記事に常に目を通しておくこと。		
授業外質問方法	適宜相談に応じるが、電子メールなどで事前にアポイントを取ること。		
オフィス・アワー	月 / 9:00-10:30		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G4703P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	佐藤 綾子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>本講義では、1年を通じて経営の理論と実践の両面にふれることで、物事を多面的に捉える力を身につけることを目指します。前期は地域もしくは企業の事業計画作成を通じて（まちづくりコンペティション、ビジネスプランコンテスト、大学祭模擬店等への参加を検討）、経営戦略の全体像を把握することを学びます。（担当教員：企業での実務経験あり）</p>		
-------	--	--	--

キーワード	経営分析	財務会計	公共経営		
-------	------	------	------	--	--

到達目標	事業計画の策定を通じて物事を多面的に捉える力を身につける。		
	事業計画の策定を通じて協働力を身につける。		

ディプロマポリシー	1. 「人」としての能力（人間性の向上）	
カリキュラムポリシー	経営情報に関する専門性の向上	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】シラバスを読んでおくこと	30分
	【復習】事業計画案について検討すること	30分
第2回	事業計画のテーマおよび目標の策定	
	【予習】事業計画案について検討しておくこと	30分
	【復習】	
第3回	対象事業の外部要因分析	
	【予習】関連資料を用意しておくこと	30分
	【復習】必要な追加分析を行うこと	30分
第4回	対象事業の内部要因分析	
	【予習】関連資料を用意しておくこと	30分
	【復習】必要な追加分析を行うこと	30分
第5回	事業戦略の検討とワーキング・グループ別作業	
	【予習】	
	【復習】グループごとに必要な作業を行うこと	30分
第6回	事業戦略の検討とワーキング・グループ別作業	
	【予習】	
	【復習】グループごとに必要な作業を行うこと	30分
第7回	事業計画策定のための情報収集	
	【予習】	
	【復習】グループごとに必要な作業を行うこと	30分
第8回	事業計画策定のための情報収集	
	【予習】	
	【復習】グループごとに必要な作業を行うこと	30分
第9回	事業計画策定のための情報収集	
	【予習】	
	【復習】グループごとに必要な作業を行うこと	30分

第10回	事業計画策定	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論をもとに必要事項を修正すること	30分
第11回	事業計画策定	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論をもとに必要事項を修正すること	30分
第12回	事業計画のプレゼンテーション及びディスカッション	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論をもとに必要事項を修正すること	30分
第13回	事業計画のプレゼンテーション及びディスカッション	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論をもとに必要事項を修正すること	30分
第14回	事業計画のプレゼンテーション及びディスカッション	
	【予習】	
	【復習】ゼミでの議論をもとに必要事項を修正すること	30分
第15回	総括	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	演習における討議参加状況、レポート等により総合的に評価します。		
使用資料 <テキスト>	必要に応じてプリントを配布します	使用資料 <参考図書>	適宜、演習において紹介します
授業外学修等	経営戦略は経営環境に応じて変容します。常に、新聞等で企業経営や市場に関する情報を収集する意識を持ち、それらを事業計画に反映することが求められます。		
授業外質問方法	疑問や質問にはオフィスアワー以外でも対応します。対応可能時間はメールで確認して下さい (asatoh@tuins.ac.jp)		
オフィス・アワー	木曜日1時限		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G4703P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	高尾 哲康
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>専門演習 ではシステム構築のための思考能力およびプログラミングスキルを身につけるために、各種アプリケーションシステムやサーバシステムを試作しながら、その仕組みを理解するとともに様々な技法を学習する。また、AI（人工知能）分野の基本を学ぶ。</p>			
-------	--	--	--	--

キーワード	情報システム	プログラミング	情報技術	プレゼンテーション
-------	--------	---------	------	-----------

到達目標	問題に対する多様な視点を身に付ける。			
	情報システム・情報技術等への関心を高める。			
	協働学習を通してチームとしての力を身につける。			

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス 履修登録 研究テーマの紹介	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	履修登録確認 研究テーマの策定 Anacondaシステムのアップデート方法	
	【予習】 希望するテーマについて調査	30分
	【復習】	
第3回	研究テーマの策定 人工知能プログラミング入門	
	【予習】 希望するテーマについて調査	30分
	【復習】	
第4回	研究テーマごとに必要な書籍や資料などの紹介	
	【予習】 希望するテーマについて調査	30分
	【復習】	
第5回	研究テーマごとに必要な書籍や資料などの紹介	
	【予習】 希望するテーマについて調査	30分
	【復習】	
第6回	文献購読	
	【予習】 書籍や資料を予習しておく	30分
	【復習】	
第7回	文献購読	
	【予習】 書籍や資料を予習しておく	30分
	【復習】	
第8回	文献購読	
	【予習】 書籍や資料を予習しておく	30分
	【復習】	

第9回	システム化計画の策定	
	【予習】	
	【復習】システム試作に向けた準備	60分
第10回	システム化計画の策定	
	【予習】	
	【復習】システム試作に向けた準備	60分
第11回	システム化計画の策定	
	【予習】	
	【復習】システム試作に向けた準備	60分
第12回	システムの試作	
	【予習】	
	【復習】PCを利用した作業を進める	60分
第13回	システムの試作	
	【予習】VisualStudioCodeでJupyterNotebook	
	【復習】PCを利用した作業を進める	60分
第14回	システムの試作	
	【予習】	
	【復習】PCを利用した作業を進める	60分
第15回	まとめ	
	【予習】	
	【復習】PCを利用した作業を進める	60分
第16回	予備日	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	受講態度(40%)および課題への取組み(60%)によって総合的に評価する。 到達目標については、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。		
使用資料 <テキスト>	適宜指示する。	使用資料 <参考図書>	適宜指示する。
授業外学修等	各自で設定したテーマに関連する情報を収集するために、インターネットだけでなく、書籍や新聞・各種資料などに目を通すようにしておくこと。		
授業外質問方法	質問等についてはメール(takao@tuins.ac.jp)、SNS等にて対応する。		
オフィス・アワー	水曜日 1 時限 (425室)		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G4703P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	高橋 哲郎
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	1限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>外国人材の登用を含めた「人的資源管理」を中心に学ぶ。感情や主体性を持った「ヒト」を組織目標の達成に向けて統合し調整することは簡単ではない。企業がどのようにして様々な制度（雇用管理制度、人材育成制度、評価制度、報酬制度、福利厚生制度、労使関係制度等）を設計・運用し、人材を活用しようとしているかを学ぶ。「ヒト」に関する企業のマネジメントの理解が深まり、ゼミ生の就活に役立つことを当ゼミの達成目標の一つとする。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	課題発見	地域課題解決	チームワーク		
-------	------	--------	--------	--	--

到達目標	ゼミ生相互に刺激し、鍛えられる関係性の構築。				
	基礎学力および発想力の向上。				

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	幅広く多様な専門知識の修得	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	自己紹介。今年度のゼミ学習方針の説明および話し合い。	
	【予習】文献資料の収集	30分
	【復習】文献資料の選択	30分
第2回	選択した文献資料の説明。まとめ方、発表の仕方の説明	
	【予習】担当部分のレジュメ、プレゼン作成	30分
	【復習】担当部分のレジュメ、プレゼン作成	30分
第3回	担当部分の発表、質疑応答。補足資料の解説。資料収集	
	【予習】担当部分のレジュメ、プレゼン作成	30分
	【復習】担当部分のレジュメ、プレゼン作成	30分
第4回	担当部分の発表、質疑応答。補足資料の解説。資料収集	
	【予習】担当部分のレジュメ、プレゼン作成	30分
	【復習】担当部分のレジュメ、プレゼン作成	30分
第5回	地元企業見学（予定）	
	【予習】企業情報収集、企業研究	30分
	【復習】企業で説明を受けた内容をまとめる。	30分
第6回		
	【予習】アイデアを具体化する。 資料収集する。	30分
	【復習】アイデアを具体化する。 資料収集する。	30分
第7回	地元企業見学（予定）	
	【予習】企業情報収集、企業研究	30分
	【復習】企業で説明を受けた内容をまとめる。	30分
第8回	富山県の企業研究	
	【予習】富山県の企業研究、資料収集	30分
	【復習】富山県の企業研究、資料収集	30分
第9回	富山県の企業研究	
	【予習】富山県の企業研究、資料収集	30分
	【復習】富山県の企業研究、資料収集	30分

第10回	富山県の企業研究、	
	【予習】富山県の企業研究、資料収集	30分
	【復習】富山県の企業研究、資料収集	30分
第11回	富山県の企業研究	
	【予習】富山県の企業研究、資料収集	30分
	【復習】富山県の企業研究、資料収集	30分
第12回	研究成果のプレゼンテーション	
	【予習】プレゼンテーション準備	30分
	【復習】プレゼンテーション準備	30分
第13回	研究成果のプレゼンテーション	
	【予習】プレゼンテーション準備	30分
	【復習】プレゼンテーション準備	30分
第14回	研究成果のプレゼンテーション	
	【予習】プレゼンテーション準備	30分
	【復習】プレゼンテーション準備	30分
第15回	前期の振り返り	
	【予習】プレゼンテーション準備	
	【復習】プレゼンテーション準備	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>受講意欲(50%)、課題提出(50%)により評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。 【ディプロマポリシー配分比率】専門性：60%、社会性40%</p>		
使用資料 <テキスト>	<p>基礎的なテキストと専門的なテキストをゼミ生からの意見を取り入れ決める予定。</p>	使用資料 <参考図書>	<p>随時紹介する。</p>
授業外学修等	<p>時間厳守、無断欠席厳禁です。 配布資料による予習・復習が必要です。</p>		
授業外質問方法	<p>授業後とオフィス・アワーにて対応する。メーリングリスト作成予定。</p>		
オフィス・アワー	<p>木曜日 1 時限</p>		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G4703P05
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	新森 昭宏
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	<p>テキストデータを対象として、記述内容や記述傾向を分析する手法(テキストマイニング)とツールについて学ぶ。無償で提供されている「KH Coder」というツールを活用する。小説・ブログ・SNS(Social Network Service)・新聞記事など、インターネット上に存在し、利用可能となっているテキストデータを対象として、様々な分析を行う。(担当教員：企業での実務経験あり)</p>			
-------	--	--	--	--

キーワード	テキスト処理	テキストマイニング	データ収集	データ分析	プレゼンテーション
-------	--------	-----------	-------	-------	-----------

到達目標	分析を行う目的で、テキストデータを収集し、加工することができる。(20%)
	テキストデータ分析ツール「KH Coder」を使いこなすことができる。(60%)
	自分でテーマを設定して分析作業を行い、成果を人前で発表することができる。(20%)

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	専門性をさらに高める実習・演習

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイドンス。テキストマイニング、KH Coderの概要。	
	【予習】テキストマイニングについてインターネットで調べておくこと	30分
	【復習】KH Coderを自分のPCにインストールすること	30分
第2回	KH Coderの使用方法和テストデータを用いた分析	
	【予習】KH Coderの使い方について予習しておくこと	30分
	【復習】テストデータを用いた分析を自分で再度実施しておくこと	30分
第3回	夏目漱石の「こころ」を用いた分析	
	【予習】夏目漱石の「こころ」について調べておくこと。可能であれば自分で読んでおくこと。	30分
	【復習】説明した内容を復習しておくこと	30分
第4回	新聞記事を用いた分析	
	【予習】読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日経新聞、北日本新聞のうち少なくとも2つのホームページを参照しておくこと	30分
	【復習】説明した内容を復習しておくこと	30分
第5回	分析対象となるデータ候補の説明と著作権法の概説。	
	【予習】インターネットで「青空文庫」を調べておくこと	30分
	【復習】著作権法についての説明内容を復習しておくこと	30分
第6回	研究テーマの策定	
	【予習】取り組みたい研究テーマについて考えておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第7回	研究テーマの策定	
	【予習】前回の議論を踏まえて取り組みたい研究テーマについて再考しておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第8回	研究テーマごとに必要な書籍や資料などの紹介	
	【予習】自分の研究テーマに関連する書籍や資料を調査しておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第9回	文献調査	
	【予習】自分の研究テーマに関連する文献を読んでおくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分

第10回	文献調査	
	【予習】自分の研究テーマに関連する文献を読んでおくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第11回	研究実施方法の策定	
	【予習】研究実施方法について考えておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第12回	研究実施方法の策定	
	【予習】研究実施方法について考えておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第13回	データ収集と前処理	
	【予習】データ収集と前処理について考えておくこと	30分
	【復習】説明・議論した内容を復習しておくこと	30分
第14回	データ収集と前処理（データ分析の試行に向けて）	
	【予習】前回の内容を踏まえて、さらにデータ収集と前処理について考えておくこと	30分
	【復習】説明・議論した内容を復習しておくこと	30分
第15回	前期のまとめ	
	【予習】前期に実施したことを復習しておくこと	30分
	【復習】議論した内容を復習しておくこと	30分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>受講態度、研究への取組み姿勢、提出された課題によって総合的に評価する。 「富山国際大学成績評価基準」に従って評価する。</p> <p>人間性：30% 社会性：30% 専門性：40%</p>		
使用資料 <テキスト>	適宜、指示する。	使用資料 <参考図書>	・「テキストマイニング入門: ExcelとKH Coderでわかるデータ分析」(末吉美喜,
授業外学修等	<p>課題の提示と提出にMicrosoft Teamsを使用します。提出された課題にフィードバックが必要な場合は、Microsoft Teamsを使ってフィードバックします</p> <p>各自で設定したテーマに関連する情報を収集するために、インターネットだけでなく、書籍や新聞・各種資料などに目を通すようにしてください。</p>		
授業外質問方法	メールまたはオフィス・アワーで対応。		
オフィス・アワー	月曜日2限		

授業科目名	インターンシップ	科目コード	G4707F03
英文名	Internship		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	教授	担当教員名	尾畑 納子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	1年・2年・3年・4年前期・後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>本学においてインターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」を指し、事前に学生が取り組む課題を設定し、それに基づき企業や各種機関において短期間の実習・研修を行う制度のことをいう。今日、国際化や情報化の急速な進展、あるいは社会や産業構造の激しい変化により、雇用環境も大きく変わりつつある。その中であって、人材育成の核となる大学には、社会人基礎力を有する人材はもちろん、社会や産業界・企業のニーズに応える人材育成を目指した教育機能の一層の拡充・強化が求められている。このような要請に応えるために、本学のインターンシッププログラムは、産学官の連携により、学生のキャリア形成教育の一環として実施されるものである。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	インターンシップ	企業研究		
-------	----------	------	--	--

到達目標	高い職業意識の育成・啓発：実習・研修を通じ、仕事とは何か、ビジネスはどのように形作られていくのか等についての理解を深め、自らの職業適性や将来設計を考える機会を得る。		
	学習意欲の向上・教育効果の実現：実習・研修を通じ、これまで大学で学んできたことを確かめるとともに、自らの専攻や研究と関連のある問題や課題を見出し、専門分野への学習意欲を高めたり、深化させたりする。		
	自主性・責任感のある人材の育成：現実の組織・職場の厳しさを体験することによって、社会人としての自覚を促すとともに、自主性・責任感のある人材の育成に役立てる。		

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力（社会性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門性をさらに高める実習・演習	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	事前研修（1）企業説明会への参加（富山県インターンシップ推進センター主催説明会）	
	【予習】インターンシップ研修参加希望企業につき予習をしておくこと	30分
	【復習】説明会で学んだ企業情報を整理しておくこと	30分
第3回	事前研修（2）インターンシップ参加の心得	
	【予習】	
	【復習】企業研究ノートを作成し、整理しておくこと	30分
第4回	事前研修（3）マナー講座（身だしなみ）	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	事前研修（4）テーマ発表	
	【予習】インターンシップ参加にあたり設定したテーマに関するプレゼンテーションを準備しておくこと	90分
	【復習】テーマ発表で受けたアドバイスにもとづき修正点、改善点につき検討しておくこと	30分
第6回	事前研修（5）マナー講座（マナー研修Part1）	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	事前研修（5）マナー講座（マナー研修Part2）	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	事前研修（6）事前面談（就職アドバイザーとの個人面談）	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	企業研修（1）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分

第10回	企業研修（2）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第11回	企業研修（3）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第12回	企業研修（4）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第13回	企業研修（5）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第14回	事後研修（1） 報告書の作成	
	【予習】日報や企業研究ノートをもとに報告書の原案を作成しておくこと	90分
	【復習】教員による添削をもとに報告書を修正すること	60分
第15回	事後研修（2）研修報告会	
	【予習】研修成果に関するプレゼンテーション内容を準備しておくこと	60分
	【復習】	
第16回	事後研修（3）インターンシップ学内報告会	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	事前・事後研修、研修先での実習・研修に対する評価、事後レポートを総合的に判断する。		
使用資料 <テキスト>	適宜資料を配布する。	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	インターンシップ申込み、実習方法等は受入企業により異なるため、自主性・責任感をもって取り組んでください。		
授業外質問方法	質問にはオフィスアワー以外にも対応します（メール可）。		
オフィス・アワー	木曜日3限		

授業科目名	グローバルキャンパスプログラム（経営情報）	科目コード	G4708F04
英文名	Global Campus Program (Business Management & Information Science)		

科目区分	経営情報専攻科目 - 総合		
------	---------------	--	--

職名	講師	担当教員名	重本 祐樹
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	2年・3年・4年前期・後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	オックスフォード大学、ロンドン金融街、大英博物館などの訪問を通じ、今日の経済やビジネス情勢について考える。			
-------	---	--	--	--

キーワード	英国	語学	オックスブリッジ	文化	自己相対化
-------	----	----	----------	----	-------

到達目標	英語力の向上。
	イギリスの社会文化構造を経験する。
	異文化経験を通じ、自身や自国について相対的に考察できる。

ディプロマポリシー	1.「人」としての能力（人間性の向上）	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	現代社会に必要な基礎知識の向上	国際人に必要な外国語能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	事前指導	
	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
第2回	事前指導	
	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
第3回	オックスフォード大学訪問（レクチャーを受ける、ディナー会参加、学生交流など）	
	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
第4回	オックスフォード大学訪問（レクチャーを受ける、ディナー会参加、学生交流など）	
	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
第5回	オックスフォード大学訪問（レクチャーを受ける、ディナー会参加、学生交流など）	
	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
第6回	オックスフォード大学訪問（レクチャーを受ける、ディナー会参加、学生交流など）	
	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
第7回	オックスフォード大学訪問（レクチャーを受ける、ディナー会参加、学生交流など）	
	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
第8回	オックスフォード大学訪問（レクチャーを受ける、ディナー会参加、学生交流など）	
	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
第9回	オックスフォード大学訪問（レクチャーを受ける、ディナー会参加、学生交流など）	
	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分

	オックスフォード大学訪問（レクチャーを受ける、ディナー会参加、学生交流など）	
第10回	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	大英博物館訪問	
第11回	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	大英博物館訪問	
第12回	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	ロンドン金融街訪問	
第13回	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	ロンドン金融街訪問	
第14回	【予習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	【復習】イギリスおよび訪問地の経済、文化、社会構造について各自調査。	60分
	まとめ	
第15回	【予習】	
	【復習】	
第16回	【予習】	
	【復習】	

評価方法	レポート(100%)で評価します。		
使用資料 <テキスト>	なし	使用資料 <参考図書>	なし
授業外学修等	語学学習等を進めてください。		
授業外質問方法	メールにて適宜受け付けます。【shigemoto@tunis.ac.jp】		
オフィス・アワー	火曜日4時限		

授業科目名	英語文学	科目コード	G5203L04
英文名	English literature		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - キャリア英語基礎		
------	-------------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	Mark Frank
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	This class will introduce students to English literature, focusing on the joy of reading and the power of literature to improve their lives. A wide varetiey of works, authors, and genres will be introduced, from Shakespeare to modern writers. The impact of “ Japan ” on English literature and Japanese literature in English will also be explored. The content of the class will be tailored to suit student interest and ability levels.			
-------	---	--	--	--

キーワード	Reading	Literature	Critical thinking	Textual analysis
-------	---------	------------	-------------------	------------------

到達目標	1 Develop fluency in reading and enjoying English literature
	2 Improve vocabulary and grammar knowledge through literature
	3 Cultivate the ability to critically analyze texts in terms of content, structure, and genre

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Introduction: what is " literature " ? Knowledge and interest evaluation	
	【予習】	
	【復習】 Review notes and handouts from class.	
第2回	How to read, understand, and enjoy English literature	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第3回	Diving into Shakespeare: The joy and play of language	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第4回	How to enjoy English poetry: rhythm, music, and words of the heart	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第5回	Student reports: talk about the books you are reading (1)	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第6回	How to enjoy English novels: an examination of the human condition	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第7回	Talk about modern (post-war) literature	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第8回	Student reports: talk about the books you are reading (2)	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第9回	Impact of Japan on English literature	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分

第10回	Japanese literature in English (1)	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第11回	Japanese literature in English (2)	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第12回	Student reports: talk about the books you are reading (3)	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第13回	Learning grammar from Hemingway	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第14回	Harry Potter and Young Adult literature	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第15回	Student reports: talk about the books you are reading (4)	
	【予習】 Complete the homework exercises.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第16回	Final test	
	【予習】 Prepare for the test as directed by the teacher.	60分
	【復習】	

評価方法	Graded reader reports, 20% Class portfolio, 60% Final test, 20%		
使用資料 <テキスト>	All materials will be provided by the teacher.	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	Students will need to visit English Café and the library for research purposes.		
授業外質問方法	Students are invited to visit my office or contact me via e-mail with any questions or concerns.		
オフィス・アワー	木曜日 2限 Thursday, second period		

授業科目名	Advanced Reading	科目コード	G5303L01
英文名	Advanced Reading		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - キャリア英語展開		
------	-------------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	Mark Frank
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	月曜日	時限	1限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	The aim of this course is to provide students with the skills to read and process academic English. The course is especially recommended for students who are writing their graduation thesis in English or those who wish to use English in their future career or study.			
-------	--	--	--	--

キーワード	Reading	Research	Rhetoric	Vocabulary
-------	---------	----------	----------	------------

到達目標	1 Expand fluency in both intensive and extensive academic reading in English			
	2 Improve vocabulary, particularly academic English vocabulary			
	3 Understand the key rhetorical differences between Japanese texts and English texts			
	4 Develop reading skills necessary to do effective research in English			

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Introduction to Advanced Reading 2: Reading for research	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	Academic reading: reading skills for research and graduation thesis (1)	
	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
第3回	Academic reading: reading skills for research and graduation thesis (2)	
	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
第4回	Reading academic journals	
	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
第5回	Reading and summarizing (1)	
	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
第6回	Reading and summarizing (2)	
	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
第7回	Reading about Toyama in English (1)	
	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
第8回	Reading about Toyama in English (2)	
	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
第9回	Reading and evaluating sources	
	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分

	Reading and evaluating sources	
第10回	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
	Reading and making references: keeping an academic reading journal (1)	
第11回	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
	Reading and making references: keeping an academic reading journal (2)	
第12回	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
	Academic reading: reading skills for research and graduation thesis (3)	
第13回	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
	Academic reading: reading skills for research and graduation thesis (4)	
第14回	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
	Student presentations about reading projects; review for test	
第15回	【予習】 Preview the following week ' s assignment using handouts and other resources provided by the teacher.	60分
	【復習】 Review the week ' s reading, focusing especially on new vocabulary and difficult to understand passages.	30分
	Test	
第16回	【予習】 Prepare for the test as directed by the teacher.	60分
	【復習】	

評価方法	Classwork and homework, 40% In-class quizzes and activities, 40% Final test, 20%		
使用資料 <テキスト>	All materials will be provided by the teacher.	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法	Students are invited to visit my office or contact me via e-mail with any questions or concerns.		
オフィス・アワー	水曜日1限目 Wednesday first period		

授業科目名	Academic Writing	科目コード	G5303L02
英文名	Academic Writing		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - キャリア英語展開		
------	-------------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	Mark Frank
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	5限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	This course continues to build on the fundamentals of writing introduced in Academic Writing 1. Students will master short essay writing in a variety of genres and begin doing research connected to their graduation theses.			
-------	--	--	--	--

キーワード	Writing	Reading	Vocabulary	Peer review	Revising
-------	---------	---------	------------	-------------	----------

到達目標	1 Develop fluency in writing academic English essays in a variety of genres
	2 Improve academic English vocabulary
	3 Deepen academic research skills in English, moving towards the writing of a graduation thesis in English
	4 Continue to develop revision and rewriting skills while mastering the rhetorical patterns of English

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Introduction to course and explanation of course policies, goals, and evaluation methods. Activity: in-class writing and evaluation.	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	Research and citation: an introduction	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第3回	Research and citation: in-text citation and works cited list	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第4回	Argumentative essay: developing arguments	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第5回	Argumentative essay: organizing	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第6回	Argumentative essay: workshopping and revision	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第7回	Compare and contrast essay: structure introduction	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第8回	Compare and contrast essay: describing similarities and differences	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第9回	Compare and contrast essay: workshopping and revision	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分

第10回	Expository essay: essay structure and the introductory paragraph	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第11回	Expository essay: body paragraphs, concluding paragraphs, and outlining	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第12回	Expository essay: workshopping and revision	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第13回	Grammar and revision workshop	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第14回	Graduation thesis workshop 1	
	【予習】 Complete the homework exercises and vocabularly practice before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第15回	Graduation thesis workshop 2	
	【予習】 Review and prepare for the test as directed by the teacher.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class, particularly feedback on your writing from the teacher.	30分
第16回	Test and portfolio review	
	【予習】 Prepare for the test as directed by the teacher.	60分
	【復習】	

評価方法	Writing portfolio, 80% (including homework and writing exercises) Test, 20%		
使用資料 <テキスト>	All materials will be provided by the teacher.	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	Students will need to visit English Café and the library for research purposes.		
授業外質問方法	Students are invited to visit my office or contact me via e-mail with any questions or concerns.		
オフィス・アワー	木曜日 2限 Thursday, second period		

授業科目名	TOEIC	科目コード	G5303L06
英文名	TOEIC		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - キャリア英語展開		
------	-------------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	堀川 真理子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	金曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	TOEIC 500～900得点者が対象。国際的に通用する英語力を、楽しく固めます。(企業での実務経験あり)			
-------	---	--	--	--

キーワード	Listening	Reading	Vocabulary	Business
-------	-----------	---------	------------	----------

到達目標	ビジネスの場で必要となる語彙を増やす。(50%)			
	和訳というフィルターを通さずに、英語を読み、理解できる(20%)			
	受講当初のTOEICスコアを、期末のIPテストで最大で30%上げる。(30%)			

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上	専門分野に共通する基礎知識の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	授業の目的と進め方を説明。皆さんの目標を聞きます。	
	【予習】自分の目指すレベルを発表してもらいます。	
	【復習】授業内容の復習	
第2回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第3回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第4回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第5回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第6回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第7回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第8回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第9回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	

第10回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第11回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第12回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第13回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第14回	Longman テキスト 指定箇所、" Thirteen Reasons Why " 指定箇所	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第15回	TOEIC IPテスト（オンライン）を教室で実施、自分の成長を確認してください。コースのまとめをします。	
	【予習】授業内で出した課題	90分
	【復習】授業内容の復習	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	<p>授業内活動（70％） 期末TOEICテストのスコア（30％）で評価します。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。</p>		
使用資料 <テキスト>	Longman Preparation Series for the TOEIC Test: Advanced Course (Pearson),	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出欠は毎回確認します。授業開始後の入室は不可。5回以上の欠席者は単位を取得できません。 ・ 毎授業時に、覚えてきた内容を確認するゲームやクイズをします。 ・ 毎授業時に、" Thirteen Reasons Why " の音読をします。滑らかに読めるように、練習をしておいてください。 		
授業外質問方法	<p>基本的にこの授業後、研究室（422）で対応します。その他の日は、相談に応じますので、予約をしてください。学習の内容に関して、メールやラインでのやりとりはしません。</p>		
オフィス・アワー	<p>火曜日2限、研究室（422）</p>		

授業科目名	国際関係特論	科目コード	G5403P01
英文名	Special Lecture on International Relation		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 国際理解		
------	---------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	渡部 恵子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	5限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	This course aims to have an understanding of the international relations through works. (Lecturer has relevant practical experience.)			
-------	---	--	--	--

キーワード	international	theories	dipomacy	realism	liberalism
-------	---------------	----------	----------	---------	------------

到達目標	To be able to understand problems in the international society with the help of the IR theories as an analytical tool. (100%).				

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力(専門性の向上)	
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上	幅広く多様な専門知識の修得

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Globalization	
	【予習】 Read news reports in the international sections in newspapers and magazines	30分
	【復習】 Review class note.	30分
第2回	State as an actor of the international society	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第3回	War	
	【予習】 Read a material handed out.	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第4回	Peace	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第5回	National security	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第6回	Collective security	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第7回	The United Nations	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第8回	PKO	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第9回	Reginal integration: EU	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分

第10回	Regional integration: ASEAN	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第11回	International trade	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第12回	international migration	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第13回	Global environment	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第14回	Democracy and democratization	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第15回	Japan and the international community	
	【予習】	60分
	【復習】 Review class note.	30分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	Participation (50 %) , final test (50 %) 評価は、「富山国際大学評価基準」に従って行います。DP配分比率は、専門性：70%、人間性： 30%		
使用資料 <テキスト>	『ワークブック国際関係論』（ナカニシヤ出版）	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法	Students can visit Watanabe's office or contact via an e-mail at watanabe@tuins.ac.jp		
オフィス・アワー	10 : 40 ~ 12 : 10 on Tuesday and Thursday.		

授業科目名	多文化共生論	科目コード	G5403P02
英文名	Multiculturalism		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 国際理解		
------	---------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	Mark Frank
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	1限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	This class will explore ideas and concepts of “ multicultural co-existence ” (多文化共生), using news articles, examples, and classroom activities. The class will be participatory, with students taking an active role in discussion, activities, and presentations. The language of the class will be in English and Japanese. (Many print materials will be in Japanese.)			
-------	--	--	--	--

キーワード	Multicultural	Diversity	Coexistence	Culture
-------	---------------	-----------	-------------	---------

到達目標	1 Foster an understanding of multicultural coexistence.
	2 Engage with problems of multiculturalism in order to develop intercultural skills.
	3 Develop the ability to recognize and accommodate cultural diversity in one's own community.

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	なぜ文化を学ぶか The value and meaning of studying culture	
	【予習】	
	【復習】 Review notes and handouts from class.	
第2回	「異なり」を考える What is " difference " ? What is "other"?	
	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第3回	「人」ってだれのこと？ 日本人・外国人 Nationality and identity	
	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第4回	カルチャー・マップ The Culture Map	
	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第5回	コンテキスト文化と5次元モデル the 5 Dimensional Model of Cultural Context	
	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第6回	みんなが暮らしやすく！ Universal design and a community for everyone	
	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第7回	ステレオタイプと思い込み Stereotypes	
	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第8回	国って愛さなきゃいけないの？ ナショナリズム Nationalism	
	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
第9回	言語間の平等を考える What is interlingual equality?	
	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分

	わかりやすく伝えよう！やさしい日本語 The necessity for easy-to-understand Japanese	
第10回	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
	言語バリエーション Linguistic variety	
第11回	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
	差別とその感情を考える What is discrimination?	
第12回	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
	あなたにとっての「カミ」とは？ Religious difference and understanding	
第13回	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
	異文化の順応と適応 Intercultural adaptation and accomodation	
第14回	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
	多文化共生と富山 Multicultural Co-existence and Toyama	
第15回	【予習】 Complete the homework exercises before class.	60分
	【復習】 Review notes and handouts from class.	30分
	Test	
第16回	【予習】 Prepare for the test as directed by the teacher.	60分
	【復習】	

評価方法	Homework assignments, 30% Reaction notebook, 20% Project, 30% Final test, 20%		
使用資料 <テキスト>	All materials will be provided by the teacher.	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法	Students are invited to visit my office or contact me via e-mail with any questions or concerns.		
オフィス・アワー	木曜日 2限 Thursday, second period		

授業科目名	国際ビジネス	科目コード	G5503L02
英文名	International Business		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 国際キャリア		
------	-----------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	堀川 真理子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	水曜日	時限	1限目
開講時期	3年前期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	Explore the wide range of issues relevant to international business, with an emphasis on cross-cultural understanding and consequential action, based on my professional experience.			
-------	--	--	--	--

キーワード	International	Business	Culture	Economy
-------	---------------	----------	---------	---------

到達目標	To become able to think critically, form a well-reasoned opinion, and express that opinion capably. (50%)
	To learn concepts and become able to apply the knowledge in other settings.(30%)
	To become able to navigate across cultures and borders, enhancing your employability.(20%)

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	幅広く多様な専門知識の修得

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Introduction to International Business	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	International Trade	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第3回	International Trade and E-commerce	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第4回	Case studies of Globalized Businesses	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	2分
	【復習】 Summarize learning	
第5回	Entering a New Market	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第6回	Considering the Business Environment	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第7回	Facing Cultural Differences	
	【予習】 Read assignments and hand in summary	1分
	【復習】 Summarize learning	
第8回	Watching the Governments ' Moves	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第9回	Case Studies of the Big Techs	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	

第10回	Keeping up with the Global Ethics	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第11回	Presentations on Case Studies	
	【予習】 Prepare for individual/group presentations	3分
	【復習】 Summarize learning	
第12回	Developing Product Strategies	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第13回	Analyzing International Opportunities	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第14回	Observing Consumer Behavior	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第15回	Managing Human Resource	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業内課題・提出物(50%) 授業内活動(20%) 期末レポート(30%)により評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。		
使用資料 <テキスト>	Materials will be provided by the teacher	使用資料 <参考図書>	「異文化理解力」(エリン・メイヤー、英治出版)、「現代マーケティング論」(高
授業外学修等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出欠は毎回確認します。授業開始後の入室は不可。5回以上の欠席者は単位を取得できません。 ・ 毎授業時、予習を終えた課題内容を発表し、相互に学び合います。課題を持参せずにクラスに参加することはできません。また、準備した課題は、クラスが終わった時点で提出してもらいます。 		
授業外質問方法	The next period after class is suitable. Otherwise, please make an appointment.		
オフィス・アワー	On the second period, every Thursday, in Room 422.		

授業科目名	国際交渉	科目コード	G5503L04
英文名	International Negotiation		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 国際キャリア		
------	-----------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	堀川 真理子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	木曜日	時限	2限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	Understand the negotiation process and its fundamental elements in order to address the increasing need for cooperative negotiation at home, at work, and in the larger world.			
-------	--	--	--	--

キーワード	Negotiation	BATNA	Agreement	Breakthrough	Culture
-------	-------------	-------	-----------	--------------	---------

到達目標	Learn the five-step strategy " Breakthrough Negotiation. "			
	Understand the influence of culture on negotiations in an international context.			

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Introduction to International Negotiations	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	Overview: Breaking through barriers to cooperation	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】	
第3回	Prologue: Prepare, prepare, prepare	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第4回	The Breakthrough Strategy: Don ' t react -1	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第5回	The Breakthrough Strategy: Don ' t react -2	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第6回	The Breakthrough Strategy: Don ' t argue -1	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第7回	The Breakthrough Strategy: Don ' t argue -2	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第8回	The Breakthrough Strategy: Don ' t reject -1	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第9回	The Breakthrough Strategy: Don ' t reject -2	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	

第10回	The Breakthrough Strategy: Don ' t push	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第11回	The Breakthrough Strategy: Don ' t escalate	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第12回	The art of negotiation in diplomacy	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	
	【復習】 Summarize learning	
第13回	The art of negotiation in diplomacy	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	
	【復習】 Summarize learning	
第14回	Negotiations in hostage crisis	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	
	【復習】 Summarize learning	
第15回	Conclusion: Turning adversaries into partners	
	【予習】 Read assignment and make a written summary to hand in at the beginning of class.	1分
	【復習】 Summarize learning	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	Writing assignments 40%, Class attendance, preparation and participation in class discussions and learning activities 50%, Quizzes 10%		
使用資料 <テキスト>	"Getting Past NO -- Negotiating in Difficult Situations" by William Ury	使用資料 <参考図書>	「ハーバード流 “NO” と言わせない交渉術」(ウィリアム・ユーリー/著)
授業外学修等			
授業外質問方法	The next period after class is suitable. Otherwise, please make an appointment.		
オフィス・アワー	On the second period, every Tuesday.		

授業科目名	国際キャリア特別講義	科目コード	G5503P01
英文名	Special Course on International Career		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 国際キャリア		
------	-----------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	渡部 恵子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	This course focuses to develop mindset and skills to work in a multicultural environment.			
-------	---	--	--	--

キーワード	career	international	cross cultural		
-------	--------	---------------	----------------	--	--

到達目標	Understand cross-cultural differences commonly seen between Japanese and Western business people which may hinder business and develop skills to overcome common problems. (100%)				

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）	
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上	

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Introduction.	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第2回	Topic 1: Clash of cultures	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第3回	Topic 2: Western work culture and Japanese work culture	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第4回	Topic 3: Identify potential problem	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第5回	Topic 4: Be more proactive	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第6回	Topic 5: Be more proactive	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第7回	Topic 6: Be bold and take more chances	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第8回	Topic 7 : Be bold and take more chances	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第9回	Topic 8 : More results oriented	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	

第10回	Topic 9: More results oriented	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第11回	Topic 10: More decisive	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第12回	Topic 11: More decisive	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第13回	Topic 12: More bigpicture thinking	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第14回	Topic 13: More bigpicture thinking	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第15回	Topic 14: Wrap-up	
	【予習】 Read the text book.	
	【復習】 Check notes.	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	Active participation (50%), final report (50%) 評価は、「富山国際大学評価基準」に従って行います。DP配分比率は、専門性：70%、人間性：30%		
使用資料 <テキスト>	"Step Up-A simple story with smart solutions" (Leland Gaskins, 2019)、『未来	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法	Visit Watanabe's office or contact by e-mail at watanabe@tuins.ac.jp		
オフィス・アワー	10:40 ~ 12:10 on Tuesday and Thursday.		

授業科目名	国際協力			科目コード	G5503P03
英文名	International Cooperation				
科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 国際キャリア				
職名	客員教授	担当教員名	才田 春夫		
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科		
曜日	火曜日	時限	2限目		
開講時期	3年前期	授業の方法	講義		
必修・選択	選択	単位数	2単位		
授業の概要	Understand the situation of developing countries are recipients. Lecture on international cooperation such as ODA, and other aids done by NGO / NPO etc. Some topics will be lectured by JICA staffs or ex-volunteers.				
キーワード	ODA	JOCV	Developing	International	
到達目標	Able to explain the situation of LDCs				
	Able to explain ODA to developing countries				
ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）				
カリキュラムポリシー	幅広く多様な専門知識の修得				
キー・コンピテンシー（重視する能力）					
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力	
教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Orientation, Introduction of international cooperation. Developing countries.	
	【予習】	10分
	【復習】	40分
第2回	Definition of Developing Countries.	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 Select one of the developing countries and sort out the problems in that country	40分
第3回	Discussing developing country issues	
	【予習】 Select one of the developing countries and sort out the problems in that country (prepare for short presentation)	30分
	【復習】 Summarizing Developing countries.	40分
第4回	Think about official development assistance. 1.Overview of ODA	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 Summarizing ODA	40分
第5回	Think about official development assistance (ODA) 2.Case study 1(1)	
	【予習】 Investigating the role of JICA	30分
	【復習】 Summarizing role of JICA	40分
第6回	Think about official development assistance (ODA) 2.Case study 1(2)	
	【予習】 Read handouts about ODA	30分
	【復習】 Summarizing ODA	40分
第7回	Technical support to developing countries	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 Summarizing technical support	40分
第8回	International Cooperation as a Volunteer (1)	
	【予習】 Investigating the role of JOCV	30分
	【復習】 summarizing JOCV	40分
第9回	International Cooperation as a Volunteer (1) Lecture by a guest speaker	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 summarizing activity of JOCV	40分

第10回	International Cooperation as a Volunteer (2) Lecture by a guest speaker	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 summarizing activity of JOCV	40分
第11回	Possibility of international cooperation as a student 1 (samoa)	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 summarizing international cooperation done by TUINS students	40分
第12回	Possibility of international cooperation as a student 1 (samoa)	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 summarizing international cooperation done by TUINS students	40分
第13回	Workshop for PCM 1	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 summarizing what is PCM	40分
第14回	Workshop for PCM 2	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 summarizing what is PCM	40分
第15回	Workshop for PCM 3 (presentation)	
	【予習】 Read handouts about developing countries	30分
	【復習】 summarizing what is PCM	40分
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	Presentation 50% ・ Report 50% 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価します。 【ディプロマポリシー配分比率】 人間性：20% 社会性：30% 専門性：50%		
使用資料 <テキスト>		使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法	saida@tuins.ac.jp		
オフィス・アワー			

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G5603L03
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 総合		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	渡部 恵子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	日米の文化交流などに関する論部を輪読し、英語の論文の構成について学ぶ。			
-------	-------------------------------------	--	--	--

キーワード	ソフトパワー	文化	外交	日米関係	国際交流
-------	--------	----	----	------	------

到達目標	卒論の研究テーマについて、ある程度絞り込むことができる。			
	自分の論文に引用する既往論文の収集がある程度できている。			
	研究内容について適切なプレゼンテーションができる。			

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）	4.社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上	現代社会に必要な基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

第10回	教員が指定した教科書の部分の演習問題について検討し、質疑を行う。また、自分の研究テーマに沿った既往論文を少なくとも一つ選び、その概要について発表し、仲間とディスカッションする。	
	【予習】教科書の、教員が指定する箇所を読み、演習問題を解く。また、自分の研究テーマに沿った既往論文を少なくとも一つ選び、その概要について発表できるようにしておく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第11回	教員が指定した教科書の部分の演習問題について検討し、質疑を行う。また、卒業論文研究計画を立案する。	
	【予習】教科書の、教員が指定する箇所を読み、演習問題を解く。また、自分の研究テーマに沿った既往論文を少なくとも一つ選び、その概要について発表できるようにしておく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第12回	教員が指定した教科書の部分の演習問題について検討し、質疑を行う。また、卒業論文研究計画を立案する。	
	【予習】教科書の、教員が指定する箇所を読み、演習問題を解く。また、自分の研究テーマに沿った既往論文を少なくとも一つ選び、その概要について発表できるようにしておく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第13回	教員が指定した教科書の部分の演習問題について検討し、質疑を行う。また、卒業論文研究計画を立案する。	
	【予習】教科書の、教員が指定する箇所を読み、演習問題を解く。また、自分の研究テーマに沿った既往論文を少なくとも一つ選び、その概要について発表できるようにしておく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第14回	教員が指定した教科書の部分の演習問題について検討し、質疑を行う。また、卒業論文研究計画を立案する。	
	【予習】教科書の、教員が指定する箇所を読み、演習問題を解く。また、自分の研究テーマに沿った既往論文を少なくとも一つ選び、その概要について発表できるようにしておく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第15回	卒業論文研究計画について発表する。	
	【予習】教科書の、教員が指定する箇所を読み、演習問題を解く。また、自分の研究テーマに沿った既往論文を少なくとも一つ選び、その概要について発表できるようにしておく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業内活動（５０％）、期末課題（５０％）		
使用資料 <テキスト>	"Soft Power Superpowers" (Yasushi Watanabe, David L McConnell, Routledge	使用資料 <参考図書>	"MIA Handbook" (9th edition, The Modern Language Association of America, 2021), "A
授業外学修等	自分が興味を持つテーマについての報道記事や論文を集める。		
授業外質問方法	授業後などに対面で、または電子メールで。		
オフィス・アワー	火曜２限 研究室（４３３）で。		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G5603L03
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 総合		
------	-------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	Mark Frank
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	This class will prepare students for doing local research in Japanese and English.			
-------	--	--	--	--

キーワード	Fieldwork	Rhetoric	Writing	Local research
-------	-----------	----------	---------	----------------

到達目標	Students will gain the ability to do fieldwork in Japanese and summarize this work in English.			
	Students will gain the ability to do fieldwork in Japanese and summarize this work in English.			
	Student will develop communication skills both in English and in Japanese that will help not only in writing a graduation thesis but also in finding employment and becoming a member of society.			

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Introduction to class; registration guidance.	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	Review of material and data from first semester.	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	Review of material and data from first semester.	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	Transcription workshop.	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	Quotation workshop.	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	Reference material workshop.	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	How to do follow-up interviews.	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	Basic design for Toyama sake map	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	Map/guide layout workshop.	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	First draft of map/guide is finished.	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	Visit sake making union for interview and guidance.	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	Review feedback to map/guide first draft and begin revision.	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	Revision workshop.	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	Finished map/guide final check, publish.	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	Presentation to introduce map/guide.	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	Participation in class activities; weekly deadlines; map/guide work.		
使用資料 <テキスト>		使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法	Email, Line.		
オフィス・アワー	Wednesday 9:00-10:30		

授業科目名	専門演習 ・ b	科目コード	G5603L03
英文名	Major Seminar I b		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 総合		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	堀川 真理子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	4限目
開講時期	3年後期	授業の方法	講義
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	3年後期は、卒業研究のテーマを探すことに注力します。		
-------	----------------------------	--	--

キーワード	テーマ選定	先行研究	課題発掘		
-------	-------	------	------	--	--

到達目標	想定する「課題」の歴史的背景を確認する。(30%)				
	想定する「課題」の今日的課題を確認する。(40%)				
	論文の構想をレポート(ただし日本語)をまとめる。(30%)				

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力(社会性の向上)	
カリキュラムポリシー	幅広く多様な専門知識の修得	

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	後期の研究方法を説明。学生は、仮決めした研究テーマをおおまかに説明する（プレゼンテーション）。チーム内でフィードバックを行う。	
	【予習】現時点で想定しているテーマをなぜ選んだのか、どのような研究をしたいのかを、チーム内で説明できるように準備する。	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第2回	前回のチーム内のフィードバックを経て、展開させた内容を発表する。チーム内でフィードバックを行う。	
	【予習】前回から発展させた構想を発表できるように準備する。	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第3回	前回までの構想に参照できる先行研究を発表。チーム内でフィードバックを行う。先行研究や情報集の方法をチームで検討する。	
	【予習】参照できる先行研究を探し出し、リスト作り、発表の準備をする。	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第4回	現時点で想定しているテーマの歴史的背景を発表する。	
	【予習】テーマの歴史的背景を探す。	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第5回	現時点で想定しているテーマの今日的課題を発表する。チーム内でフィードバックを行う。	
	【予習】現時点で想定しているテーマの今日的課題を発表するために情報収集し、文書に要約する。	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第6回	チーム・メンバーのための情報収集を行い、チーム・メンバーの代理として発表する。チーム内でフィードバックを行う。	
	【予習】自分ではなく、チーム・メンバーのテーマのために情報収集したものを発表する準備を行う。対象は新聞、雑誌、データベースとする。	
	【復習】チーム・メンバーが行った発表内容と、それに対する自身のフィードバックを文書化する。	
第7回	6回までの考察をもとにした、現時点での研究テーマを発表。チーム内でフィードバックを行う。	
	【予習】現時点で変化した、あるいは変化しなかった「想定テーマ」をなぜ選んだのか、どのような研究をしたいのかを、チーム内で説明できるように準備する。	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第8回	前回のチーム内のフィードバックを経て、展開させた内容を発表する。チーム内でフィードバックを行う。	
	【予習】	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第9回	テーマの掘り下げを進める。	
	【予習】	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	

第10回	テーマの掘り下げを進める。	
	【予習】	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第11回	テーマの掘り下げを進める。	
	【予習】	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第12回	テーマの掘り下げを進める。	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	テーマの掘り下げを進める。	
	【予習】	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第14回	前期研究分のテーマを集約し、構想を発表する。チーム内でフィードバックを行う。	
	【予習】	
	【復習】自身のプレゼンテーションの内容とフィードバックを文書化する。	
第15回	前期研究分のテーマをまとめ、発表する。	
	【予習】前期中に検討した内容でレポートを作成する。発表後に提出。	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	課題・提出物(50%) 授業内活動(20%) 期末レポート(30%)により評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。		
使用資料 <テキスト>		使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	発表する課題及びフィードバックを反映させた文書(暫定的レポート)を、毎回提出する。		
授業外質問方法	基本的に授業終了後の時間枠に対面で受ける。		
オフィス・アワー	木曜日2限、422研究室。		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G5603P02
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 総合		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	渡部 恵子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	日米の文化交流などに関する論部を輪読し、英語の論文の構成について学ぶ。			
-------	-------------------------------------	--	--	--

キーワード	ソフトパワー	文化	外交	日米関係	国際交流
-------	--------	----	----	------	------

到達目標	自分の論文に引用する情報をデータベースなどから自由に引き出せる。
	引用する情報の信頼度を見抜き、適切に引用できる。
	パラグラフライティングが、実際の英語論文でどのように表現されているか理解している。

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）	4.社会人としての能力（社会性の向上）
カリキュラムポリシー	国際人に必要な外国語能力の向上	現代社会に必要な基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	講義の概要を説明。ゼミの学生は自分の関心を持つテーマについて各自書き出し、それを仲間とシェアする。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第2回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第3回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第4回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第5回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集の、教員が指定する箇所について読んでくる。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第6回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第7回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集の、教員が指定する箇所について読んでくる。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第8回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第9回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	

第10回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方に特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第11回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方に特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第12回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方に特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第13回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方に特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第14回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方に特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第15回	教科書の教員が指定した部分を輪読する。その際、論文の構成、使用・引用されている資料の内容や引用の仕方に特に注目する。	
	【予習】教科書として使用する論文集などについて、教員が指定する箇所を読んでおく。	
	【復習】既習部分について不明な点がないか確認し、あれば次回講義まで（ないしは次回講義時）に質問するなどして解決する。	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業内活動（５０％）、期末課題（５０％）		
使用資料 <テキスト>	"Soft Power Superpowers" (Yasushi Watanabe, David L McConnell, 2008	使用資料 <参考図書>	" Writing Essays from Paragraph to Essay " (Dorothy E. Zemach, Lisa A. Ghulldu, 2011
授業外学修等	自分が興味を持つテーマについての報道記事や論文を集める。		
授業外質問方法	授業後などに対面で、または電子メールで。		
オフィス・アワー	火曜２限 研究室（４３３）で。		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G5603P02
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 総合		
------	-------------------	--	--

職名	准教授	担当教員名	Mark Frank
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	4限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	This class will prepare students for doing local research in Japanese and English.			
-------	--	--	--	--

キーワード	Fieldwork	Rhetoric	Local research	Writing
-------	-----------	----------	----------------	---------

到達目標	Students will gain the ability to do fieldwork in Japanese and summarize this work in English.			
	Students will be able to assemble relevant data gathered from fieldwork and create meaningful materials in English.			
	Student will develop communication skills both in English and in Japanese that will help not only in writing a graduation thesis but also in finding employment and becoming a member of society.			

ディプロマポリシー	2.国際人としての能力（専門性の向上）
カリキュラムポリシー	専門分野に共通する基礎知識の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	Introduction to class; registration guidance.	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	Introduction of project plan; assignment of groups and roles.	
	【予習】	
	【復習】	
第3回	Background research on Toyama sake making industry.	
	【予習】	
	【復習】	
第4回	Fieldwork #1.	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	Fieldwork #2.	
	【予習】	
	【復習】	
第6回	Fieldwork #3.	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	Fieldwork #4.	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	Summary and reflection of fieldwork so far.	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	Fieldwork #5.	
	【予習】	
	【復習】	

第10回	Fieldwork #6.	
	【予習】	
	【復習】	
第11回	Fieldwork #7.	
	【予習】	
	【復習】	
第12回	Fieldwork #8.	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	Fieldwork #9.	
	【予習】	
	【復習】	
第14回	Summary and reflection of fieldwork so far.	
	【予習】	
	【復習】	
第15回	Summary and reflection; making plans for semester two.	
	【予習】	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	Grading will be based on the following criteria: fieldwork reports; fieldwork participation; fieldwork transcriptions and summaries.		
使用資料 <テキスト>		使用資料 <参考図書>	
授業外学修等			
授業外質問方法	Via email or Line.		
オフィス・アワー	Wednesday, 9:00-10:30		

授業科目名	専門演習 ・ a	科目コード	G5603P02
英文名	Major Seminar I a		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 総合		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	堀川 真理子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	火曜日	時限	3限目
開講時期	3年前期	授業の方法	演習
必修・選択	専攻必修	単位数	2単位

授業の概要	注目する課題を、複数の角度からとらえ、その内容を文章にまとめる作業を繰り返す。(企業での実績あり)		
-------	---	--	--

キーワード	テーマ選定	先行研究	フィールドワーク	
-------	-------	------	----------	--

到達目標	想定テーマを、「よい社会を考える」視点でとらえられる。(40%)		
	情報収集の手段としてのニュース媒体、データベースの利用法を習得する。(20%)		
	テーマを切り口ごとに文書にまとめ、発表できる。(40%)		

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力(社会性の向上)	
カリキュラムポリシー	現代社会に必要な基礎知識の向上	

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	コースの流れを説明。チームメンバーの想定テーマを互いに聞く。	
	【予習】現時点で考えているテーマをまとめる。	
	【復習】	
第2回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第3回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を討議する。データベースの使い方を学ぶ。	
	【予習】課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第4回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第5回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第6回	中間報告会。各人がこの時点でのテーマを発表。	
	【予習】想定テーマを再検討し、必要があれば、方向を修正する。現時点でのテーマの研究内容をまとめ、発表の準備をする。	
	【復習】	
第7回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第8回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第9回	テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	

第10回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】 課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第11回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】 課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第12回	テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】	
	【復習】	
第13回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を討議する。	
	【予習】 課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第14回	各人が課題発表。テキストを読み、具体的事例を探す。	
	【予習】 課題を調査し、発表の準備をする。	
	【復習】	
第15回	最終レポートの発表。前期のまとめ	
	【予習】 レポートの作成と発表準備。後期のフィールドワークの検討を含める。	
	【復習】	
第16回		
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	授業内課題・提出物(50%) 授業内活動(20%) 期末レポート(30%)により評価する。 到達目標に関しては、富山国際大学成績評価基準に従って評価する。		
使用資料 <テキスト>	「良き社会のための経済学」(ジャン・ティロール、日本経済新聞出版)、「ハーバ	使用資料 <参考図書>	「異文化理解力」(エリン・メイヤー、英治出版)
授業外学修等	各人は、毎週、自分の想定テーマに関連したニュースを要約して発表する。インターネットやネットやテレビなどで初報を得た場合も、必ず新聞やデータベースで記事を探し出し、提示すること。課題は必ず文書にまとめ、クラス終了時に提出する。		
授業外質問方法	基本的に授業終了後の時間枠に対面で受ける。		
オフィス・アワー	木曜日2限、422研究室。		

授業科目名	インターンシップ	科目コード	G5607F01
英文名	Internship		

科目区分	英語国際キャリア専攻科目 - 総合		
------	-------------------	--	--

職名	教授	担当教員名	尾畑 納子
学部	現代社会学部	学科	現代社会学科
曜日	集中講義	時限	集中講義
開講時期	1年・2年・3年・4年前期・後期	授業の方法	講義
必修・選択	選択	単位数	2単位

授業の概要	<p>本学においてインターンシップとは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」を指し、事前に学生が取り組む課題を設定し、それに基づき企業や各種機関において短期間の実習・研修を行う制度のことをいう。今日、国際化や情報化の急速な進展、あるいは社会や産業構造の激しい変化により、雇用環境も大きく変わりつつある。その中において、人材育成の核となる大学には、社会人基礎力を有する人材はもちろん、社会や産業界・企業のニーズに応える人材育成を目指した教育機能の一層の拡充・強化が求められている。このような要請に応えるために、本学のインターンシッププログラムは、産学官の連携により、学生のキャリア形成教育の一環として実施されるものである。</p>		
-------	--	--	--

キーワード	インターンシップ	企業研究		
-------	----------	------	--	--

到達目標	高い職業意識の育成・啓発：実習・研修を通じ、仕事とは何か、ビジネスはどのように形作られていくのか等についての理解を深め、自らの職業適性や将来設計を考える機会を得る。		
	学習意欲の向上・教育効果の実現：実習・研修を通じ、これまで大学で学んできたことを確かめるとともに、自らの専攻や研究と関連のある問題や課題を見出し、専門分野への学習意欲を高めたり、深化させたりする。		
	自主性・責任感のある人材の育成：現実の組織・職場の厳しさを体験することによって、社会人としての自覚を促すとともに、自主性・責任感のある人材の育成に役立てる。		

ディプロマポリシー	4.社会人としての能力（社会性の向上）	
カリキュラムポリシー	専門性をさらに高める実習・演習	キャリア・実務能力の向上

キー・コンピテンシー（重視する能力）				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力

教授方法（授業方法）					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学修指導・自主活動

授業計画

回数	授業内容 詳細	標準時間
第1回	ガイダンス	
	【予習】	
	【復習】	
第2回	事前研修（1）企業説明会への参加（富山県インターンシップ推進センター主催説明会）	
	【予習】インターンシップ研修参加希望企業につき予習をしておくこと	30分
	【復習】説明会で学んだ企業情報を整理しておくこと	30分
第3回	事前研修（2）インターンシップ参加の心得	
	【予習】	
	【復習】企業研究ノートを作成し、整理しておくこと	30分
第4回	事前研修（3）マナー講座（身だしなみ）	
	【予習】	
	【復習】	
第5回	事前研修（4）テーマ発表	
	【予習】インターンシップ参加にあたり設定したテーマに関するプレゼンテーションを準備しておくこと	90分
	【復習】テーマ発表で受けたアドバイスにもとづき修正点、改善点につき検討しておくこと	30分
第6回	事前研修（5）マナー講座（マナー研修Part1）	
	【予習】	
	【復習】	
第7回	事前研修（5）マナー講座（マナー研修Part2）	
	【予習】	
	【復習】	
第8回	事前研修（6）事前面談（就職アドバイザーとの個人面談）	
	【予習】	
	【復習】	
第9回	企業研修（1）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分

第10回	企業研修（2）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第11回	企業研修（3）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第12回	企業研修（4）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第13回	企業研修（5）	
	【予習】	
	【復習】日報の作成	60分
第14回	事後研修（1） 報告書の作成	
	【予習】日報や企業研究ノートをもとに報告書の原案を作成しておくこと	90分
	【復習】教員による添削をもとに報告書を修正すること	60分
第15回	事後研修（2）研修報告会	
	【予習】研修成果に関するプレゼンテーション内容を準備しておくこと	60分
	【復習】	
第16回	事後研修（3）インターンシップ学内報告会	
	【予習】	
	【復習】	

評価方法	事前・事後研修、研修先での実習・研修に対する評価、事後レポートを総合的に判断する。		
使用資料 <テキスト>	適宜資料を配布する。	使用資料 <参考図書>	
授業外学修等	インターンシップ申込み、実習方法等は受入企業により異なるため、自主性・責任感をもって取り組んでください。		
授業外質問方法	質問にはオフィスアワー以外にも対応します（メール可）。		
オフィス・アワー	木曜日3限		